

介護現場における生産性向上について

厚生労働省 老健局高齢者支援課
介護業務効率化・生産性向上推進室

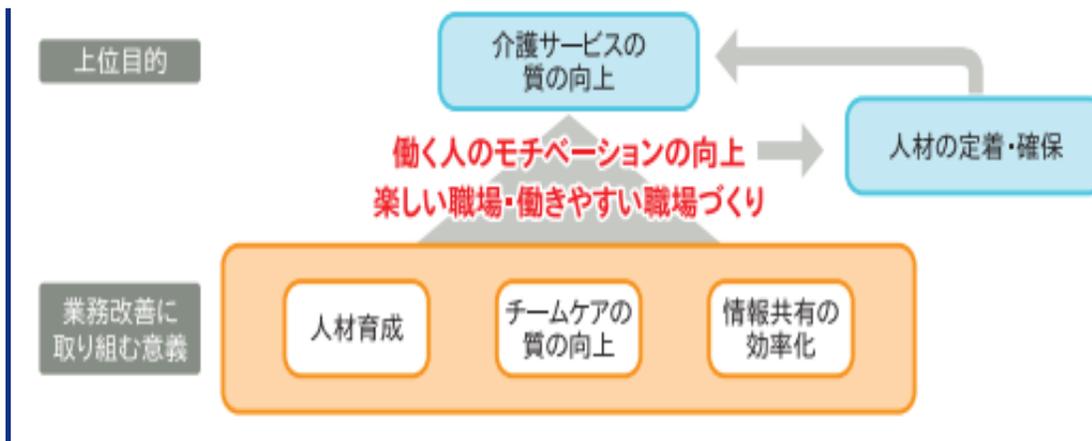
介護現場における生産性向上（業務改善）の捉え方と生産性向上ガイドライン

一般的な生産性向上の捉え方

- 業務のやり方を工夫することで、現在の業務から「ムリ」「ムダ」「ムラ」をなくし、業務をより安全に、正確に、効率的に行い、負担を軽くすることを目的として取り組む活動のこと。
- 生産性（Output（成果）/Input（単位投入量））を向上させるには、その間にあるProcess（過程）に着目することが重要



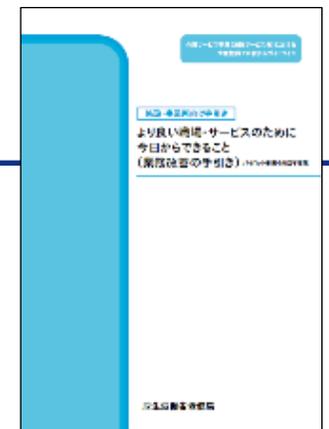
介護サービスにおける生産性向上の捉え方



介護現場における生産性向上とは、介護ロボット等のテクノロジーを活用し、業務の改善や効率化等を進めることにより、**職員の業務負担の軽減を図るとともに**、業務の改善や効率化により生み出した時間を直接的な介護ケアの業務に充て、利用者と職員が接する時間を増やすなど、**介護サービスの質の向上にも繋げていくこと**

生産性向上に資するガイドラインの作成

- 事業所が生産性向上（業務改善）に取り組むための指針としてガイドラインを作成。
 - より良い職場・サービスのために今日からできること（自治体向け、施設・事業所向け）
 - 介護の価値向上につながる職場の作り方（居宅サービス分）
 - 介護サービスの質の向上に向けた業務改善の手引き（医療系サービス分）



<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-seisansei.html>

【介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン】

より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き） （介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン）

① 職場環境の整備

取組前



取組後



② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない



業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上



介護職員が
専門能力を発揮
介護助手
が実施

② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい



職員の心理的
負担を軽減



③ 手順書の作成

職員によって異なる
申し送り



申し送りを
標準化



④ 記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記



タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有

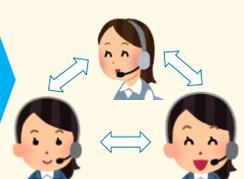


⑤ 情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示



インカムを利用した
タイムリーな
情報共有



⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある



教育内容と
指導方法を統一



⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない



組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動



全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法等の一部を改正する法律案 における介護保険関係の主な改正事項

I. 介護情報基盤の整備

- **介護保険者が被保険者等に係る医療・介護情報の収集・提供等を行う事業を医療保険者と一体的に実施**
 - 被保険者、介護事業者その他の関係者が当該被保険者に係る介護情報等を共有・活用することを促進する事業を介護保険者である市町村の地域支援事業として位置付け
 - 市町村は、当該事業について、医療保険者等と共同して国保連・支払基金に委託できることとする
※共有する情報の具体的な範囲や共有先については検討中。

II. 介護サービス事業者の財務状況等の見える化

- **介護サービス事業所等の詳細な財務状況等を把握して政策立案に活用するため、事業者の事務負担にも配慮しつつ、財務状況を分析できる体制を整備**
 - 各事業所・施設に対して詳細な財務状況（損益計算書等の情報）の報告を義務付け
※職種別の給与（給料・賞与）は任意事項。
 - 国が、当該情報を収集・整理し、分析した情報を公表

III. 介護サービス事業所等における生産性の向上に資する取組に係る努力義務

- **介護現場における生産性の向上に関して、都道府県を中心に一層取組を推進**
 - 都道府県に対し、介護サービス事業所・施設の生産性の向上に資する取組が促進されるよう努める旨の規定を新設 など

IV. 看護小規模多機能型居宅介護のサービス内容の明確化

- **看多機について、サービス内容の明確化等を通じて、更なる普及を進める**
 - 看多機のサービス内容について、サービス拠点での「通い」「泊まり」における看護サービス（療養上の世話又は必要な診療の補助）が含まれる旨を明確化 など

V. 地域包括支援センターの体制整備等

- **地域の拠点である地域包括支援センターが地域住民への支援をより適切に行うための体制を整備**
 - 要支援者に行う介護予防支援について、居宅介護支援事業所（ケアマネ事業所）も市町村からの指定を受けて実施可能とする など

介護サービス事業所等における生産性の向上に資する取組に係る努力義務

改正の趣旨

- ・介護現場において、生産性向上の取組を進めるためには、一つの介護事業者のみの自助努力だけでは限界があるため、**地域単位で、モデル事業所の育成や取組の伝播等を推進していく必要がある**。一方、事業者より、「地域においてどのような支援メニューがあるのか分かりにくい」との声があるなど、**都道府県から介護現場に対する生産性向上に係る支援の取組の広がり**が限定的となっている実態がある。
- ・都道府県を中心に一層取組を推進するため、**都道府県の役割を法令上明確にする改正を行う**とともに、**都道府県介護保険事業支援計画において、介護サービス事業所等における生産性向上に資する事業に関する事項を任意記載事項に加える改正を行う**。

改正の概要・施行期日

- ・**都道府県に対する努力義務規定の新設**
都道府県に対し、介護サービスを提供する事業所又は施設の生産性の向上に資する取組が促進されるよう努める旨の規定を新設する。
- ・**都道府県介護保険事業支援計画への追加**
都道府県介護保険事業支援計画の任意記載事項に、介護サービス事業所等の生産性の向上に資する事業に関する事項を追加する。
※ 市町村介護保険事業計画の任意記載事項についても、生産性の向上に資する都道府県と連携した取組に関する事項を追加する。
- ・施行期日：令和6年4月1日

介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージについて

令和4年12月23日 厚生労働省

- 持続的な介護職員の待遇改善を実現するためには、個々の事業者における経営改善やそれに伴う生産性の向上が必要であり、具体的には、取組の横展開や働きかけの強化等、総合的に取り組むことが重要。
- 中小事業者も多い、介護事業者の職場環境づくりを全政府的な取組と位置づけ、自治体や事業者も巻き込んで推進し、その成果を、従業員の賃金に適切に還元していただくことについて期待。

(1) 総合的・横断的な支援の実施

① 介護現場革新のワンストップ窓口の設置

事業者への様々な支援メニューを一括し、適切な支援につなぐワンストップ窓口を各都道府県に設置。中小企業庁の補助金の活用促進。

② 介護ロボット・ICT機器の導入支援

課題に対応した代表的な導入モデルを紹介するとともに、①のワンストップ窓口と連携して、相談対応、職員向け研修など伴走支援を進める。

(2) 事業者の意識改革

③ 優良事業者・職員の表彰等を通じた好事例の普及促進

職員の待遇改善・人材育成・生産性の向上などに取り組む事業者・職員を総理大臣が表彰等する仕組みを早期に導入し、優良事例の横展開を図る。

④ 介護サービス事業者の経営の見える化

介護サービス事業者の財務状況や処遇改善状況の見える化を進め、経営改善に向けた動機付けを進める。

(3) テクノロジーの導入促進と業務効率化

⑤ 福祉用具、在宅介護におけるテクノロジーの導入・活用促進

在宅介護の情報共有や記録の円滑化などについて、調査研究を進め、活用を促進する。また、福祉用具貸与等の対象種目の追加について、評価検討を進める。

⑥ 生産性向上に向けた処遇改善加算の見直し

未取得事業者の取得促進を図るとともに、加算手続の簡素化や制度の一本化について検討。

⑦ 職員配置基準の柔軟化の検討

実証事業などでのエビデンス等を踏まえつつ、テクノロジー導入に先進的に取り組む介護施設における職員配置基準（3:1）の柔軟な取扱い等を検討。

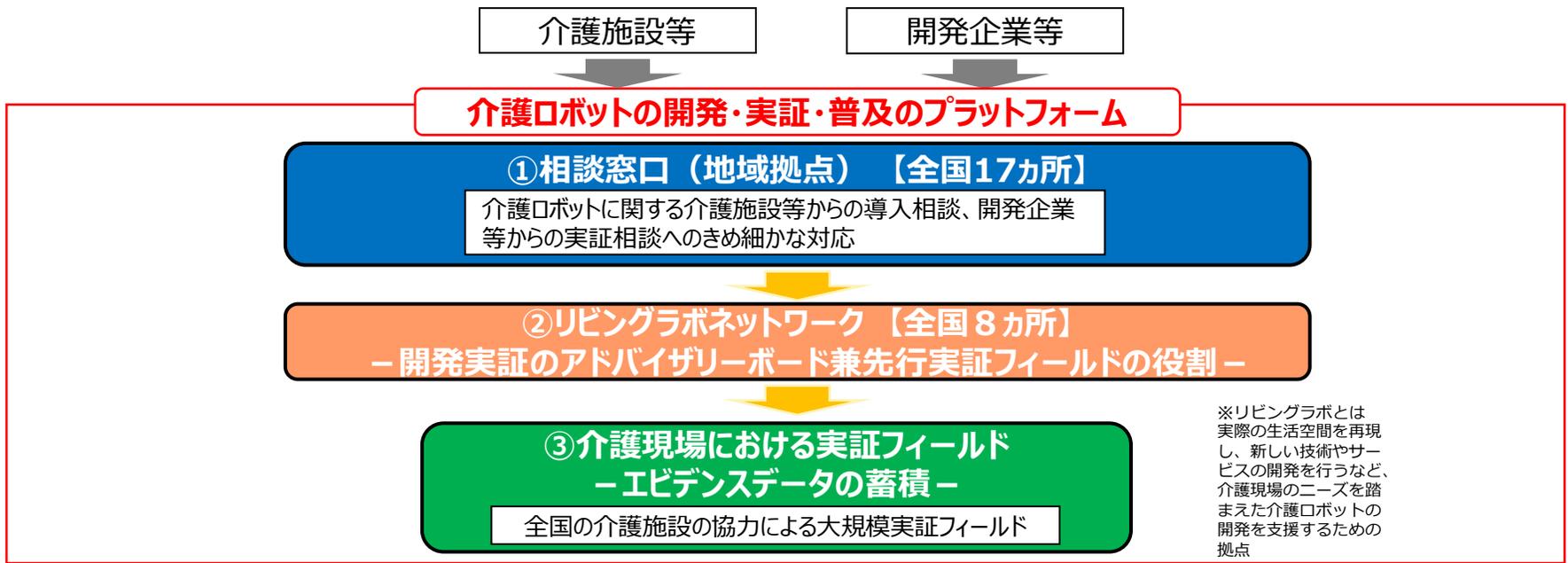
⑧ 介護行政手続の原則デジタル化

今年10月から運用開始した電子申請・届出システムの利用原則化に取り組む。

介護ロボット開発等加速化事業 (介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム)

令和5年度予算額(令和4年度当初予算)
5.0億円(5.0億円)
(参考)令和4年度第2次補正予算:3.9億円

- 介護現場において、テクノロジーの活用などによるサービスの質の向上や職員の負担軽減といった生産性向上の推進は喫緊の課題となっており、見守りセンサーやICT等といった生産性向上に効果的なテクノロジーの普及をより強力に進めていく。
- 具体的には、①介護現場・ロボット開発企業の双方に対する一元的な相談窓口(地域拠点)、②開発機器の実証支援を行うリビングラボのネットワーク、③介護現場における実証フィールドからなる、介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォームを整備する。



<感染症対策に資する非接触対応に効果的なテクノロジーの例>

<見守りセンサー>

居室内の利用者の状況(ベッドから離れた場合や転倒した場合等)をセンサーで感知
→遠方から効率的な見守りが可能になる。



<ICT(インカム)>

遠方にいながら職員間での利用者の状況の共有が可能になる。



<移乗支援(非装着型)>

利用者の抱え上げをロボットが代替し、接触対応が軽減される。



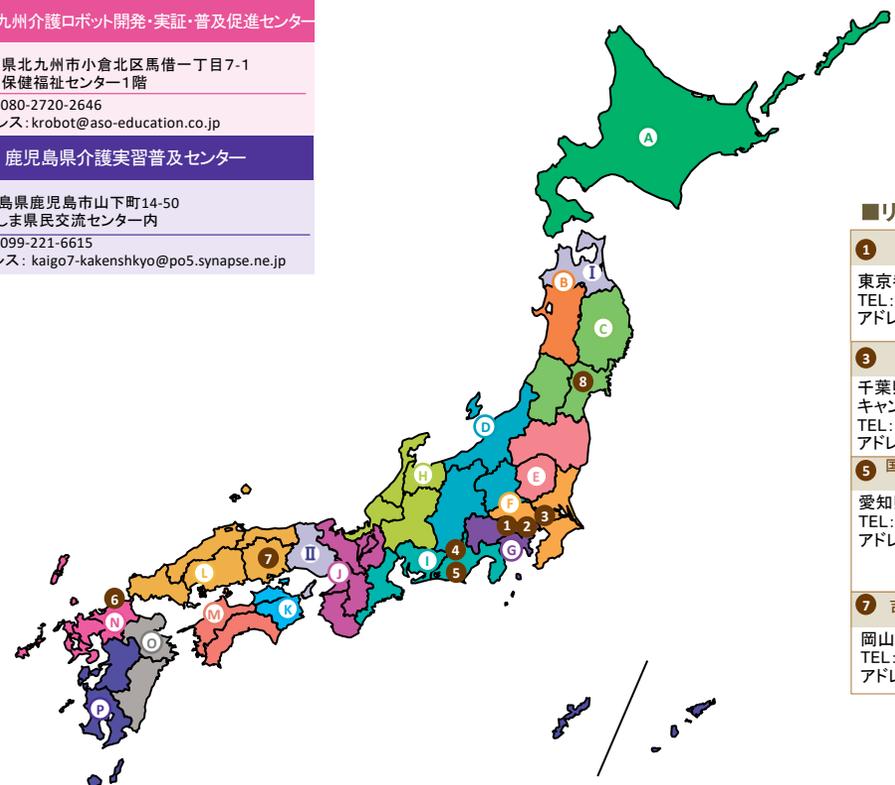
令和5年度介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム 相談窓口・リビングラボ一覧

■拠点相談一覧■（16カ所）

A 社会福祉法人 北海道社会福祉協議会 北海道介護ロボット普及推進センター 北海道札幌市中央区北6条西16丁目1番地5 ほくたけビル TEL: 070-5608-6877 アドレス: tani15@hokutakehd.jp	B 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会 青森県介護啓発・福祉機器普及センター 青森県青森市中央3丁目20-30 TEL: 017-777-0012 アドレス: robot@aosyakyo.or.jp	C 公益財団法人いきいき岩手支援財団 岩手県高齢者総合支援センター 岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3階 TEL: 019-625-7490 アドレス: ikrobo@silverz.or.jp	D 新潟県福祉機器展示室 介護ロボット相談窓口 新潟県新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニオンプラザ3階 TEL: 025-378-5221 アドレス: aoyama@aoyama-medical.co.jp
E とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具・介護ロボット相談・活用センター 運営主体 NPO法人とちぎノーマライゼーション研究会 栃木県宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ1F TEL: 028-627-2940 アドレス: info@normalization.jp	F 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 介護すまいる館 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 TEL: 048-822-1195 アドレス: kaigosmile@fukushi-saitama.or.jp	G 社会福祉法人 横浜リハビリテーション事業団 横浜総合リハビリテーションセンター 介護ロボット相談窓口 神奈川県横浜市港北区鳥山町1770 TEL: 045-473-0666(代) 問い合わせ先: http://www.yrc-pf.com	H 社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 福祉カレッジ 介護実習・普及センター 富山県富山市安住町5番21号 TEL: 076-403-6840 アドレス: robot@wel.pref.toyama.jp
I 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 愛知県大府市森岡町7-430 TEL: 0562-46-2311 アドレス: rehab@ncgg.go.jp	J ATCエイジレスセンター 介護ロボット相談窓口 大阪府大阪市住之江区南港北2-1-10 TEL: 06-6615-5123 アドレス: info@ageless.gr.jp	K 社会福祉法人 健祥会 徳島県介護実習・普及センター 徳島県徳島市国府町東高輪字天満356番地1 TEL: 088-642-5113 アドレス: presen@kenshokai.group	L 一般社団法人 日本福祉用具供給協会 広島県ブロック 広島県広島市安佐南区大町東1-18-44 TEL: 082-877-1079 アドレス: jimukyoku@fukushiyogu-hiroshima.jp
M 愛媛県介護実習・普及センター 愛媛県松山市持田町3-8-15 愛媛県総合社会福祉会館内 TEL: 089-921-5140 アドレス: chouju@ehime-shakyo.or.jp	N 九州介護ロボット開発・実証・普及促進センター 福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目7-1 総合保健福祉センター1階 TEL: 080-2720-2646 アドレス: krobot@aso-education.co.jp	O 社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 大分県社会福祉介護研修センター 大分県介護ロボット普及推進センター 大分県大分市明野東3-4-1 TEL: 097-574-4571 アドレス: oita-kaigorobot@okk.or.jp	P 鹿児島県介護実習普及センター 鹿児島県鹿児島市山下町14-50 かごしま県民交流センター内 TEL: 099-221-6615 アドレス: kaigo7-kakenshkyo@po5.synapse.ne.jp

■総合相談センター（2カ所）

I 青森県(仮)介護現場向上 総合相談センター TEL: 017-777-0012 FAX: 017-777-0015
II 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団 兵庫県立福祉のまちづくり研究所 兵庫県神戸市西区曙町1070 TEL: 078-925-9282 アドレス: robo-shien@assistech.hwc.or.jp



■リビングラボ一覧■（8カ所）

1 Care Tech ZENKOUKAI Lab (社会福祉法人 善光会 サンタフェ総合研究所) 東京都大田区東糀谷六丁目4番17号 TEL: 03-5735-8080 アドレス: sfri@zenkoukai.jp	2 Future Care Lab in Japan (SOMPOホールディングス株式会社) 東京都品川区東品川4-13-14 グラスキューブ品川10階 TEL: 03-5781-5430 問い合わせ先: https://futurecarelab.com/
3 柏リビングラボ (国立研究開発法人 産業技術総合研究所) 千葉県柏市柏の葉6-2-3 東京大学柏II キャンパス内 社会イノベーション棟 TEL: 029-861-3427 アドレス: M-living-lab-ml@aist.go.jp	4 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム・ 活動支援機器研究実証センター 愛知県豊明市沓掛町田楽ケ窪1番地98 藤田医科大学病院内 TEL: 0562-93-9720 アドレス: cent-rsh@fujita-hu.ac.jp
5 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 健康長寿支援ロボットセンター 愛知県大府市森岡町7-430 TEL: 0562-46-2311 アドレス: carrl@ncgg.go.jp	6 スマートライフケア共創工房 (国立大学法人 九州工業大学) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター TEL: 093-603-7738 アドレス: slc3lab-technical-support@brain.kyutech.ac.jp
7 吉備高原医療リハビリテーションセンター 岡山県加賀郡吉備中央町吉川7511 TEL: 0866-56-7141 アドレス: syomu@kibiriah.johas.go.jp	8 青葉山リビングラボ (国立大学法人 東北大学) 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6 アドレス: living-lab@srđ.mech.tohoku.ac.jp

介護生産性向上推進総合事業（地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分））

令和5年度当初予算額：地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）137億円の内数

1 事業の目的

都道府県が主体となって、関係機関との協議会（都道府県介護現場革新会議）の実施、生産性向上や人材確保に関するワンストップ窓口である介護生産性向上総合相談センターの設置等の取組を行うことにより、介護現場における生産性向上や人材確保の取組を推進することを目的とする。

2 事業の概要等

（1）都道府県介護現場革新会議に係る支援（必須）

- 事業内容
 - ① 介護現場革新会議の開催
 - ② 対応方針に基づき実施する事業（実施する場合）
 - ア 地域のモデル施設育成
 - イ 介護業界のイメージ改善
 - ウ その他（介護助手活用支援、外国人人材活用等）
- 補助対象等…会場費、委員旅費・謝金、モデル施設育成のための経費【1事業所あたり対象経費の1/2以内（上限500万円）】（コンサル、介護ロボット・介護ソフト導入、等）

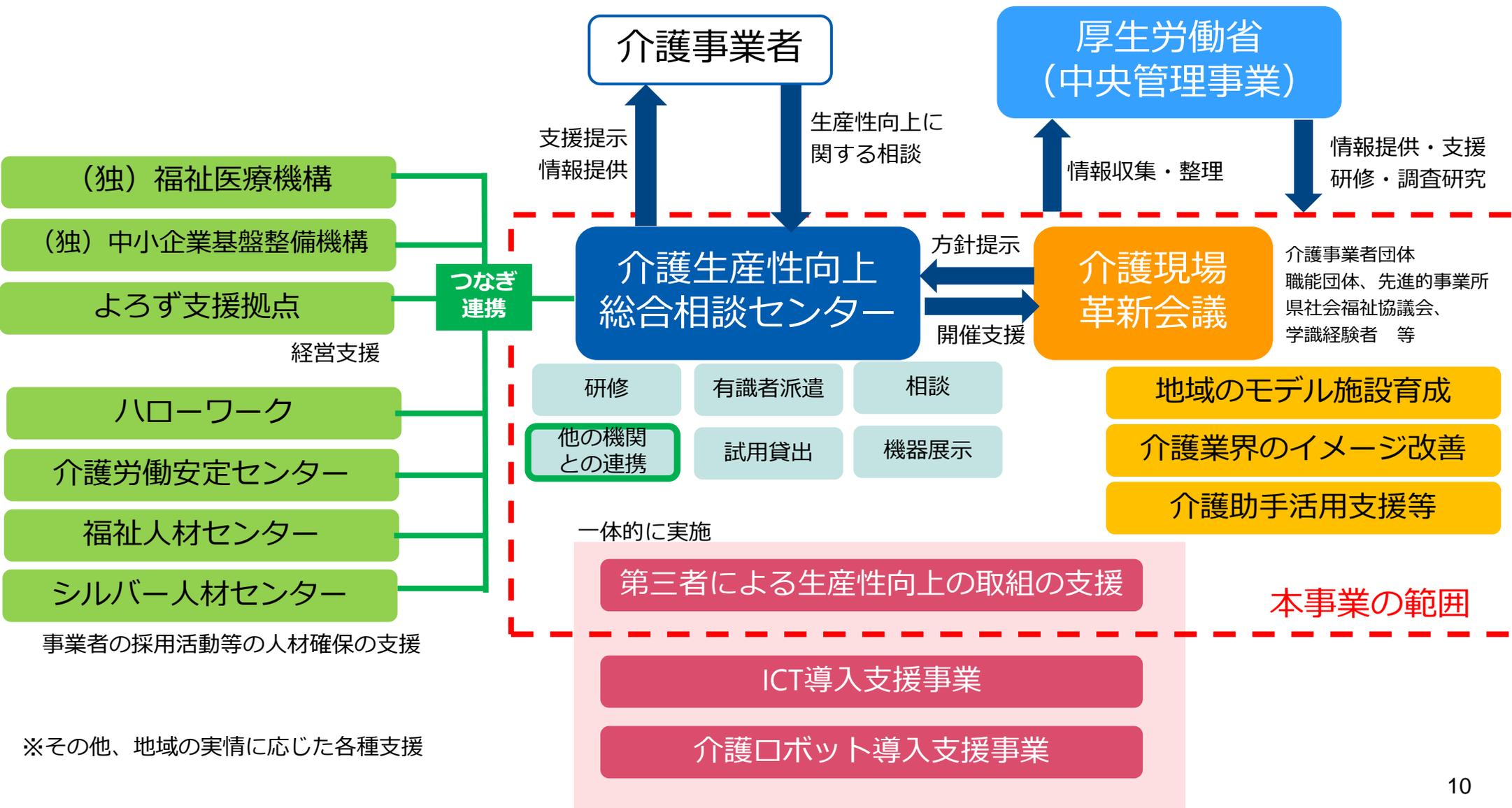
（2）介護生産性向上総合相談センターに係る支援（必須）

- ① 生産性向上の取組に関する研修会（取組手法、ICT活用等）
- ② 生産性向上に取り組む介護事業所に対する有識者の派遣（取組手法に対する助言、取組の見直しに関する助言等）
- ③ 介護事業所からの生産性向上・人材確保の取組等に関する相談対応（生産性向上の考え方や取組方法、課題への解決策等の相談、介護ロボットやICTの導入計画策定支援、電子申請・届出システム、ケアプランデータ連携システムの使用方法等）
- ④ 介護ロボット等の機器展示
- ⑤ 介護ロボットの試用貸出
- ⑥ 他の機関との連携

（3）第三者による生産性向上の取組の支援（市町村が実施することも可）

- 対象事業所…介護事業所（介護保険法に基づく全サービスを対象とする）であって、地域全体における生産性向上に向けた取組の拡大にも資するものとして都道府県又は市町村が認めるもの
- 事業内容…業務改善支援事業者が対象となる介護事業所において ①事前評価（課題抽出）、②業務改善に係る助言・指導等、③事後評価等の支援を行い、それを踏まえた実地による個別支援を3回以上実施。
- 補助額…対象経費の1/2以内（上限30万円）

介護生産性向上推進総合事業（具体的な事業イメージ）



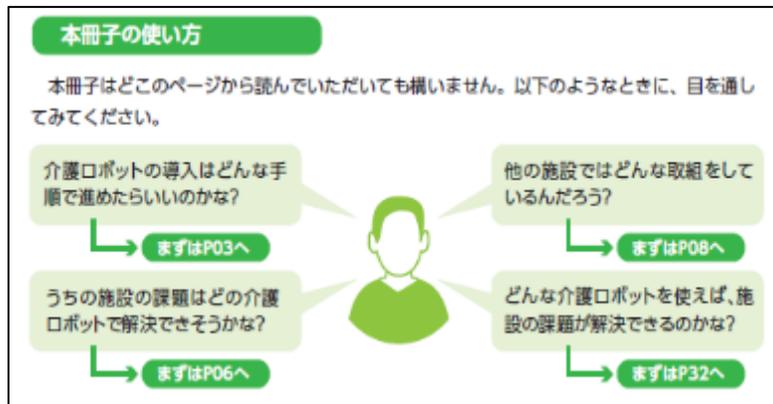
参考：これまで作成した参考資料等

【介護ロボットのパッケージ導入モデル】



生産性向上ガイドラインで示されている業務改善の手順を参考に作成。

各施設・事業所が抱える課題を抽出し、「改善策の取組」の手段（ツール）として介護ロボットの導入・活用を通じて得られた効果などを取組事例としてまとめたもの。

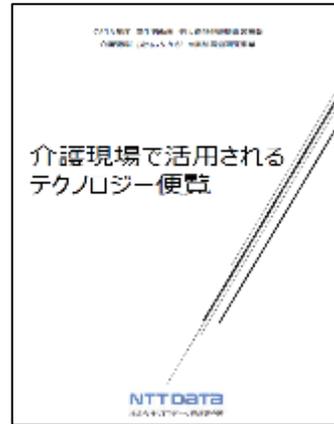


- 介護ロボット導入の手順
- 機器導入のポイント
- 介護現場での取組
 - ・ 課題の抽出・把握
 - ・ 介護ロボットの導入・活用事例（10事例）
 - ・ 改善活動の振り返り
- 付録



<https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/000928398.pdf>

【介護現場で活用されるテクノロジー便覧】



- 課題ごとに機器を掲載
 - 機器ごとに主要機能・導入効果を掲載
- 解決したい課題場面に分けて製品を紹介するもの。

1. 特設付録 活用事例集	3
2. 特設付録 事例集	10
3. 導入前での課題抽出	14
4. 導入前での課題抽出	28
5. 導入前での課題抽出	33
6. 導入前での課題抽出	37
7. 導入前での課題抽出	43
8. 導入前での課題抽出	46
9. 導入前での課題抽出	50
10. 導入前での課題抽出	50



https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16_02jigyohokokusho.pdf

12 ROBOHELPER SASUKE

● 製品概要

株式会社 介護ロボット開発センターが、介護現場での業務改善を目的として開発した、介護現場で活用されるロボットアシスタント「ロボヘルパー サスケ」の紹介ページです。

● 製品概要

介護現場での業務改善を目的として開発した、介護現場で活用されるロボットアシスタント「ロボヘルパー サスケ」の紹介ページです。

● 導入効果

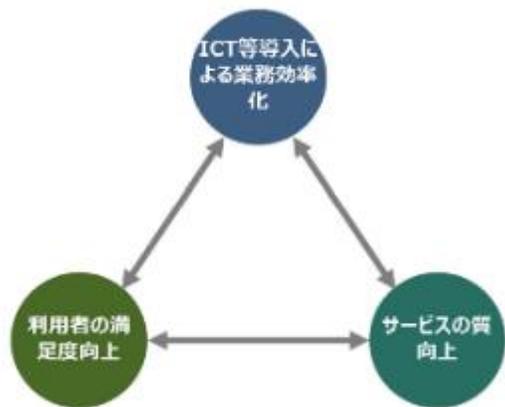
介護現場での業務改善を目的として開発した、介護現場で活用されるロボットアシスタント「ロボヘルパー サスケ」の紹介ページです。

参考：ICT機器等の導入に関する手引き



※令和4年6月発行

図表 6 ICT機器・ソフトウェアの導入の意義



ICT機器・ソフトウェアの導入の全体像の詳細

1 電子保存による文書量削減

- パソコンやタブレット等のICT機器、クラウドサービス等を使って各種文書を電子上で保存
- 事業所内で保管すべき紙の量を削減

2 転記不要（一気通貫）による記録負担軽減

- 介護記録入力、情報共有、報酬事務といった事務が転記不要（一気通貫）で作成できるICT機器やソフトウェアを利用
- 記録の負担を軽減

3 標準仕様の活用によるデータ連携の効率化

- 厚生労働省「居宅介護支援事業所と訪問介護などのサービス提供事業所間における情報連携の標準仕様」（標準仕様）を実装したソフトウェアを導入
- ケアプランのデータ連携の効率化

4 情報共有の促進による介護の質の向上

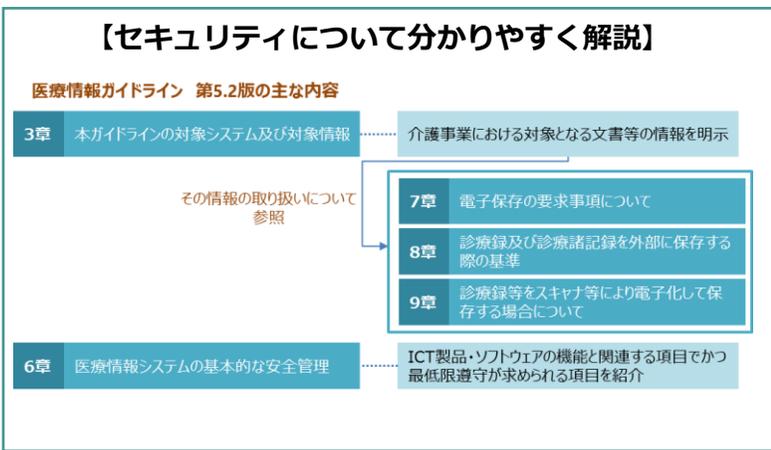
- 医療機関を含む多職種間で記録以外の日々の利用者に関する情報を共有するため、ICT機器・ソフトウェアを活用
- 情報共有が促進され、利用者に対する介護の質が向上

①～④に取り組んでいる事業所や地域の事例を紹介

【導入スケジュール作成の際に考えられる導入プロセス】

①ICT機器・ソフトウェア導入計画の作成	ICT機器・ソフトウェア導入の目的・意義を理解した上で、具体的な実行計画を立てる。
②導入するICT機器・ソフトウェアを検討する	自法人に適したICT機器・ソフトウェアを導入するために、製品機能、価格、効果、サポート・メンテナンスの観点から検討を行う。
③ICT機器・ソフトウェアの導入に伴う業務フローの見直しを行う	ICT機器・ソフトウェアの導入により、業務フローがどのように変わるかについて整理・見直しを行う。
④ICT機器・ソフトウェア導入の際の実施体制を整備する	ICT機器・ソフトウェアを導入の際、法人内外でどのような実施体制をとるかについて検討・整備を行う。
⑤ICT機器・ソフトウェア導入に係る関係者への説明等を行う	ICT機器・ソフトウェアの導入に係る関係者（利用者・家族、他のサービス事業所、職員等）への説明を行う。
⑥ICT機器・ソフトウェア導入に関する職員への研修を行う	ICT機器・ソフトウェアを実際に使用する職員（サービス提供責任者・生活相談員、介護職員等）への説明を行う。
⑦ICT機器・ソフトウェア導入の効果を検証する	ICT機器・ソフトウェアの導入の効果を、定量的・定性的に検証する。

← 同時並行の場合もあり



【厚生労働省ホームページ】
介護現場におけるICTの利用促進
<https://www.mhlw.go.jp/stf/kaigo-ici>



介護ロボット導入支援事業（地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分））

令和5年度当初予算額：地域医療介護総合確保基金137億円（介護従事者確保分）の内数（地域医療介護総合確保基金 137億円の内数）※（）内は前年度当初予算額

1 事業の目的

- 各都道府県に設置される地域医療介護総合確保基金を活用し、介護施設等に対する介護ロボットの導入支援を実施し、介護ロボットを活用した介護事業所の生産性向上の取組を通じて、ケアの質の確保や職員の負担軽減等を図る。

2 事業の概要等

補助対象

- 介護ロボット
 - …移乗支援、移動支援、排泄支援、見守り、入浴支援など、厚生労働省・経済産業省で定める「ロボット技術の介護利用における重点分野」に該当する介護ロボット
- 見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備
 - …Wi-Fi環境の整備、インカム、見守りセンサー等の情報を介護記録にシステム連動させる情報連携のネットワーク構築経費 等

補助内容

※令和2年度（当初予算）以降の拡充分（下線部以外）は令和5年度までの実施

● 補助額

介護ロボット (1機器あたり)	・移乗支援(装着型・非装着型) ・入浴支援	上限100万円
	・上記以外	上限30万円
見守りセンサーの導入に伴う通信環境整備 (1事業所あたり)		上限750万円

● 補助上限台数

…必要台数(制限の撤廃)

● 補助率

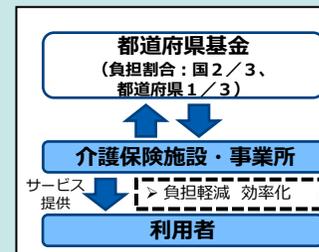
…都道府県の裁量により設定
(一定の要件を満たす場合は3/4を下限、それ以外の事業所は1/2を下限)
(一定の要件) …以下の要件を満たすこと

- ・導入計画書において目標とする人員配置を明確にした上で、見守りセンサーやインカム、介護記録ソフト等の複数の機器を導入し、職員の負担軽減等を図りつつ、人員体制を効率化させる場合

■ 対象となる介護ロボット（例）



■ 事業の流れ



■ 実績（参考）

- 実施都道府県数：45都道府県（令和3年度）
- 都道府県が認めた介護施設等の導入計画件数

H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
58	364	505	1,153	1,813	2,297	2,720

※1施設で複数の導入計画を作成することがあり得る

拡充 ICT導入支援事業（地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分））

令和5年度当初予算額：地域医療介護総合確保基金（介護従事者確保分）137億円の内数（地域医療介護総合確保基金 137億円の内数）
 ※（）内は前年度当初予算額

1 事業の目的

- 各都道府県に設置される地域医療介護総合確保基金を活用し、介護現場のICT化に向けた導入支援を実施し、ICTを活用した介護サービス事業所の業務効率化を通じて、職員の負担軽減を図る

2 事業の概要等

※赤字が令和5年度拡充分。
 ※令和2年度（当初予算）以降の拡充分（下線部以外）は令和5年度までの実施

補助対象

- 介護ソフト…記録、情報共有、請求業務で転記が不要であるもの、**ケアプラン連携標準仕様、入退院時情報標準仕様、看護情報標準仕様**を実装しているもの（標準仕様の対象サービス種別の場合。各仕様への対応に伴うアップデートも含む）、**財務諸表のCSV出力機能を有するもの（機能実装のためのアップデートも含む）**。
- 情報端末…タブレット端末、スマートフォン端末、インカム等
- 通信環境機器等…Wi-Fiルーター等
- その他…運用経費（クラウド利用料、サポート費、研修費、他事業所からの照会対応経費、バックオフィスソフト（勤怠管理、シフト管理等）等）

補助要件

補助上限額等

- 導入計画の作成、導入効果報告（2年間）
- IPAが実施する「SECURITY ACTION」の「★一つ星」または「★★二つ星」のいずれかを宣言
- 以下に積極的に協力すること 等
 - ICTの活用により収支状況の改善が図られた場合においては、職員の賃金に還元すること（導入効果報告により確認）
 - LIFEによる情報収集・フィードバック
 - 他事業所からの照会に対応すること

職員数に応じて都道府県が設定

- 1～10人 100万円
- 11～20人 160万円
- 21～30人 200万円
- 31人～ 260万円

補助割合

- 一定の要件を満たす場合は、3/4を下限に都道府県の裁量により設定
- それ以外の場合は、1/2を下限に都道府県の裁量により設定

補助割合を拡充する要件

〈3/4に拡充(以下のいずれかの要件を満たすこと)〉

- **ケアプランデータ連携システム等の利用**
- LIFEの「CSV連携仕様」を実装した介護ソフトで実際にデータ登録を実施等
- ICT導入計画で文書量を半減



※ケアプランデータ連携システム…国保中央会に構築中。令和5年度本格稼働予定

実績	R1	R2	R3
実施自治体数	15	40	47
補助事業所数	195	2,560	5,371

介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰

表彰の目的

介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰は、職員の待遇改善、人材育成及び介護現場の生産性向上への取組が特に優れた介護事業者を表彰し、その功績をたたえ、広く紹介することを通じ、もって、介護職員の働く環境改善を推進することを目的とする。 ※併せて、厚生労働大臣表彰も実施

選考基準 ※事業者の取組内容等について以下の観点から審査

1 働きやすい職場環境づくりに資する取組であること

- 職員の待遇改善に係る取組がなされているか。
(取組の例)
 - ・明確な給与体系の導入、休暇の取得促進や育児や介護との両立支援に関する制度の導入など、多様な人材が働きやすい環境を整備する取組 等
- 人材育成に係る取組がなされているか。
(取組の例)
 - ・計画的な採用、新規採用職員に対する計画的な研修の実施や職員の経験・役職に応じた研修の実施など職員の人材育成に効果的な取組 等
- 介護現場の生産性向上に係る取組がなされているか。
(取組の例)
 - ・事業所の課題を踏まえた目的を設定し、改善を図るための取組 等

2 実効性のある取組であること

- ・取組の実施により、職員の業務への満足度が高まっているか。
- ・取組の実施により職員の負担軽減、サービスの質の確保が図られているか。
- ・取組の実施に当たり、職員の意見を聞く機会があるか。 等

3 持続性のある取組であること

- ・取組が一過性のものでなく、継続的に取り組む体制や仕組みが整備・検討されているか。 等

4 他の事業所での導入が期待される取組であること

- ・多くの事業所への横展開が期待できる取組であるか。
- ・取組を行おうとする他の事業所に対し、取組の経験のある職員の派遣、取組に係る視察の受け入れを行うなど、取組の横展開に協力的であるか。

スケジュール

2月初旬：実施要綱等の決定・各都道府県へ表彰候補者の推薦依頼

～4月頃：都道府県から表彰候補者の推薦 ※審査基準を踏まえた表彰候補者の選定

具体例：①都道府県において公募、審査を実施の上で表彰候補者を推薦

②管内の関係事業者団体等と協議の上、表彰候補者を推薦 等

6月19日：選考委員会による選定 8/24：表彰式を実施

令和5年度介護職員の働きやすい職場環境づくり 内閣総理大臣表彰・厚生労働大臣表彰優良賞 受賞者について

○ 31都府県より60事業者の推薦があり、6月19日に表彰者を選定するため、表彰選考委員会を開催したところ。審議の結果、「内閣総理大臣表彰」は2事業者、「厚生労働大臣賞 優良賞」は4事業者、「厚生労働大臣賞 奨励賞」は54事業者が選定された。

内閣総理大臣表彰（特に優れた取組を行う事業者） 2事業者

運営法人	事業所・施設名	サービス種別	都道府県
社会福祉法人 友愛十字会	砧ホーム	介護老人福祉施設	東京都
社会福祉法人 宣長康久会	地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすが	地域密着型介護老人福祉施設	富山県

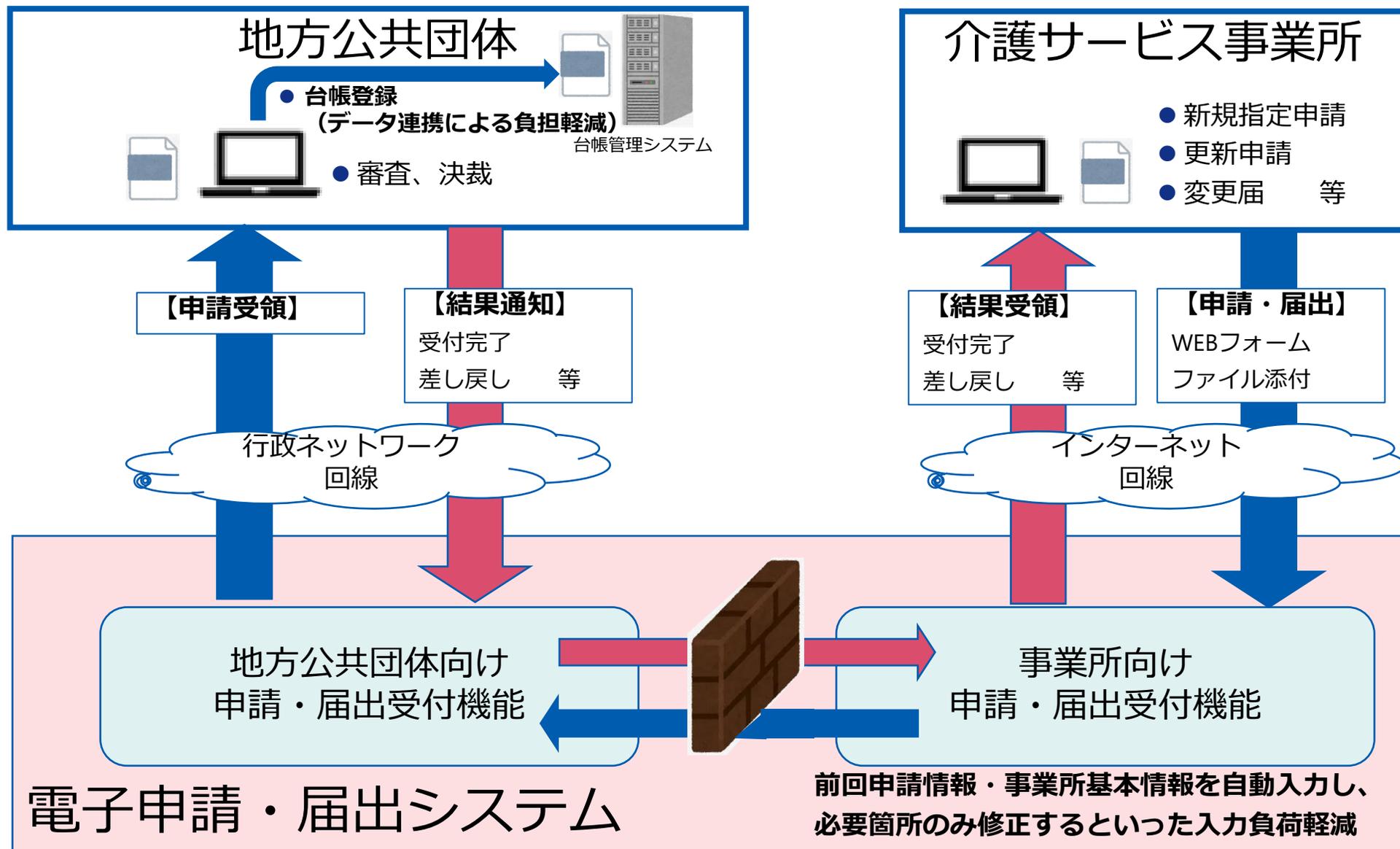
厚生労働大臣表彰 優良賞（優れた取組を行う事業者） 4事業者

運営法人	事業所・施設名	サービス種別	都道府県
社会福祉法人 堺福祉会	特別養護老人ホームハートピア堺	介護老人福祉施設	大阪府
社会福祉法人 リガーレ暮らしの架け橋	地域密着型総合ケアセンターきたおおじ	地域密着型介護老人福祉施設	京都府
医療法人 敬英会	介護老人保健施設さくらがわ	介護老人保健施設	大阪府
社会福祉法人 ライフ・タイム・福島	特別養護老人ホームロング・ライフ	介護老人福祉施設	福島県

厚生労働大臣表彰 奨励賞（上記以外の事業者） 54事業者

電子申請・届出システムについて

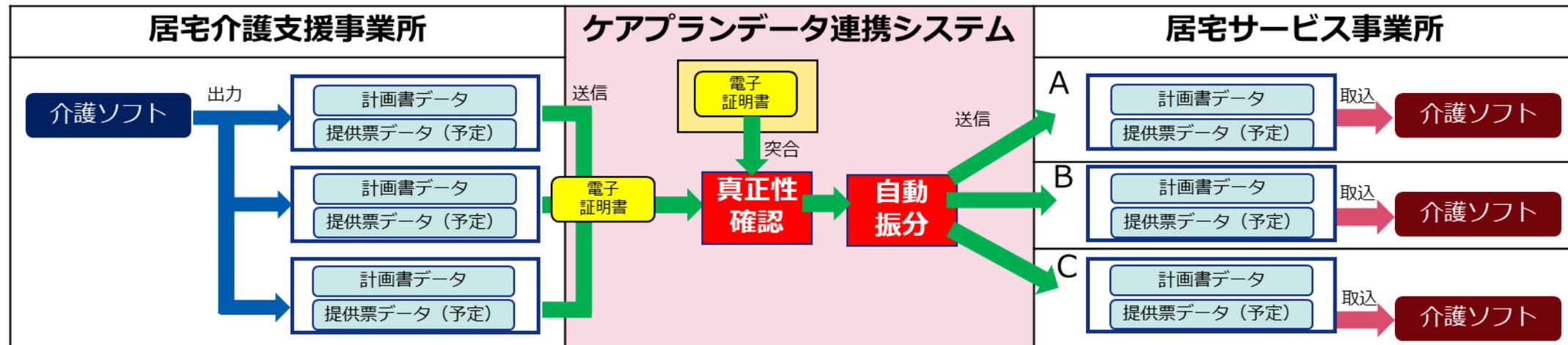
※令和7年度までに、全ての指定権者（約1,800団体）において利用開始・システム利用の原則化



ケアプランデータ連携システムについて

これまで主に毎月FAXでやり取りされ、介護事業所の負担が大きかったケアプラン（提供票）を、クラウド上で安全に電子データのやり取りをするシステムです。**本年4月20日、国民健康保険中央会にて本格稼働！**

【計画・予定情報の流れ】



※実績情報は逆の流れ（居宅サービス事業所→居宅介護支援事業所）となり、予定情報と同様、真正性確認の上、振分けられる。

ケアプランデータ連携システムで期待される効果

- 手間、時間の削減による **事務費等の削減**
- データ自動反映による従業者の「**手間**」の削減・効率化
- 作業にかける「**時間**」の削減
- 従業者の「**心理的負担軽減**」の実現
- 従業者の「**ライフワークバランス**」の改善
- 事業所の「**ガバナンス**」、「**マネジメント**」の向上



イメージキャラクター
ケアプー



ヘルプデスクサポートサイト

令和2年度老人保健健康促進事業「介護分野の生産向上に向けたICTの更なる活用に関する調査研究」結果をもとに試算

人件費 ¥95,218 ※ケアマネジャーの平均給与から、作業に要する時間（52.4時間）を勘案して算出	毎月6.2万円分の業務を他の業務に転嫁可能！ (74.4万円/年 相当)	※印刷費 (¥-792)、郵送料 (¥-2,200)、交通費 (¥-2,140)
印刷費 ¥792 ※用紙 (700枚/月)、インク等	● 新たな業務創出	人件費 ¥32,784 (¥-62,434) ※ケアマネジャーの平均給与から、作業に要する時間（18.1時間/月）を勘案して算出。
通信費 ¥1,826 ※FAX通信費、インターネット接続費	● 利用者宅訪問	通信費 ¥1,044 (¥-782) ※インターネット接続費
郵送料 ¥2,220 ※切手代	● アセスメント 等	ケアプランデータ連携システム ライセンス料 ¥1,750 ※年間ライセンス料 (¥21,000) を按分
交通費 ¥2,140 ※公共交通機関利用料、ガソリン代	【直接的な支出】	介護ソフト利用費 ¥31,417 ※介護ソフトのライセンス料
介護ソフト利用費 ¥31,417 ※介護ソフトのライセンス料	利用前 ¥38,395	※この他、書類保管場所確保に要する費用等の削減も期待できる。
	利用後 ¥34,211	
	削減効果 ¥4,184/月 (¥50,208/年)	



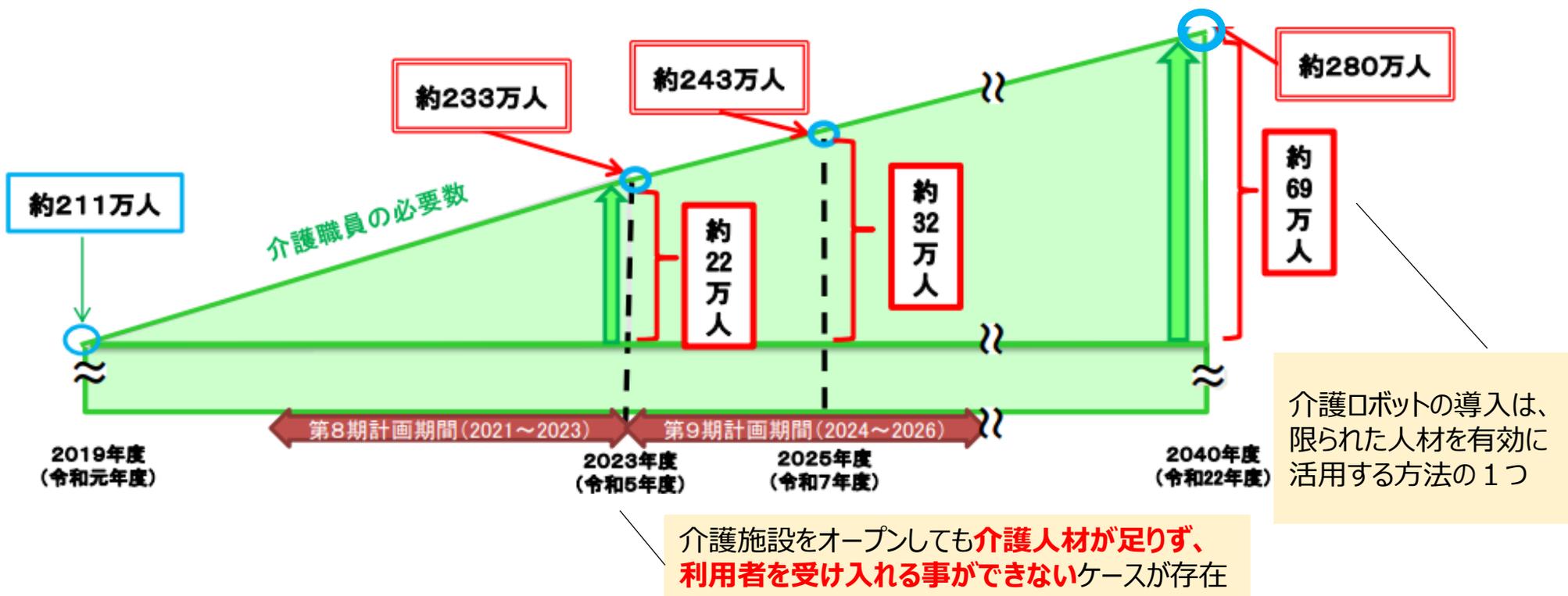
令和2年度老人保健健康促進事業「介護分野の生産向上に向けたICTの更なる活用に関する調査研究」結果をもとに試算

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築 地域における生産性向上の取組

株式会社NTTデータ経営研究所
先端技術戦略ユニット
HealthCare Implementation Group
シニアコンサルタント 山内勇輝

介護現場における深刻な人材不足

介護人材の需給ギャップは、22万人(2023年度)から69万人(2040年度)に拡大すると推計されています。



(出所) 厚生労働省、「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について」より弊社にて一部改変

介護サービス事業（施設サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
(業務改善の手引き) パイロット事業令和2年度版

厚生労働省老健局

居宅サービス分

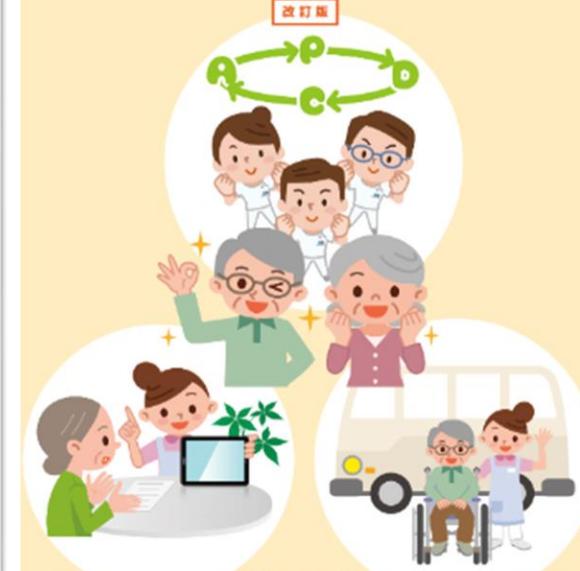
介護サービス事業における
生産性向上に資する
ガイドライン 改訂版

介護の価値向上につながる
職場の作り方

厚生労働省老健局

介護サービス事業（居宅系サービス分）における
生産性向上に資するガイドライン

介護サービスの
質の向上に向けた
業務改善の手引き
改訂版



厚生労働省 老健局

(出典) 厚生労働省HP

一般的な「生産性向上」との違い

製造業等における生産性向上

生産性の代表的な定義は「**生産性とは、生産性諸要素の有効利用の度合いである**」（ヨーロッパ生産性本部）というものである。
（公益財団法人 日本生産性本部HP）

$$\text{生産性} = \frac{\text{産出 (output)}}{\text{投入 (input)}}$$

■ 物的生産性

労働生産性
 （1時間あたり）

$$\frac{\text{生産量}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

■ 付加価値生産性

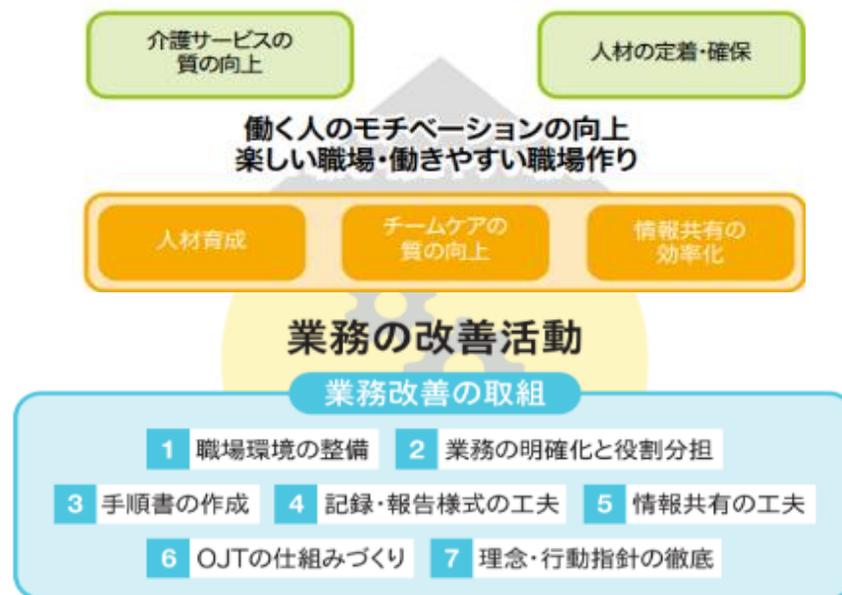
労働生産性
 （1時間あたり）

$$\frac{\text{付加価値額}}{\text{労働者数} \times \text{労働時間}}$$

介護現場における生産性向上

本ガイドラインでは（中略）、介護サービスの生産性向上を「**介護の価値を高めること**」と定義しています。

（介護サービス事業における生産性向上ガイドラインより引用）



生産性向上の7つの取組（打ち手）における 介護ロボットの活用の位置づけ

① 職場環境の整備

取組前

取組後



② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が
明確化されて
いない

業務を明確化し、
適切な役割分担を
行いケアの質を向上



② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的
負担が大きい

職員の心理的
負担を軽減



③ 手順書の作成

職員によって異なる
申し送り

申し送りを
標準化



④ 記録・報告様式の工夫

帳票に
何度も転記

タブレット端末や
スマートフォンによる
データ入力（音声入
力含む）とデータ共有



⑤ 情報共有の工夫

活動している
職員に対して
それぞれ指示

インカムを利用した
タイムリーな
情報共有



⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方に
ブレがある

教育内容と
指導方法を統一



⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな
事態が起こると
職員が自身で
判断できない

組織の理念や行動
指針に基づいた
自律的な行動



介護ロボットの重点開発分野（6分野13項目）

ロボット技術の介護利用における重点分野 <small>（平成29年10月改定）</small>					
移乗支援	移動支援	排泄支援	見守り・コミュニケーション	入浴支援	介護業務支援
<p>装着</p>  <p>ロボット技術を用いて介助者のパワーアシストを行う装着型の機器</p>	<p>屋外</p>  <p>高齢者等の外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器</p>	<p>排泄物処理</p>  <p>排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置調節可能なトイレ</p>	<p>施設</p>  <p>介護施設において使用する、センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p>	 <p>ロボット技術を用いて浴槽に出入りする際の一連の動作を支援する機器</p>	 <p>ロボット技術を用いて、見守り、移動支援、排泄支援をはじめとする介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に、高齢者等の必要な支援に活用することを可能とする機器</p>
<p>非装着</p>  <p>ロボット技術を用いて介助者による抱え上げ動作のパワーアシストを行う非装着型の機器</p>	<p>屋内</p>  <p>高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器</p>	<p>トイレ誘導</p>  <p>ロボット技術を用いて排泄を予測し、的確なタイミングでトイレへ誘導する機器</p>	<p>在宅</p>  <p>在宅介護において使用する、転倒検知センサーや外部通信機能を備えたロボット技術を用いた機器のプラットフォーム</p>		
	<p>装着</p>  <p>高齢者等の外出をサポートし、転倒予防や歩行等を補助するロボット技術を用いた装着型の移動支援機器</p>	<p>動作支援</p>  <p>ロボット技術を用い、トイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器</p>	<p>生活支援</p>  <p>高齢者等とのコミュニケーションにロボット技術を用いた生活支援機器</p>		

6分野13項目

厚生労働省は、経済産業省とともに「ロボット技術の介護利用における重点分野」を6分野13項目定め、その開発・導入を支援しています。

（出所）厚生労働省【介護ロボットの導入・活用支援策】のご紹介

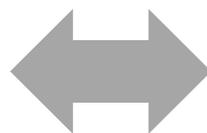
導入と活用は大違い！？

行政

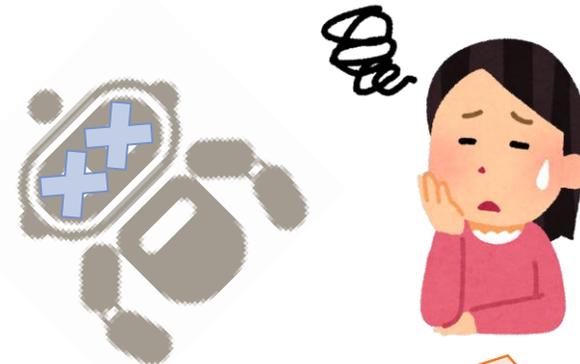
補助金の執行率



介護ロボットの普及が進んでいる！



介護現場



導入したけど、どう使えばよいのか・・・

導入したテクノロジーが倉庫に眠るまで

介護ロボットがいらしい。
しかも、補助金使えるらしい！
渡りに船だ！うちも導入しよう！！

経営層

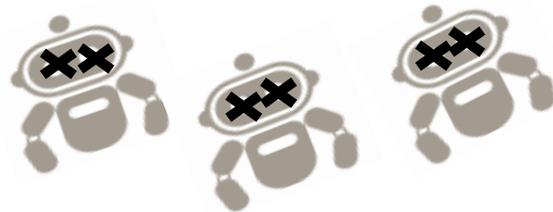


職員

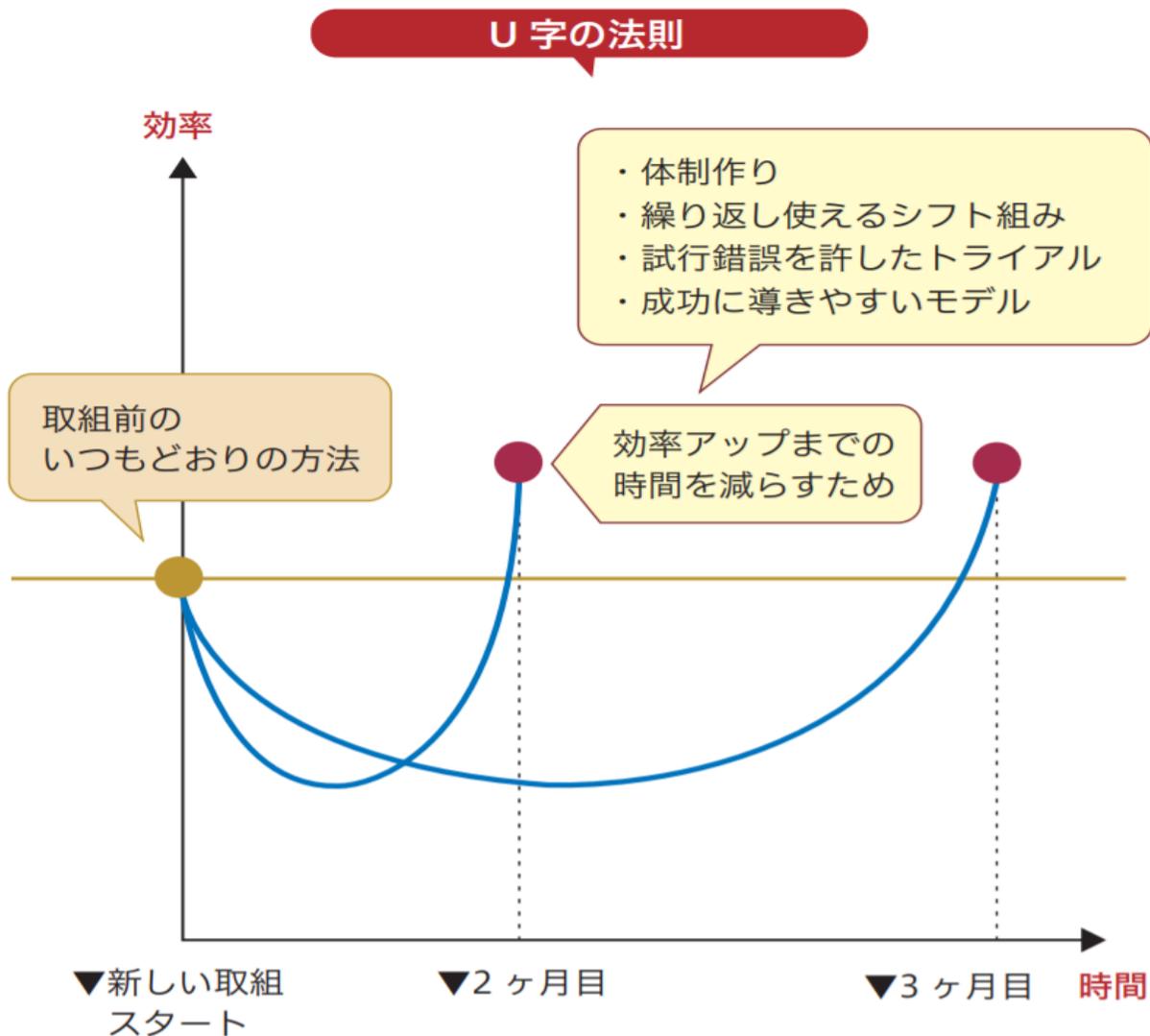
介護は人の手でやるもんだ！
ロボットに介護ができるわけない！

ただでさえ忙しいのに・・・
ロボット？ICT？私には無理！

かえって仕事が増えた
やっぱり使えない！

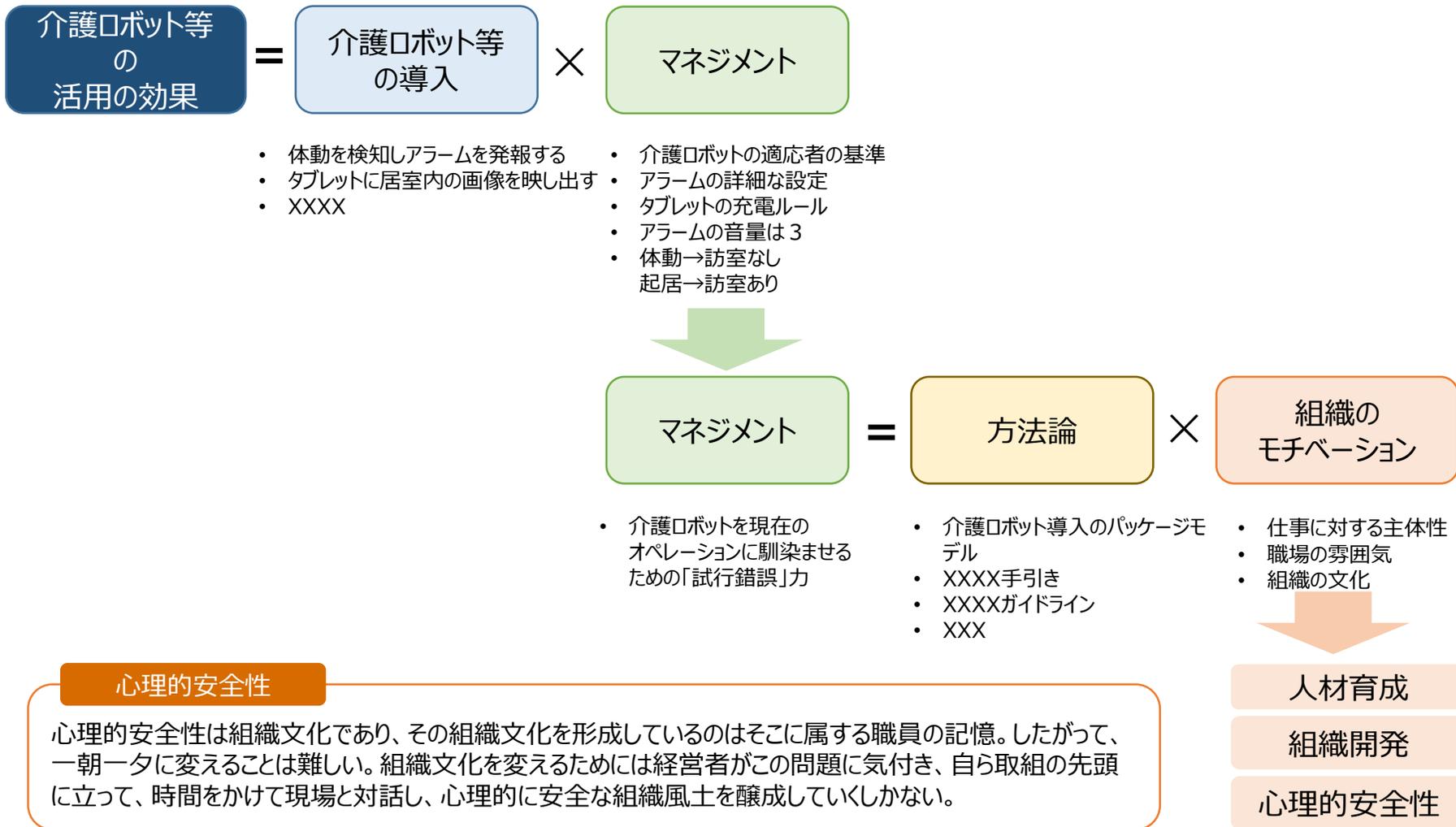


U字の法則：「かえって手間が増えた」の正体



(出所) 厚生労働省 介護サービス事業における生産性向上に資するガイドライン

介護テクノロジーの活用の成果の考え方



介護ロボットのパッケージ導入モデル



	手順	ポイント
P	手順1 改善活動の準備をしよう	<改善活動を検討・実行に移すための体制づくり> <input type="checkbox"/> 生産性向上の取組を推進するにあたって、プロジェクトチームをつります。現場担当者には任せだけでなく、経営層（トップ層）も関与しましょう。 <input type="checkbox"/> 経営層（トップ層）から、取組開始のキックオフ宣言をし、取組の意義等を周知しましょう。
	手順2 現場の課題を見える化しよう	<介護現場での課題把握> <input type="checkbox"/> どのような現場の課題があるのか、今後どのようなケアを進めていきたいのか、議論して見える化しましょう。 <input type="checkbox"/> 導入したい介護ロボットを前提とした議論をするのではなく、施設・事業所の課題ややりたい姿を丁寧に議論することが望ましいです。
	手順3 実行計画を立てよう	<導入後のオペレーション変更の検討、導入後の効果を把握するための定量的な属京の設定> <input type="checkbox"/> 課題等を踏まえ、介護ロボットの導入をする場合、実行計画を策定します。 <input type="checkbox"/> これまで介護ロボット等を導入したことがない場合、「介護ロボット導入のためのフローチャート」を参考にしましょう。 <input type="checkbox"/> 一度は複数の機器を導入するのではなく、順次導入するようしましょう。機器の特性（適応と禁忌）を確認の上、対象利用者を選定しましょう。 <input type="checkbox"/> 介護ロボットの導入・教育だけでなく、現場のオペレーションをどのように変えるか、を検討しましょう。 <input type="checkbox"/> 導入後、想定される効果を策定し、評価項目を設定しましょう。
D	手順4 改善活動に取り組もう	<導入準備、利用者へのケアの提供、導入後の効果検証> <input type="checkbox"/> 本冊子を参考に、導入準備（保管場所・活用ルール等の検討）、機器導入・研修、利用者への活用を進めます。 <input type="checkbox"/> 夜勤等で十分な教育ができないことや、ICTに慣れていないために活用が進まないケースがあります。十分な導入見聞を確保するようしましょう。 <input type="checkbox"/> 導入当初は、プロジェクトチームによるミーティング等を月1～2回程度開催するなどして、メンバーでの情報共有を心掛かけましょう。 <input type="checkbox"/> 取組のなかで、小さな改善活動を進めていきましょう。
	手順5 改善活動を振り返ろう	<期待していた効果（仮説）に対する効果検証、振り返りミーティングの実施> <input type="checkbox"/> 実行計画の中で設定した評価項目が達成されているかの評価を行います。評価は、利用者への効果・職員への効果・組織への効果の観点で行います。可能な限り定量評価ができるようにしましょう。 <input type="checkbox"/> うまくいった点、いかなかった点を整理しましょう。うまくいった点や事例として、施設・事業所内に情報共有しましょう。 <input type="checkbox"/> うまくいかなかった点は、原因等をプロジェクトチームで検討しましょう。
A	手順6 実行計画を練り直そう	<input type="checkbox"/> うまくいかなかった点については、実行計画に変更を加えましょう。 <input type="checkbox"/> 一定の効果が検証できた場合、次のステップに進みます。やりたい姿に向けた次の取組や、新たな課題への検討を行います。 <input type="checkbox"/> 導入済みの機器の活用を進める場合、対象利用者・対象となるケアのシーン・より効果的な使い方を検討しましょう。 <input type="checkbox"/> 追加で機器を導入する場合、導入済みの機器と組み合わせで活用することにより、相乗効果が発揮できるかを検討しましょう。

（出典）厚生労働省 介護ロボットのパッケージ導入モデル

介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム



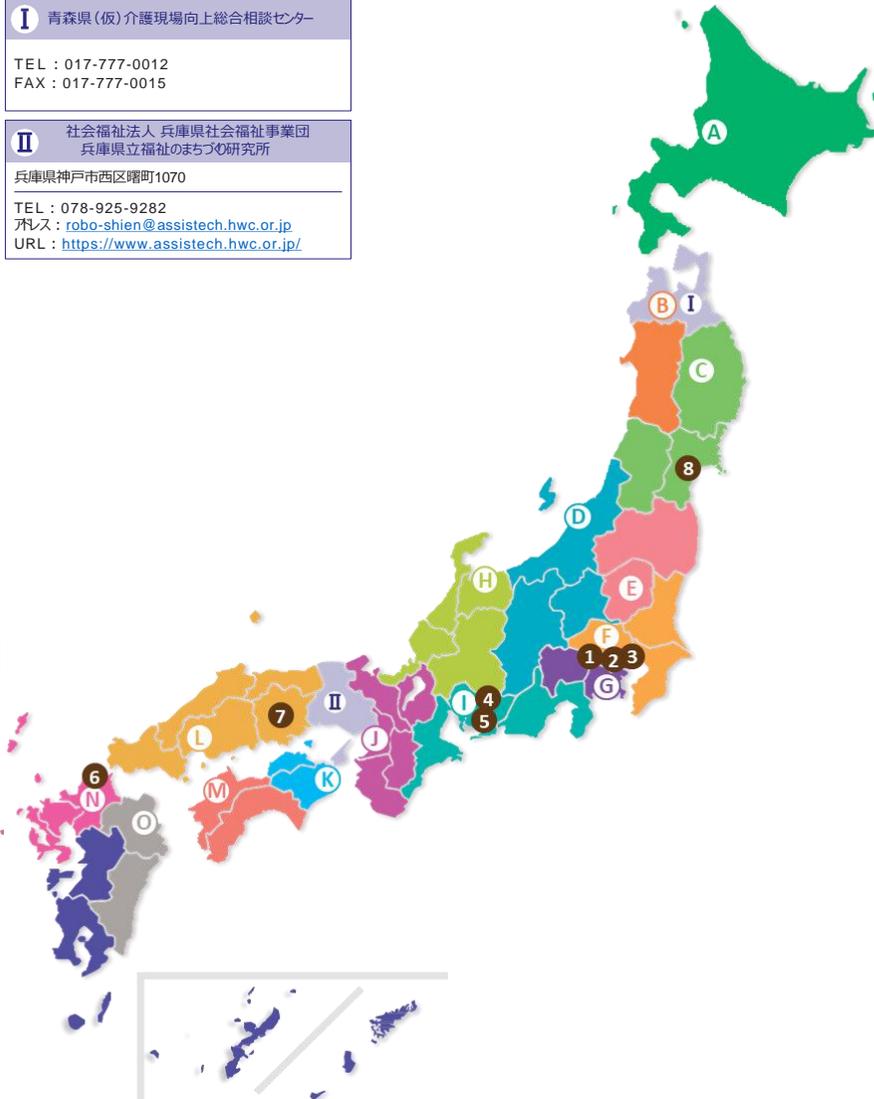
相談窓口

- A** 社会福祉法人 北海道社会福祉協議会
北海道介護ロボット普及推進センター
●プラットフォーム相談窓口(Web相談可)
北海道札幌市中央区北16条西6丁目105 (緑ビル) TEL: 070-5608-6877
●北海道社会福祉協議会 本部事務局
北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地 4F TEL: 011-280-3161
アドレス: jyounis28@hokutakehd.jp
URL: <http://www.dosyakyoku.or.jp/carerobot/>
- C** 公益財団法人 いきいき岩手支援財団
岩手県高齢者総合支援センター
岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
岩手県福祉総合相談センター3階
TEL: 019-625-7490
アドレス: ikrobo@silverz.or.jp
- E** とちぎ福祉プラザモデルルーム 福祉用具
介護ロボット相談活用センター
●運営主体 NPO法人とびぎふライゼーション研究会 栃木県宇都宮市若草1-10-6とびぎ福祉プラザ1階
TEL: 028-627-2940
アドレス: info@normalization.jp
URL: <https://robot.normalization.jp/>
- G** 社会福祉法人 横浜市リハビリテーション事業団 横浜
市総合リハビリテーションセンター 介護ロボット
相談窓口
神奈川県横浜市港北区鳥山町1770
TEL: 045-473-0666 (代)
アドレス: HPにてお問合せください
URL: <https://www.yrc-pf.com/>
- I** 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
健康長寿支援ロボットセンター
愛知県大府市森岡町7-430
TEL: 0562-46-2311
アドレス: platform2020@ncgg.go.jp
- K** 社会福祉法人 健祥会 徳島
県介護実習普及センター
徳島県徳島市国府町東高輪字天満356番地1
TEL: 088-642-5113
アドレス: presen@kenshokai.group
- M** 愛媛県介護実習普及センター
愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
愛媛県総合社会福祉会館内
TEL: 089-921-5140
アドレス: chojuu@ehime-shakyo.or.jp
URL: <https://www.ehime-shakyo.or.jp/>
- O** 社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
大分県社会福祉介護研修センター
大分県介護ロボット普及推進センター
大分県大分市明野東3丁目4番1号
TEL: 097-574-4571
アドレス: oita-kaigorobot@okk.or.jp
URL: <https://www.oita-kaigorobot.com>

- B** 社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
青森県介護啓発福祉機器普及センター
青森県青森市中央3丁目20-30
TEL: 017-777-0012
アドレス: robot@aosyakyoku.or.jp
- D** 新潟県福祉機器展示室
介護ロボット相談窓口
●相談窓口: あおやまデカカ
新潟県新潟市中央区上野2-2-2 新潟ユニソンプラザ1F
●事務局: 新潟県社会福祉協議会 (旧)新県エコープラザ
TEL: 025-378-5224
アドレス: aoyama@aoyama-medical.co.jp
URL: <https://carerobo-pf.jp/>
- F** 社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会
介護すまいる館
埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
TEL: 048-822-1195
アドレス: kaigosmile@fukushi-saitama.or.jp
- H** 社会福祉法人 富山県社会福祉協議会
やま介護テクノロジー普及推進センター
富山市安住町5番21号
富山県総合福祉会館(サンシップとやま)2階
TEL: 076-432-6305
アドレス: HPにてお問合せください
URL: <https://toyama-kaitech.jp/>
- J** ATCエイジレスセンター 介護
ロボット相談窓口
大阪府大阪市住之江区南港北2丁目1-10
ATCビル11F
TEL: 06-6615-5123
アドレス: info@ageless.gr.jp
- L** 一般社団法人 日本福祉用具供給協会
広島県ブロック
広島県広島市安佐南区大町東1-18-44
TEL: 082-877-1079
アドレス: jimukyoku@fukushiyogu-hiroshima.jp
- N** 九州介護ロボット開発実証普及促進センター
福岡県北九州市小倉北区馬備一丁目7-1
総合福祉センター1階
(北九州市立介護実証普及センター福祉用具プラザ九州内)
TEL: 080-2720-2646
アドレス: krobot@aso-education.co.jp
URL: <https://aes-medicalwelfare.com/krobot/>
- P** 鹿児島介護実習普及センター
鹿児島県鹿児島市山下町14-50
かごしま県民交流センター内
TEL: 099-221-6615
アドレス: kaigo7-kakenshakyoku@po5.synapse.ne.jp

介護生産性向上総合相談センター

- I** 青森県(仮)介護現場向上総合相談センター
TEL: 017-777-0012
FAX: 017-777-0015
- II** 社会福祉法人 兵庫県社会福祉事業団
兵庫県立福祉のまちづくり研究所
兵庫県神戸市西区曙町1070
TEL: 078-925-9282
アドレス: robo-shien@assistech.hwc.or.jp
URL: <https://www.assistech.hwc.or.jp/>



リビングラボ

- 1** Care Tech ZENKOUKAI Lab
(社会福祉法人 善光会 サングラ総合研究所)
東京都大田区東糀谷六丁目4番17号
TEL: 03-5735-8080
アドレス: sfri@zenkoukai.jp
- 2** Future Care Lab in Japan
(SOMPOホールディングス(株) SOMPOケア(株))
東京都品川区東品川4-13-14 グラスエー品川10階
TEL: 03-5781-5430
アドレス: HPにてお問い合わせください URL: <https://futurecarelab.com/>
- 3** 柏リビングラボ
(国立研究開発法人 産業技術総合研究所)
千葉県柏市柏の葉6-23
東京大学柏キャンパス内社会イノベーション棟
TEL: 029-861-3427
アドレス: M-living-lab-ml@aist.go.jp
- 4** 藤田医科大学 ロボティクススマートホーム
活動支援機器研究実証センター
愛知県豊明市省掛町田楽ケ窪1番地98
藤田医科大学病院内
TEL: 0562-93-9720
アドレス: cent-rsh@fujita-hu.ac.jp URL: <https://www.fujita-hu.ac.jp/rsh-aat/>
- 5** 国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター
健康長寿支援ロボットセンター
愛知県大府市森岡町7-430
TEL: 0562-46-2311
アドレス: platform2020@ncgg.go.jp
- 6** スマートライフ共創工房
(国立大学法人 九州工業大学)
福岡県北九州市若狭区小倉02-5 情報技術高度化センター
TEL: 093-603-7738
アドレス: slc3lab@brain.kyutech.ac.jp
- 7** 吉備高原
医療リハビリテーションセンター
岡山県加賀郡吉備中央町吉川17511
TEL: 0866-56-7141
アドレス: syomu@kibiriah.johas.go.jp
- 8** 東北大学
青葉山リビングラボ
宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-01
東北大学大学院工学研究科機械系共同棟5階
TEL: メールにてお問い合わせください
アドレス: living-lab@srd.mech.tohoku.ac.jp

相談窓口の取組 -概要-

「相談窓口」機能では、主に介護現場からの介護ロボットに関する相談や、介護ロボットの試用貸出、体験展示、さらに研修会の開催といった取組を行っています。



各種相談への対応



RENT 介護ロボットの試用貸出



体験展示



研修会の開催

相談窓口の取組 -相談対応・伴走支援-

相談窓口では、介護施設に対する個別の伴走支援も行っています。支援を受けた施設は、介護ロボットの導入・活用で得た経験を、他施設に伝達できるベンチマークとなることを目指します。

■ 伴走支援のイメージ

訪問後に適宜フォローアップ

訪問後は、電話等で状況確認。必要に応じてアドバイザーがサポートを実施

訪問①

訪問②

訪問③

- ・介護現場の課題抽出
- ・介護ロボットの選定

- ・導入計画書の作成
- ・介護ロボットの試行的運用

- ・試行錯誤を繰り返し、介護ロボットの本格導入を目指す

手順1

手順2

手順3

手順4

手順5

手順6

改善活動の準備をしよう

現場の課題を
見える化
しよう

実行計画を
立てよう

改善活動に
取り組もう

改善活動を
振り返ろう

実行計画を
練りなおそう

導入プロセスでの気づきや試行錯誤を含めた経験を他施設に伝達できるベンチマーク施設の創出

相談窓口の取組 - 試用貸出のスキーム -

開発企業様と各相談窓口の協力のもと、介護施設等に対する介護ロボットの貸出を行っています。

■ 試用貸出のスキーム

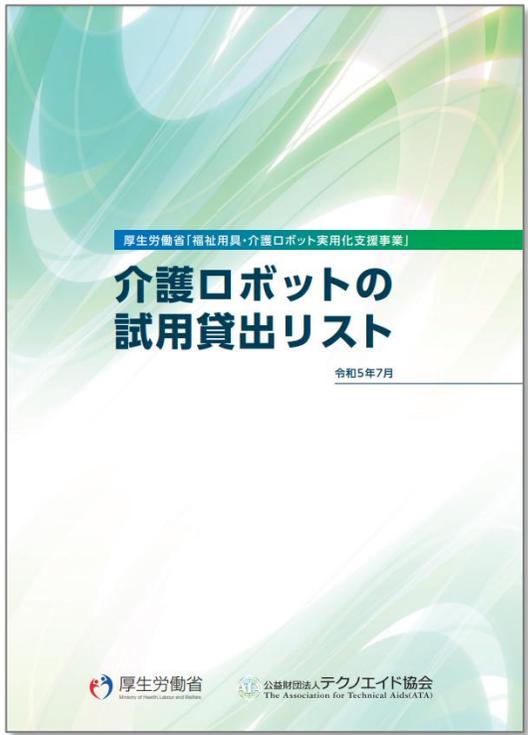


※厚生労働省「福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式」の受託者が作成する介護ロボットの試用貸出リストを使用

相談窓口の取組 - 試用貸出リスト -

相談窓口から介護施設に貸し出す介護ロボットのリストは、厚生労働省「福祉用具・介護ロボット実用化支援等一式」の受託者が作成する介護ロボットの試用貸出リストを使用しています。

■ 介護ロボットの試用貸出リストの例



目次

はじめに

A-01	株式会社ジロイテクト	介護作業専用アシストスーツ J-PAS fleairy (ジェイパスフレアリー)	1
A-02	CYBERDYNE 株式会社	HAI 髭タイ	5
A-03	ダイエー工業株式会社	DARWING Hokulohide	9
A-04	株式会社加藤	レイボアシストケトルン	13
A-05	株式会社イノエ	マシムスーパースタビー	17
A-06	マウス株式会社	KG2000H1000SAL01E	21
A-07	株式会社FJL	膝裏サポートロボット Hug L1	25
A-08	株式会社FJL	膝裏サポートロボット Hug T1	29
A-09	アイ・テック株式会社	スチアソルト	33
A-10	株式会社アイザック	膝裏・腰動ロボット Keipu5b	37
A-11	株式会社カネパ電機	膝裏動用ロボット「膝楽者」	41
A-12	アルジ・ジャパン株式会社	サランテック	45
A-13	アルジ・ジャパン株式会社	マサムーブ	49
A-14	アルジ・ジャパン株式会社	マサムーブ	53
A-15	日本ケアリサーチ株式会社	SOLE* MAX ソール エムエックス エフ	57
B-01	RT-ワークス株式会社	ロボットアシストウオーク-RT-1	61
B-02	RT-ワークス株式会社	ロボットアシストウオーク-RT-2	65
B-03	パルテック株式会社	Walk training robot	69
B-04	ASIMACON 株式会社	cyberia	73
B-05	株式会社 INOWA	膝裏専用自立支援システム Airbre	77
B-06	株式会社イース・バイオ・ラボラトリーズ	RC-Gait	81
C-01	アロヒテック株式会社	実用型アシストスーツ キューレント	85
C-02	株式会社アム	実用型アシストスーツ 「両足サポートくん」3時洗消毒付き ウェアアシスト (O)	89
C-03	株式会社アム	膝裏専用アシスト (D)	93
C-04	トリア・ダブリュー・システム株式会社	膝裏専用アシスト (D)Flex	97
C-05	株式会社リアム太郎	リアムサポート 2	101
C-06	新栄工業株式会社	Alumi* 膝裏補助システム	105
C-07	富士エレクトロニクス株式会社	WAVE	109
C-08	株式会社エージェイ	新むつモニター mini	113
D-01	エコテック株式会社	サイバズムアシスト4Dr.	117
D-02	株式会社シカモトソリューション	AlgoSleep 介護用居宅センサー	121
D-03	トリア・ダブリュー・システム株式会社	居宅センサー	125
D-04	キング薬機工業株式会社	シムエイト用センサー	129
D-05	エアロビューローブ株式会社	AI.Viewite	133
D-06	株式会社TAC国際研修	居宅センサー ASleep	137
D-07	凸版印刷株式会社	SensingWave* 介護・看護居宅システム	141
D-08	ノーリツソリューション株式会社	居宅システム Neo+Care (ネオ+ケア)	145
D-09	株式会社エヌエス	サイバズム	149
D-10	コアフーズ株式会社	e服アシスト	153
D-11	フジエス株式会社	居宅センサーシステム M-2	157
D-12	株式会社 AXIVE	CareVision (ケアビジョン)	161
D-13	株式会社エヒス	エヒスおまかせシステム	165
D-14	エヌエスソリューション株式会社	介護居宅センサーシステム M-1	169
D-15	株式会社エヒス	居宅センサー (ANSIE)	173
D-16	株式会社アルコイーテックス	バイシモンワークスサポート	177



(出所) : 公益財団法人テクノエイド協会HP 「介護ロボットの試用貸出リスト」 より抜粋
<http://techno-aids.or.jp/robot/file03/2021rentallist.pdf>

相談窓口の取組 -体験展示-



※各相談窓口では「ロボット技術の介護利用における重点分野」（平成29年10月改定）における6分野13項目に該当する製品及び介護ロボットの試用貸出リストの中から原則8種類の介護ロボットの展示を行っています。

相談窓口の取組 - 研修会 -

介護ロボット活用推進 研修会のご案内

本研修会は、参加者が介護ロボットを効果的に導入するためのステップや、ポイントを理解することで、課題解決に必要な機器の選定等、円滑な介護ロボットの導入及び活用につなげることを目的として開催いたします。また、介護ロボットの導入を効果的に行うには、現場の課題を抽出することが非常に重要となります。本研修会のワークショップでは、効果的に現場の課題をみえる化する「因果関係図づくり」の手法について学ぶことができます。

参加費
無料

対象 ▶ 介護事業所・施設の経営層及び現場職員

定員 ▶ 先着順：1施設2名様（経営層1名・現場担当者1名）

先着
24名

日程・会場

開催場所 ▶ 富山県総合福祉会館（サンシップとやま）1階 福祉ホール

2021年6月19日（土）13:00～16:00（受付開始 12:30）

プログラム

12:55-13:00 オリエンテーション

13:00-13:05 開会のあいさつ

富山県介護実習・普及センター 所長 高塚 百合子

13:05-13:15 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム事業
地域拠点の役割と事業内容についてのご紹介

株式会社 N T T データ経営研究所

13:15-13:55 講演：「介護ロボットの効果的な導入方法」

介護ロボットに期待されるメリットと効果的な導入・活用へのアプローチ
株式会社 N T T データ経営研究所 足立 圭司

13:55-15:55 ワークショップ

「現場の課題をみえる化する因果関係図づくり」

株式会社 N T T データ経営研究所 足立 圭司、大塚 信治、池水 藤

16:00 閉会のあいさつ

富山県介護実習・普及センター

主催：富山県介護実習・普及センター

「厚生労働省：令和3年度 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」

【問合せ先】 〒930-0094 富山県安住町5番21号 富山県総合福祉会館（サンシップとやま）2階

富山県介護実習・普及センター

担当 高塚百合子 松田裕子

TEL 076-403-6840

FAX 076-432-6307

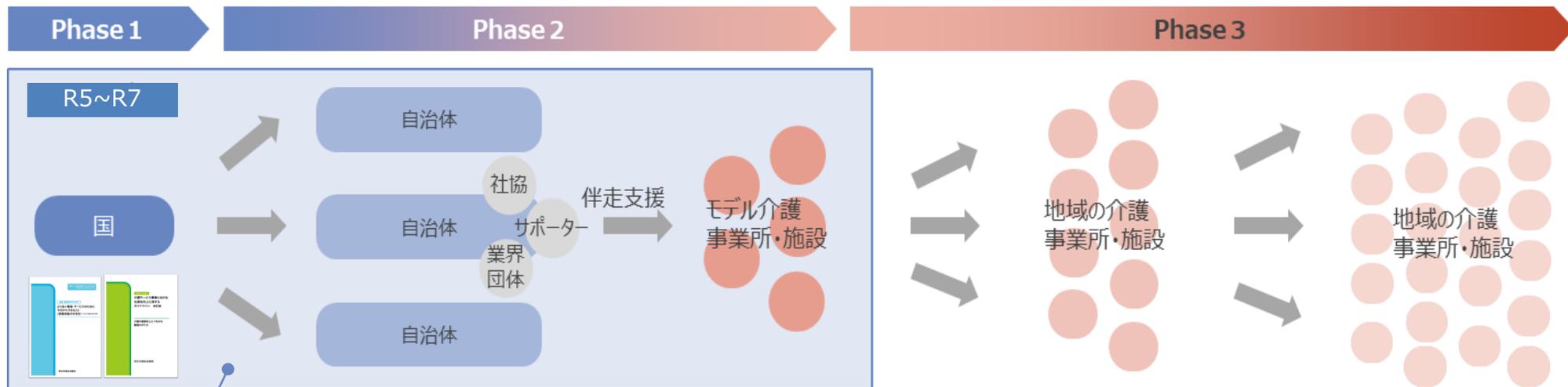


研修の様子



研修会の開催概要の一例

介護分野における生産性向上関連事業の展開イメージ



介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージについて

令和4年12月23日 厚生労働省

(1) 総合的・横断的な支援の実施

① 介護現場革新のワンストップ窓口の設置

事業者への様々な支援メニューを一括し、適切な支援につなぐワンストップ窓口を各都道府県に設置。中小企業庁の補助金の活用促進。

② 介護ロボット・ICT機器の導入支援

課題に対応した代表的な導入モデルを紹介するとともに、①のワンストップ窓口と連携して、相談対応、職員向け研修など伴走支援を進める。

(出所)：厚生労働省 介護職員の働く環境改善に向けた政策パッケージについて

目的	メニュー	概要
<ul style="list-style-type: none"> 窓口担当者の相談力強化、連携促進 	相談窓口向け勉強会 ※センターおよび都道府県担当者も参加可	<ul style="list-style-type: none"> 介護ロボット等の導入による介護現場の業務改善の先進事例の紹介 各窓口の取組状況の共有 生産性向上に関する国の施策の紹介
	介護生産性総合相談センター向け勉強会 ※相談窓口および都道府県担当者も参加可	<ul style="list-style-type: none"> 介護現場における生産性向上の考え方・取組とその支援の紹介（伴走型支援の例等） 関連事業の紹介および連携促進 先進事例の紹介 生産性向上に関する国の政策
<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県における生産性向上の施策等に関する理解の促進 	都道府県担当者向け説明会 （令和4年度 2回、令和5年度 1回）	<ul style="list-style-type: none"> 生産性向上に関する国の施策の紹介 介護ロボットプラットフォーム事業・手引き・都道府県の取組事例の紹介
<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県におけるセンター設置に係る取組の状況や課題等の把握 	都道府県向けアンケート調査・ヒアリング調査	<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県における取組状況の調査
<ul style="list-style-type: none"> 各都道府県におけるセンター設置に係る意見交換やセンター設置の促進 	各ブロック担当者連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> 全国における実施状況 都道府県に対する支援の紹介 センター設置に向けた意見交換
	全国担当者連絡会議	<ul style="list-style-type: none"> 全国における実施状況 ワンストップ窓口の取組に向けた支援策の紹介



NTT DATA

株式会社和妍

テクノロジー を活用した 3M削減

2023年11月13日



経歴

「経歴」

介護支援専門員 市部会長

株式会社和妍 統括責任者

「職種」

准看護師・介護支援専門員

スマート介護士・システムエンジニア



01

3Mとは

01

3Mとは

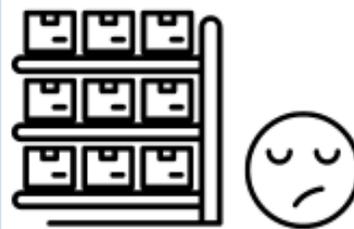
3M

ムリ



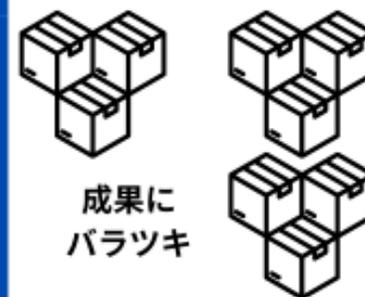
能力以上の成果を求めて
負荷がかかっている

ムダ



能力に対して
負荷が下回っている

ムラ



成果に
バラツキ
ムリとムダの両方が混在

業務改善化を図るために改善・削減しなければならない重要な要素

今回は、機械やICTを使った業務改善を発表させてもらい、介護現場の能率を上げることでご利用者様の満足度の向上につながるお手伝いができたらと思っています。

02

ムリ



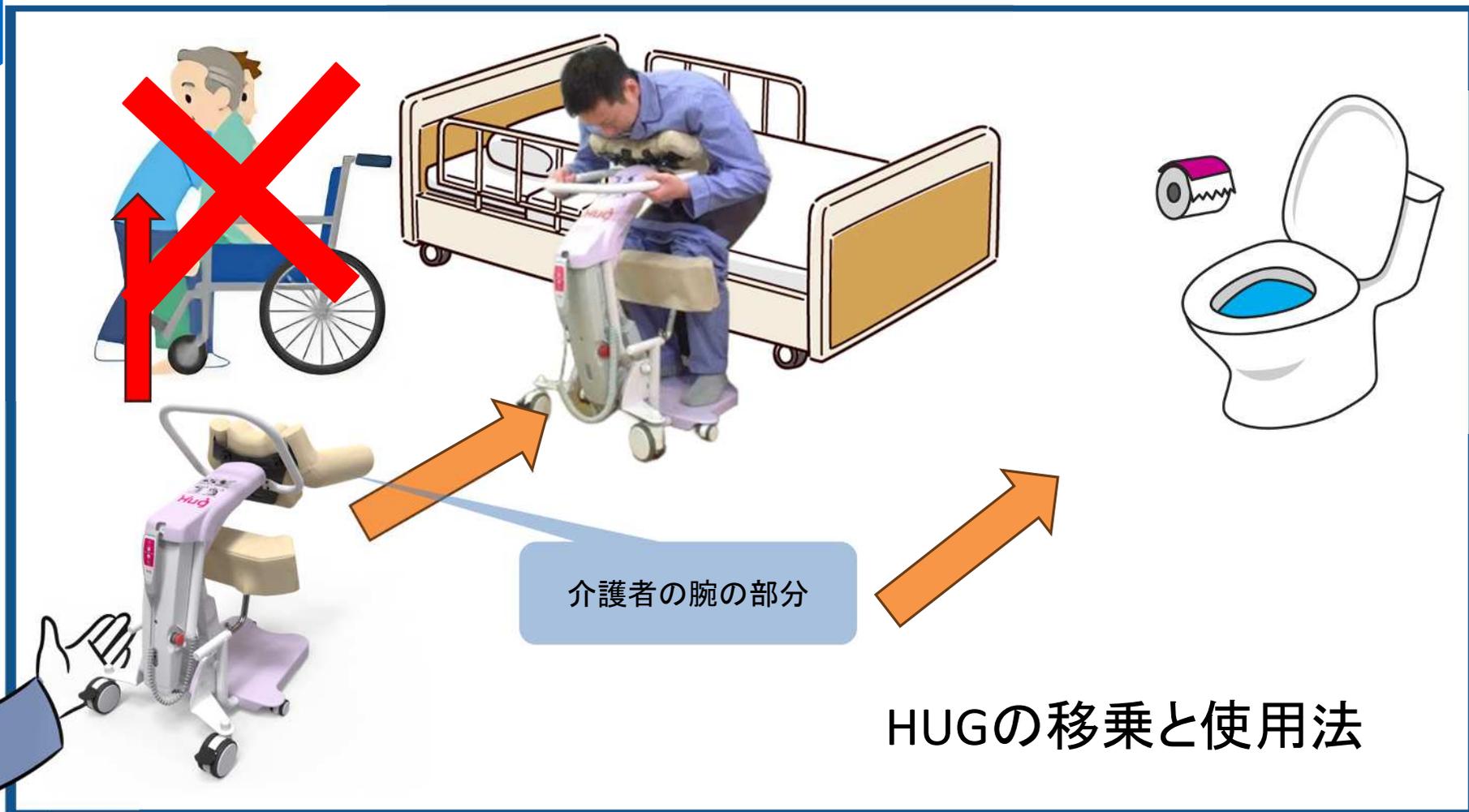
～介護の天敵である腰にムリを与えない機械を説明～

2021年第9回ロボット大賞
厚生労働大臣賞受賞
「移乗介助の救世主」

HUG (ハグ)



02
ムリ



介護者の腕の部分

HUGの移乗と使用法

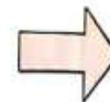
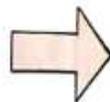
02

ムリ

メリット

介護者の腰を痛めない

トイレで排泄できる機械
ズボンの上げ下げが楽



介護レンタル可能
月額2500単位

充電式で持ち運び便利
風呂場でも使える



デメリット

機械を置く場所が
困る



わきが上がるため、
肩痛などは使えない



腕の力がある



販売価格80-100万
補助金対象

膝が拘縮している
人は使用できない

トイレが広くないと
使えない



リフト付き シャワーキャリー

お値段：1.780.000円（非課税）
浴槽：200.000円
工賃：200.000円

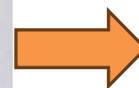
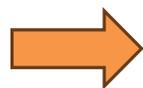


※専用/スタブLB-150 (P07) との組み合わせ
※写真はオプション装着



02

ムリ



02 ムリ



椅子を外せば通常の浴槽に使えるが深い

リクライニング角度がほぼなし

ヘッドサポートが邪魔になるが取り外し可能

スライドレール装着時振動強い

バッテリー充電式

浴槽が小さいor丸形の場合付け替え工事が必要

HUGとセットで腰を痛めない

フットレストが邪魔で怪我をするが、取り外し可能

リフト分の高さがあるため、肩まで浸かれない

国の補助金対象であり、約50万円で導入。通所介護に入浴目的の利用者が増加。リクライニングがきかないため、座位保持ができない拘縮の寝たきり対象は困難。操作も簡単で、腰の負担もなくなる。

03 ムダ



～業務改善を中心とした機械の紹介～

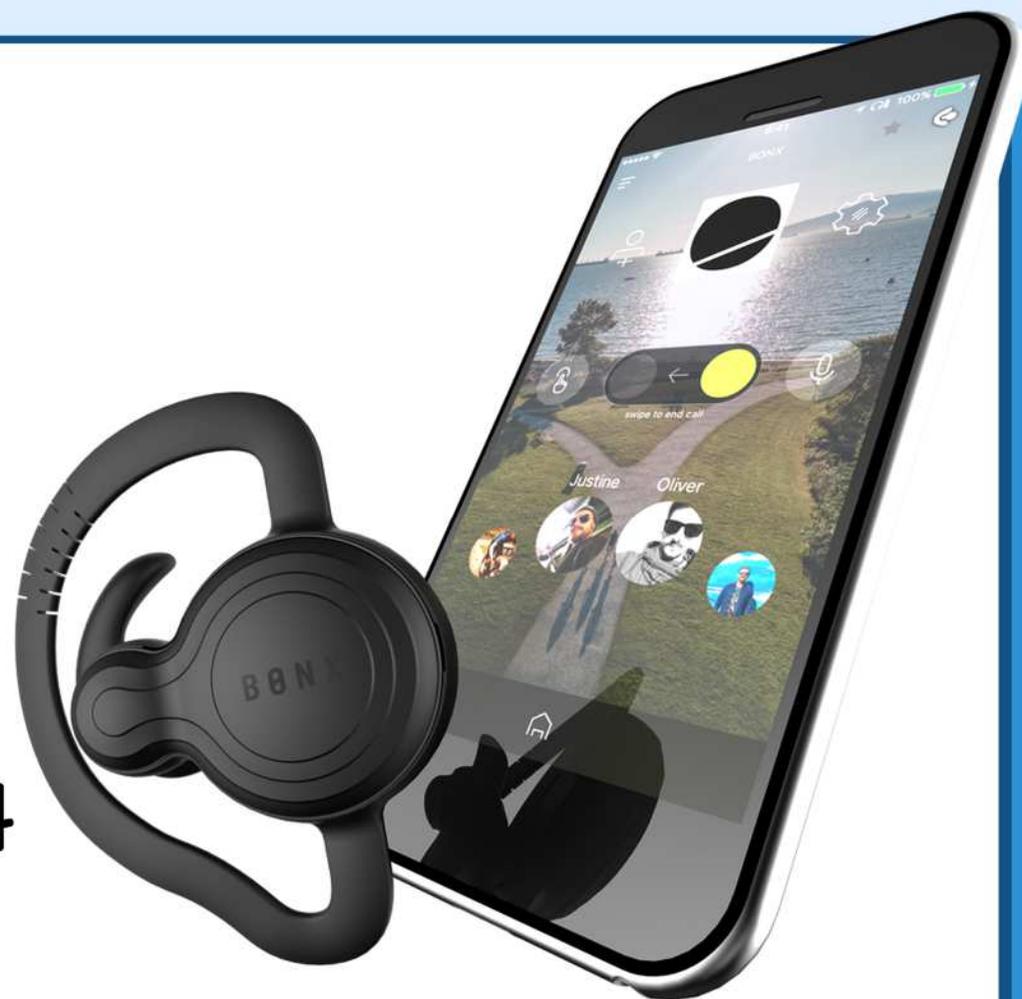
03

ムダ

スマホ連動型 トランシーバー

BONX (ボンクス)

本体 : 14800円/台
アプリ : 10人まで無料



03

ムダ

お風呂介助中でも外れる
ことのないホールド力
つけている感覚ほぼなし

選べるイヤークフ
種類は多い
カラーも豊富



ボタンを押している間、
つけている全職員へ
同時に会話可能

音調調節ボタン

『メリット』

1台14800円 10人まではアプリは無料で使える バッテリーは初期8時間程度はもつ
Bluetoothイヤホンとしても使えるため、着信時、ボタン一つで通話可能(アプリの接続切れる)
つけている感覚がほぼないため、そのまま自宅に帰る人が続出
施設内はWi-Fi使用。外出先は携帯通信会社5Gを使用のため、外出先の人も含め全員と連絡がとれる
施設内を職員を探す手間もはぶけ、お客様へ聞かれたくない話も裏で伝えることができる。
業務指示を同時に送ることができる。
課金すれば会話の文字おこしなども対応可能。

『デメリット』

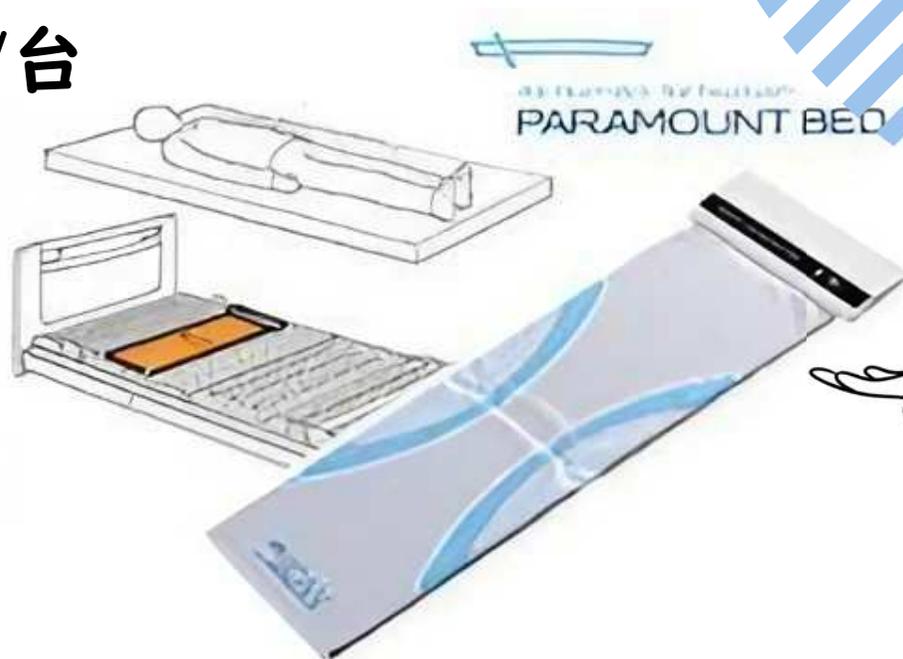
10人を超えるとボンクスビジネスアプリに課金し、1人945円追加
バッテリーのダメージが強いため、1年半程度しかもたない



第8回 ものづくり日本大賞
経済産業大臣賞 受賞

眠りSCAN

本体：200.000円/台



Wi-Fi環境下にて使用

アイコン説明



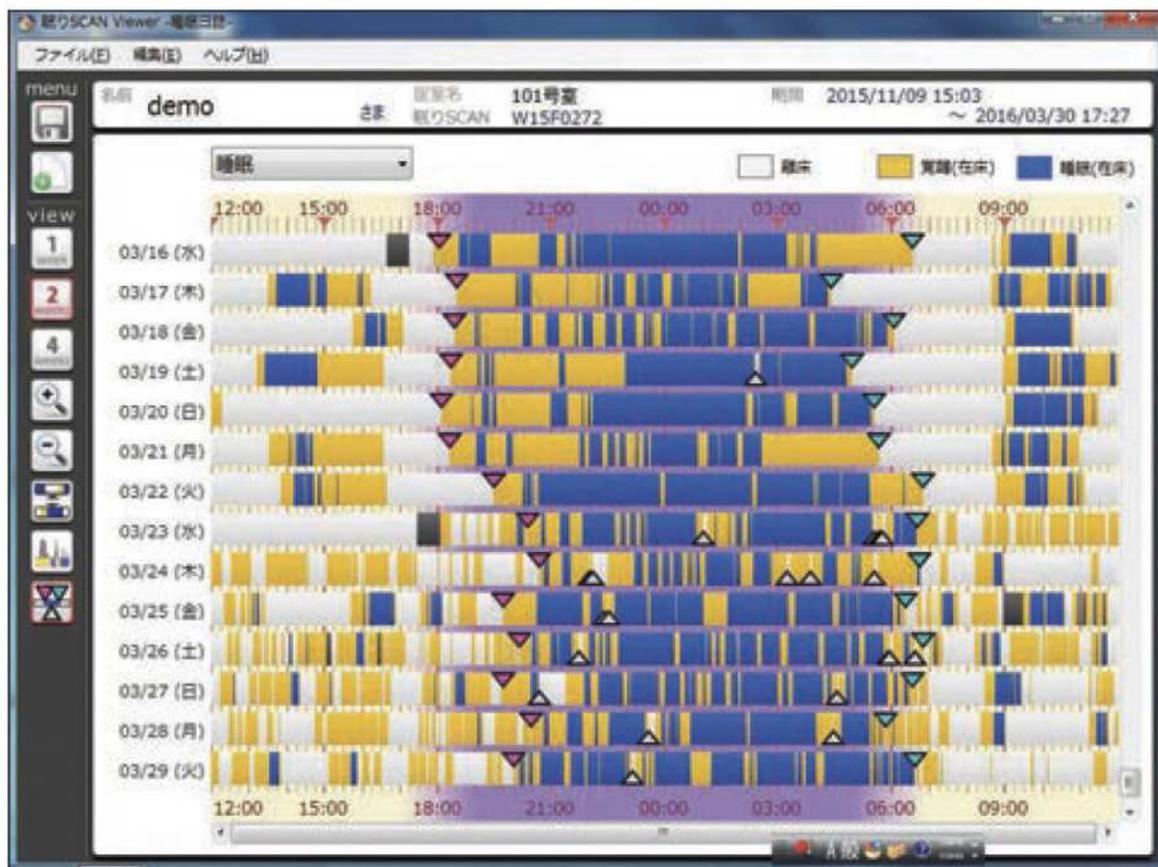
心拍数(回/分)

呼吸数(回/分)

ベッド上の入居者の状態



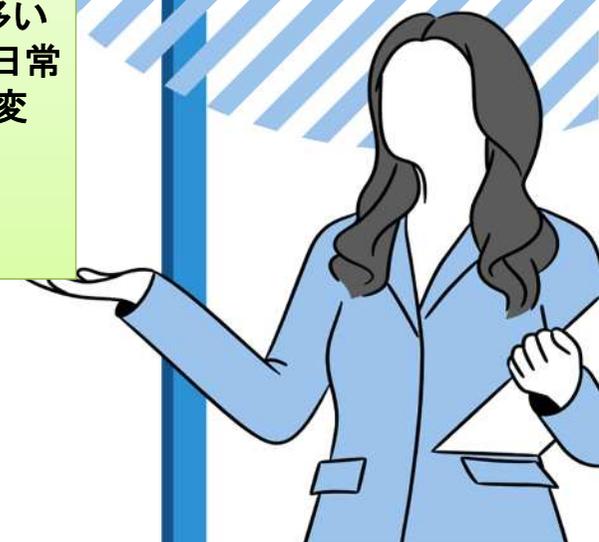
活用事例



睡眠日誌2週間表示の画像

■ 睡眠 ■ 覚醒

夜間の覚醒状況を見ながら、内服のコントロールや日中寝ていることが多いことが分ければ日常生活のリズムの変更を行う



03

ムダ

国内ユーザー100万人突破
録画機能付き監視カメラ

tapo
(タポ)

本体 : 4000円/台

SDカード : 別売り

1080p
フルHD

遠隔
操作

360°
首振り



WORKS WITH
alexa

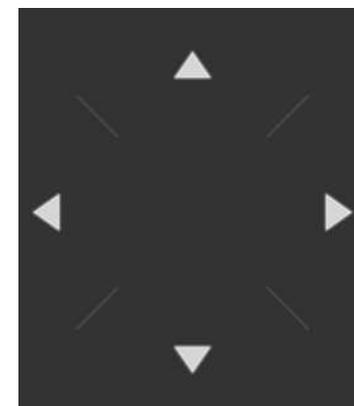
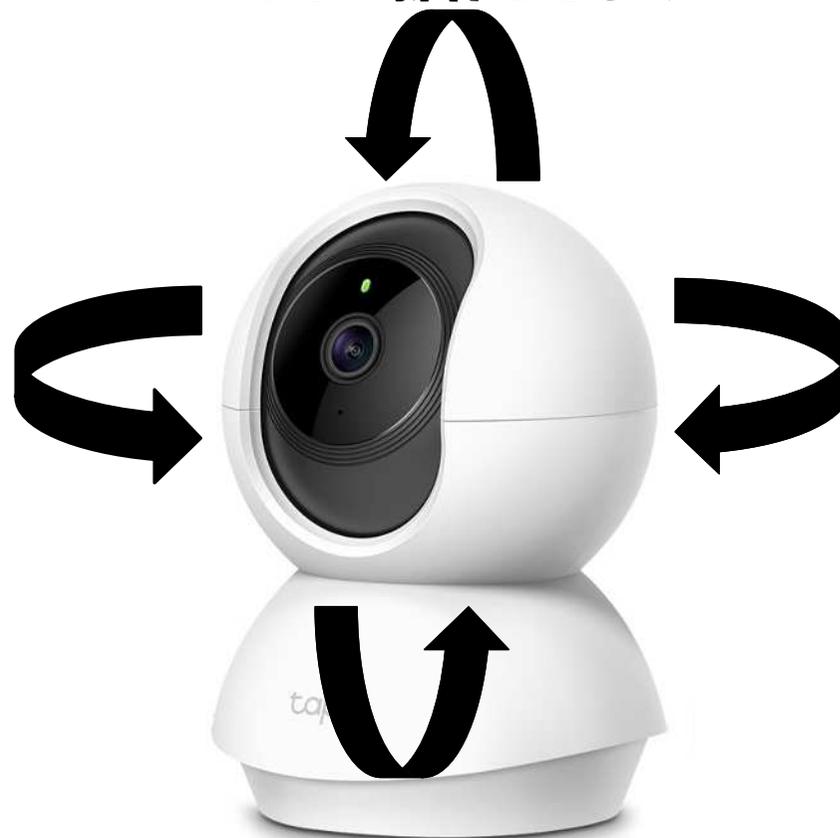
works with
Google アシスタント

03

ムダ

360度自由に動かせる

スマホから操作できます



03

ムダ

動体検知と音声検知

徘徊センサーとして使用可能

赤い枠の中で動きを感知すると
スマホにアラームがなる
赤い枠は自由に設定可能

アクティビティゾーン



動作検知ゾーンを指定し、設定した範囲で発生したことだけをキャプチャします。

03

ムダ

設置しやすい

電力があればどこでも使用可能

バッテリー(別売り)



03

ムダ

夜間撮影でくっきり

最長30mまで撮影ができます。



03

ムダ

デメリット

- ・パソコンで見るためには少し技術がいる
- ・iPhoneは音の設定ができない
- ・個人別に音の設定ができない
- ・動体検知の枠内に虫が飛んでくると反応する



わけんでの使用方法

- ・徘徊する人の行動を把握しながら、徘徊センサーとして利用
- ・ベッド上で助けを呼ばれる人の部屋に置いて声が出た際にすぐに助けに行く
- ・看取りの際には、映像と呼吸音を事務所で見ながら、状態悪化時を見逃さず、家族との最期の時間を過ごせる
- ・繰り返し録画を使用することで、虐待や事故があった際の状況証拠を常にとることができる
- ・BONXと併用し、事務所内から業務指示を出すことができる



03

ムダ

働き方が変わる

とろみ付き

自動販売機

本体リース : 50.000円/月

電気・水道 : 別費用





<p>学会分類 2021 (とろみ) 日本摂食嚥下 リハビリテーション学会 嚥下調整食分類 2021</p>	<p>段階1 薄いとろみ (50～150mPa・S)</p>	<p>段階2 中間のとろみ (150～300mPa・S)</p>	<p>段階3 濃いとろみ (300～500mPa・S)</p>
<p>液体に対する ソフティア S の濃度</p>	<p>1%</p>	<p>2%</p>	<p>3%</p>
<p>作り方</p>	<p>スティック1包   300mL 飲み物・汁物</p>	<p>スティック1包   150mL 飲み物・汁物</p>	<p>スティック1包   100mL 飲み物・汁物</p>



03

ムダ

メニュー紹介

- ・コーラ
- ・カルピス
- ・レモネード
- ・モカ100%コーヒー
- ・カフェオレ
- ・コーンスープ

※ジュースにトロミはつきません



時代はスマホ入力

経過記録入力 ソフト

本体リース : 6万円/年

スマホ
ライセンス : 2万/年

スマホ代 : 別費用

通信費 : 別費用



システムエンジニア有志による 介護職が中心となった独自システム

機械やシステムを入れることで費用がかかる



導入しても売り上げは変わらない



人件費の削減を行うと、職員へ負担がかかる

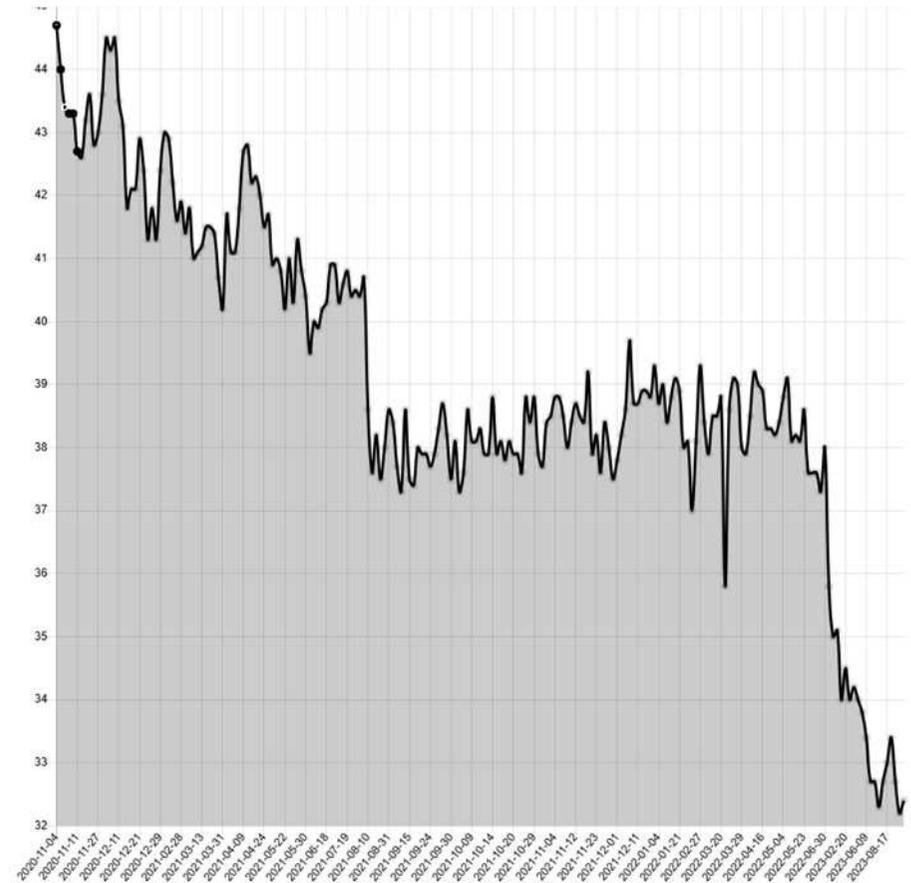


外部に委託するなら自分で作ろう

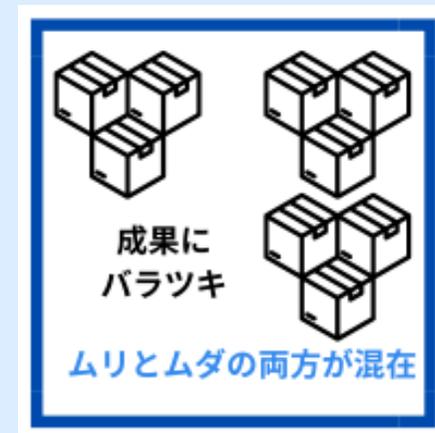


機能紹介

- 経過記録（音声入力可能）
- 体重測定（グラフ表示）
- IN/OUT（グラフ表示）
- 担当者会議記録
- 入所予約フォーム/照会
- おむつ交換チェック
- ヒヤリハット
- インシデント
- 有給届
- おむつ等注文・発注
- 風水害等会社マニュアル



04 ムラ



～能力差による業務時間のムラをなくす～

04

ムラ

介護現場における「ムラ」



・その日のリーダーの指示だし能力の差により、
連携がとれず、能率の悪い仕事になる

解決：BONX

・調理員の味付けにより、利用者の食事量に変
化がある

解決：とろみ付き自動販売機、冷凍食材

・電子機器の扱いにより入力時間に差が生じる

解決：音声入力、使い慣れたスマホ入力
検討中→Bluetoothと体温計などが連動

04

ムラ

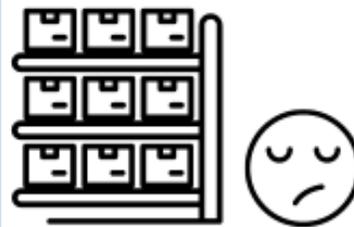
3M

ムリ



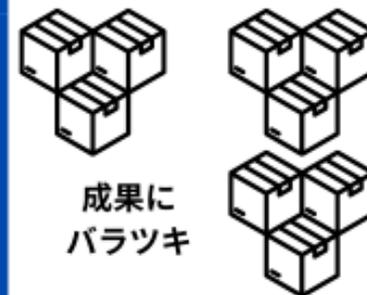
能力以上の成果を求めて
負荷がかかっている

ムダ



能力に対して
負荷が下回っている

ムラ



成果に
バラツキ
ムリとムダの両方が混在

- ・ ムラを完全になくすことは不可能に近いため減らすことに意識を持っていく
- ・ 人間が行うことに性格や技術などムラがでることは当たり前
- ・ 機械・ロボットはムラなく均一に仕上がる

ご清聴
ありがとうございました



システムにご興味ありましたら
お気軽にご連絡ください。

TEL：0836-39-7773

Mail:satoshi020210@yahoo.co.jp



公益財団法人テクノエイド協会

令和5年度 介護ロボット等活用ミーティング

介護機器等を活用した生産性向上の取組みを推進しよう

**「介護現場の環境改善と
生産性の向上」**

2023.11.13. 13:00~15:00 @ Online

社会福祉法人友愛十字会

法人本部事務局 介護生産性向上推進室長

特別養護老人ホーム 友愛荘 施設長

鈴木 健太

自己紹介

鈴木健太

淑徳大学 社会福祉学部 社会福祉学科卒

●看護師 ●福祉用具専門相談員

2008年 砧ホーム 機能訓練指導員

2013年 // 介護主任 2011.10 福祉用具専門相談員

2015年 // 介護部長 2015.3 介護リフト導入

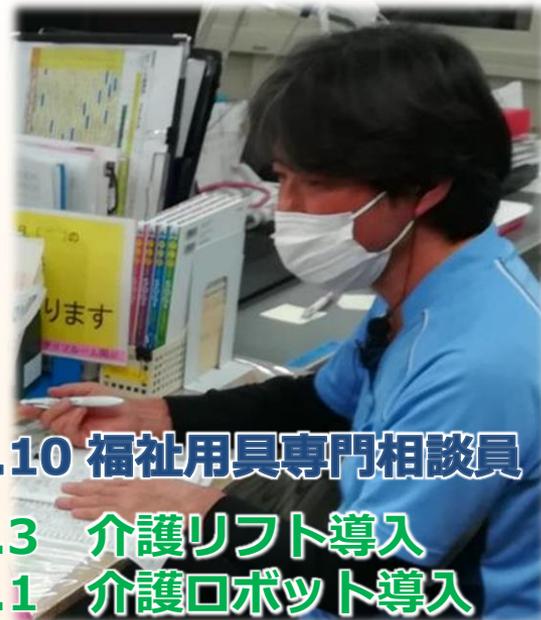
2016.1 介護ロボット導入

2017年10月 // 施設長 2018.6 ICT記録ソフト導入

(兼 看護師) 2019.12 ICTインカム導入

2023年 4月 法人本部事務局 介護生産性向上推進室長

友愛荘 施設長



- 公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 ロボット・ICT推進委員会 幹事
- 社会福祉法人 東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 デジタル推進委員長
- 国立開発研究法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 介護ロボットポータルサイト相談窓口アドバイザー
- 公益財団法人 テクノエイド協会 「福祉用具・介護ロボット実用化支援事業」モニター調査検討委員会 委員
- 公益財団法人 東京都福祉保健財団 次世代介護機器選定委員会 委員

社会福祉法人 友愛十字会



共に生きる

社会福祉法人 友愛十字会

創立：1950年9月25日

本部：東京都世田谷区砧

理念：“共に生きる”

職員数：340名（常勤職員/2023.10.1現在）



東京都

世田谷区

砧ホーム



開設：1992年4月1日

居室形態：従来型多床室

入所定員：60名、併設 SS 4名

平均年齢：88.2歳（2023.10.1現在）

要介護度：3.9（2023.10.1現在）

介護職員：17.0人（ロテーション常勤換算）

都内で（特養）唯一の ロボット介護機器・福祉用具活用支援モデル施設

関東で唯一の 全国老協協版介護ICT導入モデル施設



令和5年度 介護職員の働きやすい職場環境づくり内閣総理大臣表彰 表彰式

基本情報

- ◆ 社会福祉法人 友愛十字会
- ◆ 介護老人福祉施設
- ◆ 東京都世田谷区
- ◆ 利用者数:52名 従業員数:32名

※利用者数及び従業員数は令和5年2月1日時点

生産性向上に資するガイドラインが示す
業務改善の取組(7つの項目)



インカムと移乗支援機器
を活用した介護



選考委員の総評

介護現場における生産性向上について、ガイドラインを有効活用することで、自施設の考えをうまく職員に浸透させており、他の模範となる取組といえる。

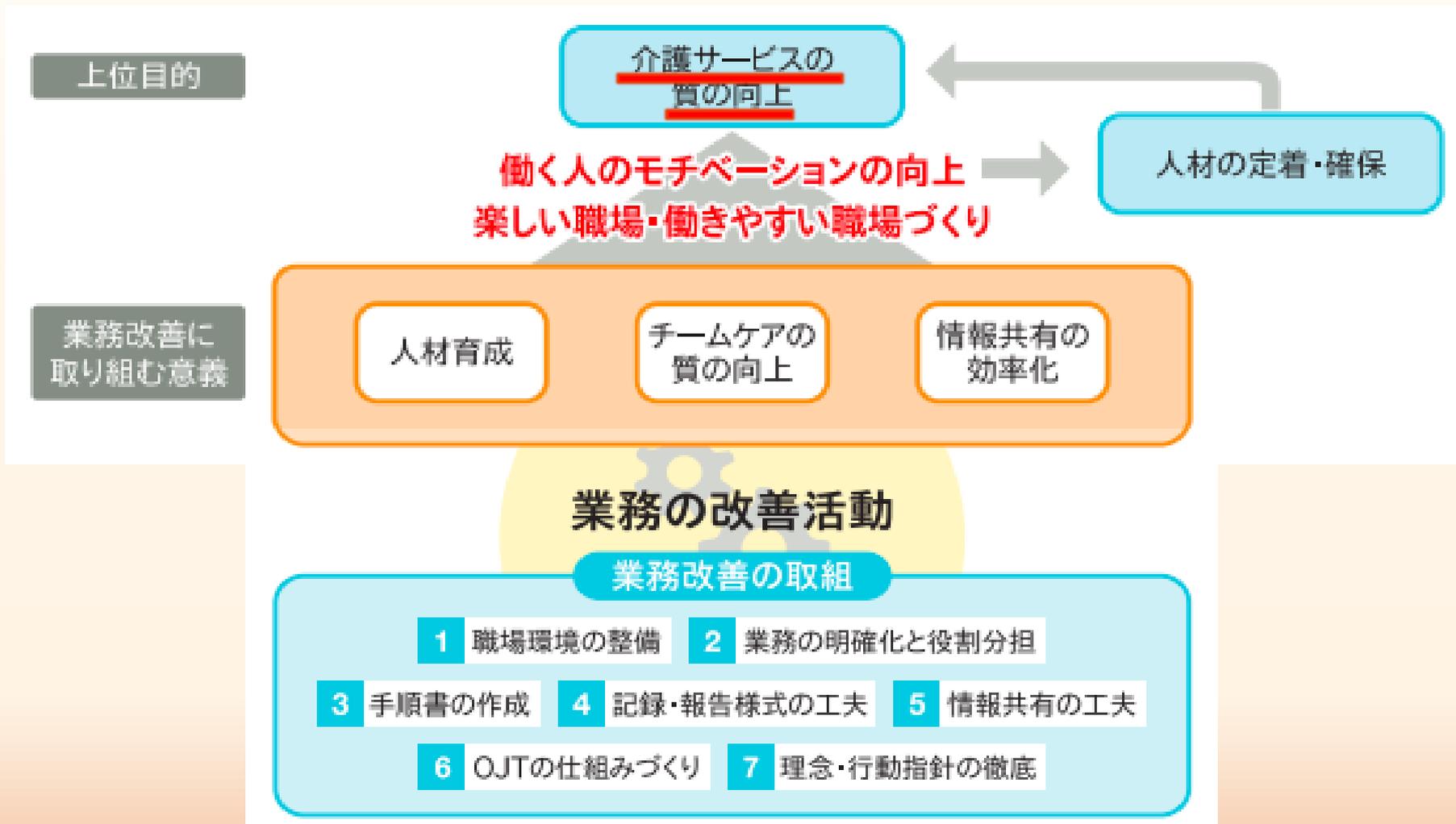
取組概要

- 1 介護ロボットやICTの導入に先駆的に取り組み、見守りセンサーやインカム等のテクノロジーを効果的に活用することにより、過去6年間(平成29年4月～令和5年3月)に入職した常勤介護職員(10人)の離職者ゼロや介護事故の発生件数の6割削減(平成30年度と31年度の比較)といった効果を生み出している。
- 2 平成30年度に厚生労働省が作成した「生産性向上に資するガイドライン」を施設運営のバイブルとし、当該ガイドラインの要素を自施設の事業計画に盛り込むなどにより、生産性向上に対する職員の理解を促しながら介護現場改革を推進するとともに、多職種協働原理(※)によるケアの質の向上に取り組んでいる。
- 3

※介護職の質がケアの質に直結するという考えのもと、介護職をメイン職種と位置づけ、他職種が介護職をサポートすることで、その力を最大限引き出すという考え方

介護サービスにおける業務改善の捉え方

(生産性向上に資する取り組み)



【出典】「介護サービス事業（施設サービス分）における生産性向上に資するガイドラン」より

より良い職場・サービスのために今日からできること（業務改善の手引き）

（介護サービス事業（施設サービス分）における生産性向上に資するガイドライン）

[概要]

① 職場環境の整備

取組前 取組後



5S点検/居室担当制

② 業務の明確化と役割分担 (1) 業務全体の流れを再構築

介護職の業務が明確化されていない
業務を明確化し、適切な役割分担を行いケアの質を向上



3M/シフト見直し

② 業務の明確化と役割分担 (2) テクノロジーの活用

職員の心理的負担が大きい
職員の心理的負担を軽減



介護ロボットの活用

③ 手順書の作成

職員によって異なる申し送り
申し送りを標準化



ケア要領/100問

④ 記録・報告様式の工夫

帳票に何度も転記

タブレット端末やスマートフォンによるデータ入力（音声入力含む）とデータ共有



記録ソフトの活用

⑤ 情報共有の工夫

活動している職員に対してそれぞれ指示

インカムを利用したタイムリーな情報共有



インカムの活用

⑥ OJTの仕組みづくり

職員の教え方にブレがある

教育内容と指導方法を統一



キャリア段位制度

⑦ 理念・行動指針の徹底

イレギュラーな事態が起こると職員が自身で判断できない

組織の理念や行動指針に基づいた自律的な行動



協働原理/3つの愛

※ 砧ホームでの実践例を加筆

【出典】「介護サービス事業（施設サービス分）における生産性向上に資するガイドライン」（厚生労働省HP）より

機器の配置状況



シルエット
見守りセンサ



見守りケア
システムM1/M2



PARO



なでなでねこ
ちゃんDX2



マッスルスーツ
Edge/Every



ベッド固定型
リフト

例) 2023.4.21

2階 粘ホーム平面図



眠りSCAN 全床導入

リフト付きバス



3階 粘ホーム平面図



COVID-19
感染対策
につき
使用中止

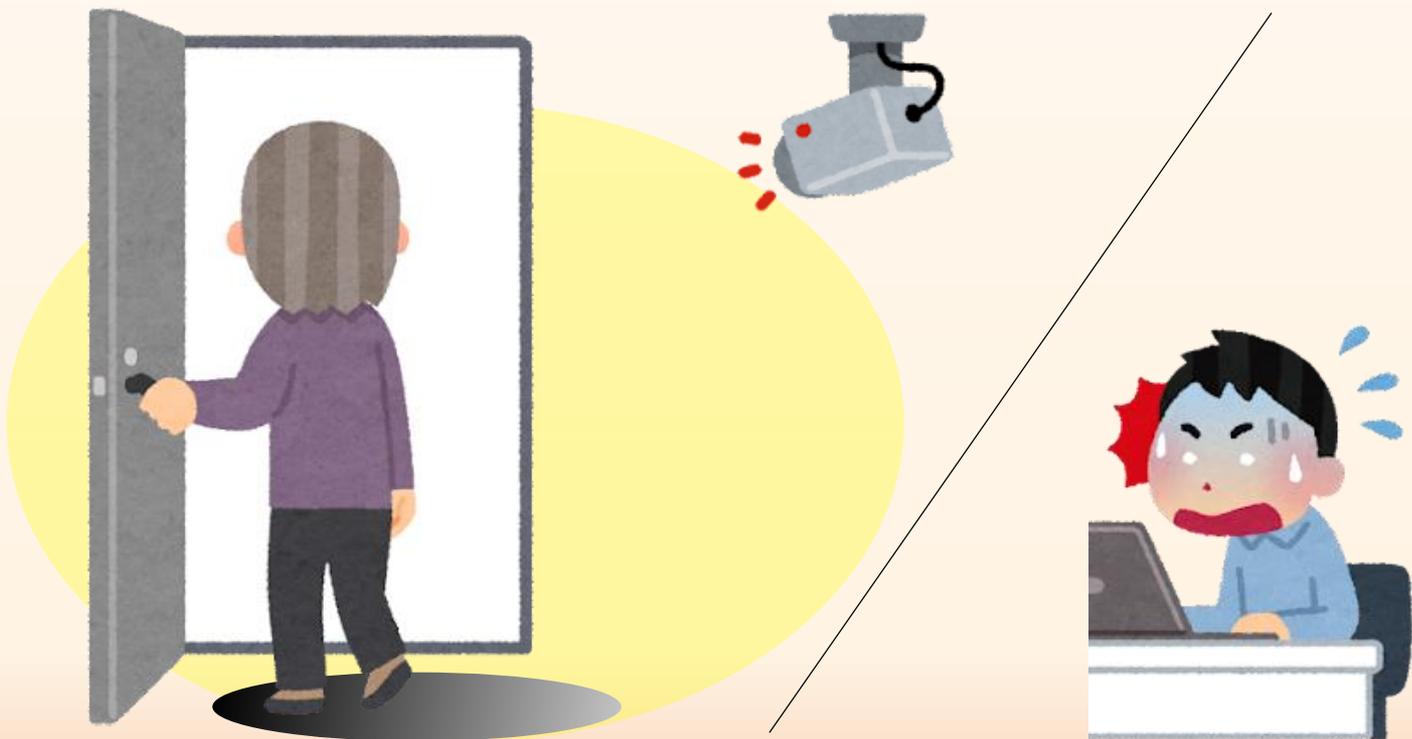
本日のお話の内容

1. 介護ロボットを活用した
生産性向上の取り組み

2. ICTを活用した
生産性向上の取り組み



1.介護ロボットを活用した 生産性向上の取り組み



見守り支援機器編

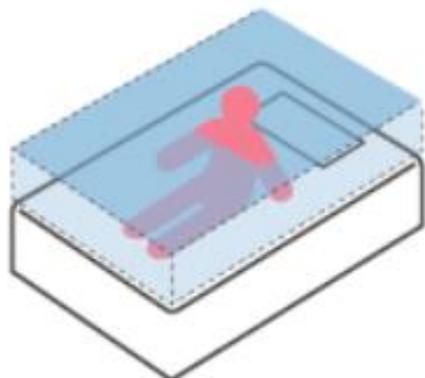
見守り支援機器

見守属性	安全系	バイタル系
メリット	事故防止 自立支援	自立支援 (事故防止)
通信環境	ナースコール経由 <u>Wi-Fi経由(画像)</u>	<u>Wi-Fi経由</u> LAN経由

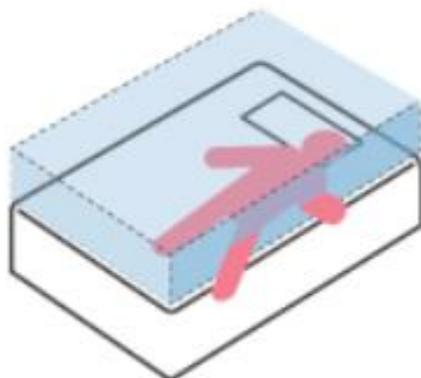
安全系：カメラタイプ



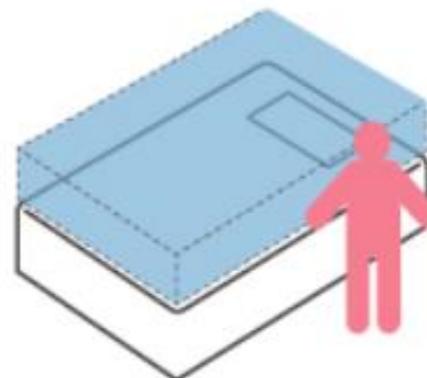
検知の種類



① 起き上がり検知



② はみ出し検知



③ 離床検知

【出典】 キング通信工業株式会社 HPより

【写真】 砧ホームより

安全系：カメラタイプ

シルエット見守りセンサの履歴機能

安全系：カメラタイプ



事故の見える化

☆ 事故の本質的な要因にせまる
核心的な再発予防策の立案が可能！

⇒ 事故の再発を防止

⇒ 生活の質の向上

⇒ ケアの生産性の向上

バイタル系

覚醒状況に応じた支援



バイタル系



覚醒状況に応じた支援

目指すべき姿

眠りSCANを活用することによって、**覚醒状態に応じた起床介助**を行い、利用者が気持ちよく起きることができるようなケアを目指す

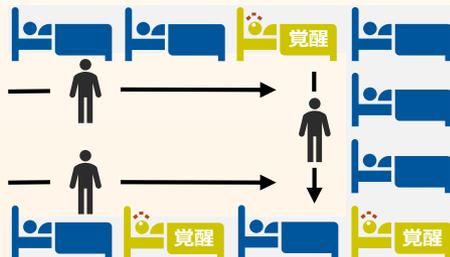
課題

部屋順に声をかけて起床を促すような職員起点のケアが行われている、と感じている

ICT 導入前後の オペレーション 変化

導入前のオペレーション

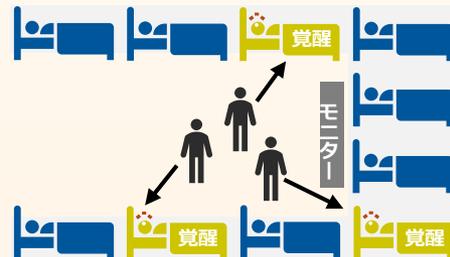
部屋の並び順（コの字型）に起床介助を実施



端部屋の利用者の起床時間が早め（5時台）、それ以外の利用者の起床時間が遅め（6～7時台）となっていた

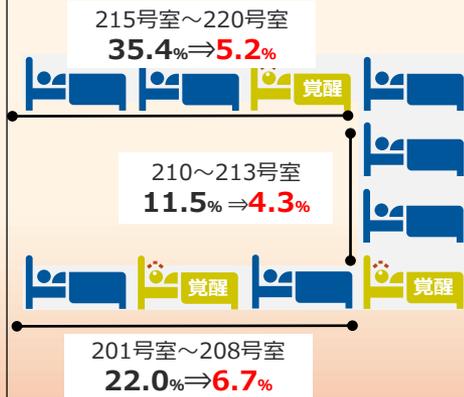
導入後のオペレーション

リアルタイムモニターを確認し、覚醒状態の入所者を優先して起床介助を実施



起床介助時の覚醒状況

導入前、特に端部屋の利用者に対しては、声をかけて起きてもらう割合が高かったが、**導入後は4～6%に減少した。**



モーニングケア

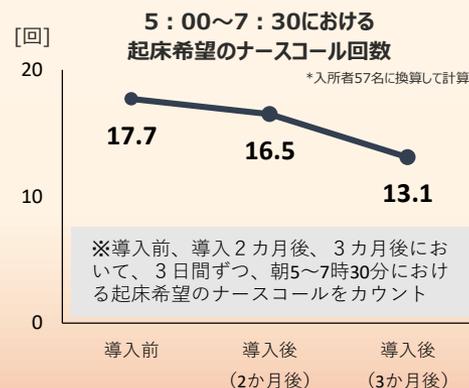
目覚めの状況に応じた起床介助によって、**水分補給等のモーニングケアがスムーズになったと約半数の職員が回答した。**

問：入所者の目覚めの状況に応じた起床介助によって、下記のモーニングケアがスムーズになりましたか。

n=19	非常に そう思う	そう思う	どちらとも いえない	そう 思わない	全く そう思わない
移乗	16%	37%	42%	5%	0%
移動	17%	33%	44%	6%	0%
整容	11%	42%	47%	0%	0%
水分補給	26%	26%	42%	5%	0%
朝食	26%	21%	47%	5%	0%

起床希望のナースコール回数

見守り機器導入前は5時～7時半に起床希望のナースコールが17.7回鳴っていたが、**導入後3カ月で13.1回に減少した。**



効果検証 結果

【資料】全国老施協版介護ICT導入モデル事業報告書より（公益社団法人全国老人福祉施設協議会）

バイタル系

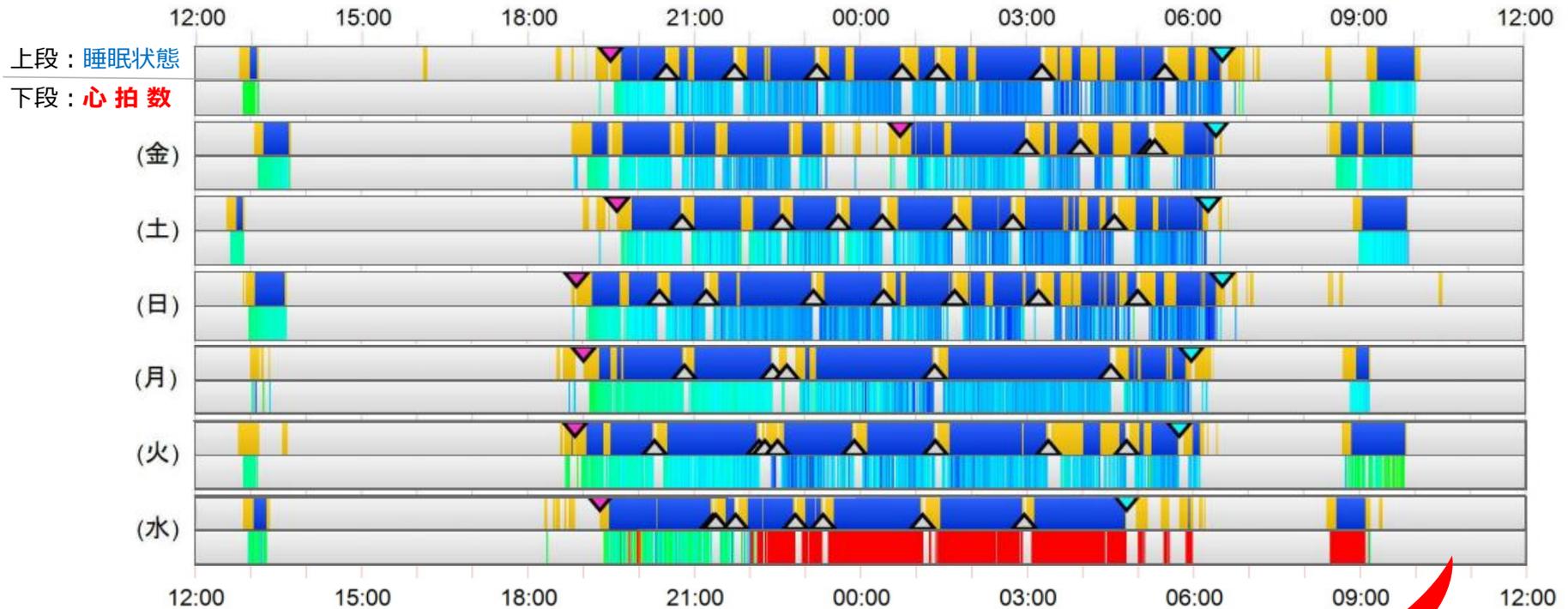


急変を早期発見する支援

心拍数の見える化

心血管系の異常を早期に発見

心拍数 40 bpm 120 bpm



【資料】 88歳女性における無症状の大動脈解離の事例（砧ホーム）



大動脈解離にて
緊急手術に!

1.介護ロボットを活用した 生産性向上の取り組み

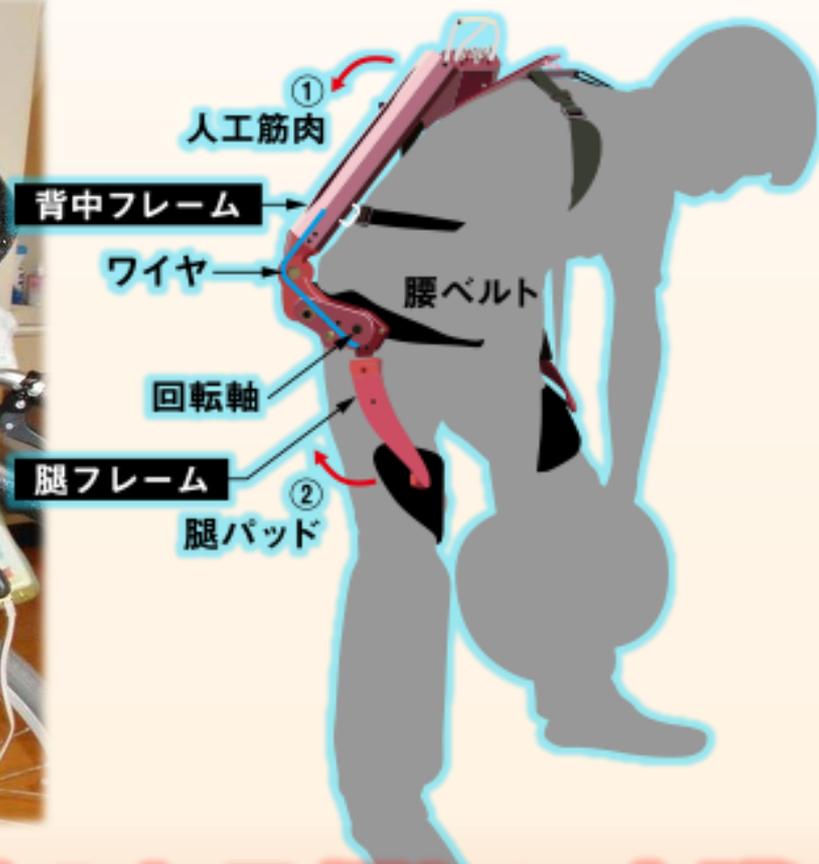


移乗支援機編



移乗支援ロボット (装着型)

- マッスルスーツ



サポート力による余裕のある優しい介護

【写真】 砧ホームより

【図】 株式会社イノフィスHPより

移乗支援ロボット (装着型)

- マッスルスーツ



移乗介助

排泄介助 入浴介助

朝のゴミ出し



床のモップ掛け



【写真】 砧ホームより

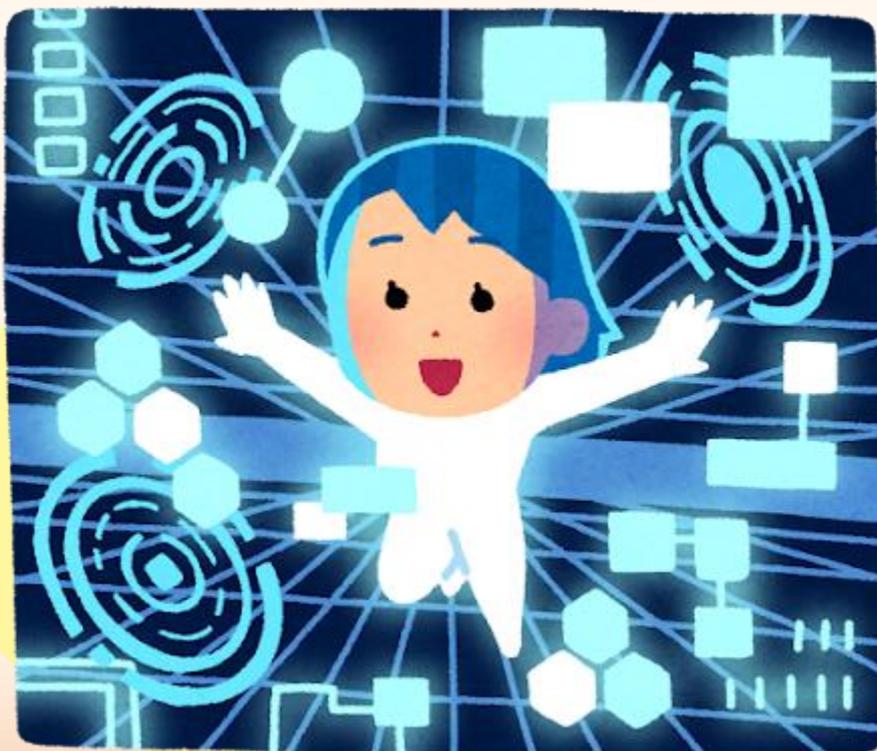
使いやすくする工夫

ハンガーラック

点滴棒



2.ICTを活用した 生産性向上の取り組み





バイタル自動記録

TB-eye クリアトークカム10
×10台



インカム



記録入力

ICTによる 職場環境づくり

音声通知連携

【事例】 砧ホーム



福祉の森FUTURE
タブレットシステム
タブレット
×10台 同時接続



シルエット見守りセンサ

見守り支援機器

眠りSCAN ×60台
(介護ロボット)

×5台
(介護ロボット)

介護記録ソフト



VS測定器からの自動記録転送機能



訪室



測定



加筆



送信



Bluetooth®対応バイタル測定機器

自動転送→

Bluetooth®
測定値自動転送

入浴可否
クリック選択

まとめて
ワンタッチ送信



入力不要で手間も時間も掛からない

インカム



離れていても、いつでもつながる安心と効率



介護



看護



看護

看護

介護



フロア



【写真】砧ホームより

介護機器等を活用した

生産性向上の取組みの成果

○直接的効果 ⇒ 働きやすい職場
働き続けられる職場

○副次的効果 ⇒ 働きたい職場

◎超副次的効果 ⇒ 働きがいのある職場

- ・ 試行錯誤しながら使いこなすことで 高まる課題解決力
- ・ 自律的に進化できるポジティブで アクティブな職員育成
- ・ 変化することを恐れない チャレンジングな組織風土

活用を通じて
養われる「変革力」!



「変革力」は、
生き残るための条件



チャールズ・
ダーウィン

介護ロボット等導入支援特別事業(平成27年度補正予算)
「介護従事者の負担軽減に資する介護ロボット導入促進事業」
- 厚生労働省 老健局 高齢者支援課 -
(上限92.7万円、補助率10/10)

見守りケアシステムM1
×3台



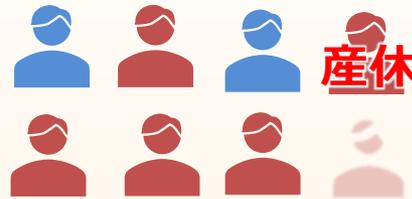
【製品画像】メーカーHPより

2016年1月

初めて導入した介護ロボット



2017.4採用



産休



2022.4採用

9名(10名中)
が就業中!
(うち産休中1名)

介護ロボット導入以降、6年間に採用した**常勤介護職員9名**(10名中)が就業継続中!
(2023.10現在、うち1名が産休中)

2020年4月1日から

常勤介護職員の離職率 (3年) 連続0%!



公益財団法人テクノエイド協会

令和5年度 介護ロボット等活用ミーティング

介護機器等を活用した生産性向上の取組みを推進しよう

「介護現場の環境改善と



生産性の向上」



終



共に生きる

社会福祉法人 友愛十字会

YouTube ▶

介護ロボットの活用のコツ！



令和5年8月24日 - 首相官邸 -

私たちは、
地域に信頼されるべき存在であり続けます
～ We will continue to be trusted by the community. ～

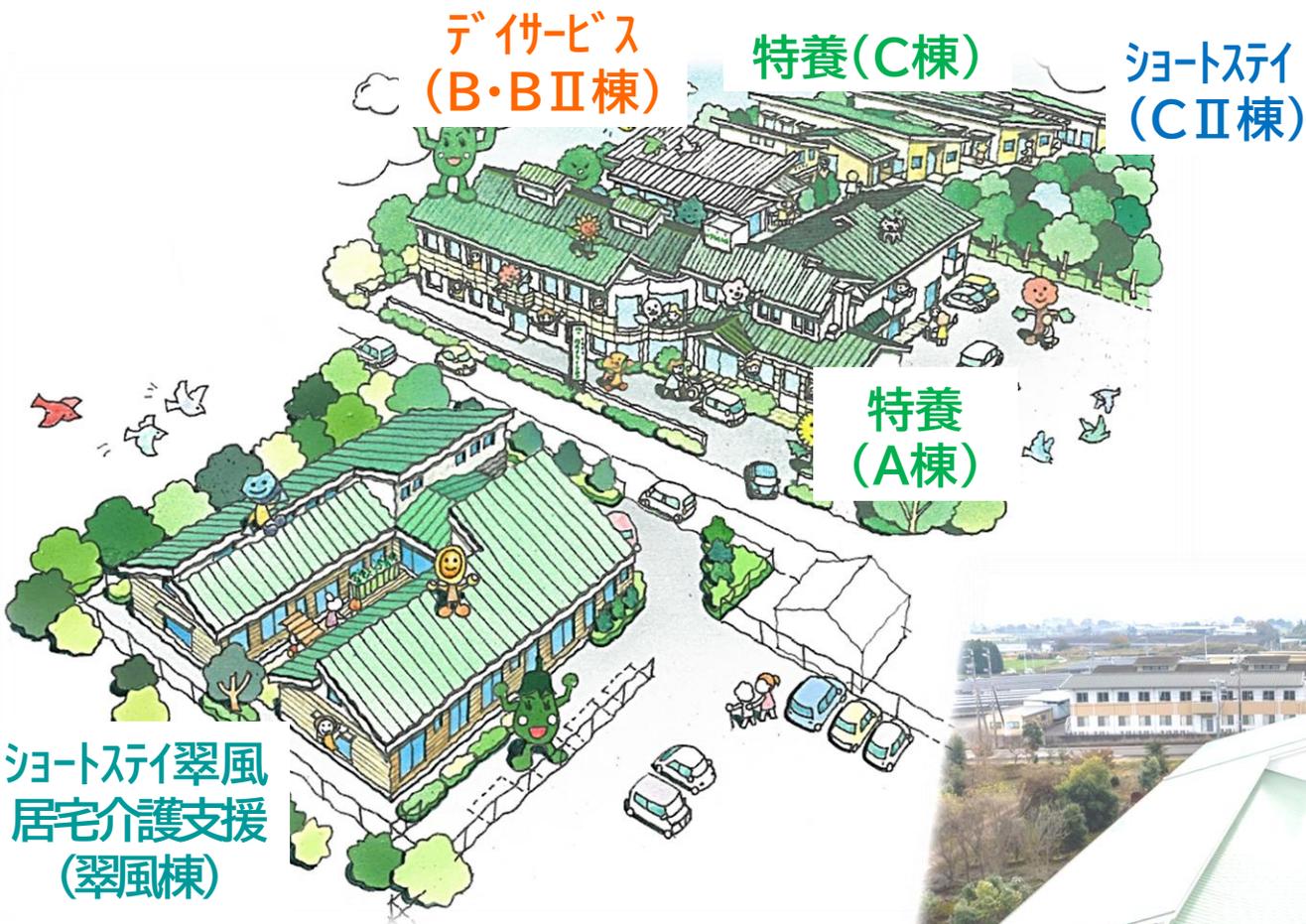
介護機器等を活用した 安心・安全な介護の実現

鈴鹿グリーンホーム ショートステイ翠風
ユニットリーダー 多賀 ひとみ



社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

当ホーム・各事業所の状況（サービス種別と配置図）



平成5年(1993年)開設

- ・特別養護老人ホーム 80床
- ・併設ショートステイ 10床
- ・介護デイサービス 70名
- ・介護予防普及啓発事業

- ・単独ショートステイ 20床
- ・居宅介護支援



ショートステイ翠風の特徴



外観



エントランス



リビング



中庭

1. 鈴鹿グリーンホームの周辺7地区の状況（2023年6月30日現在）

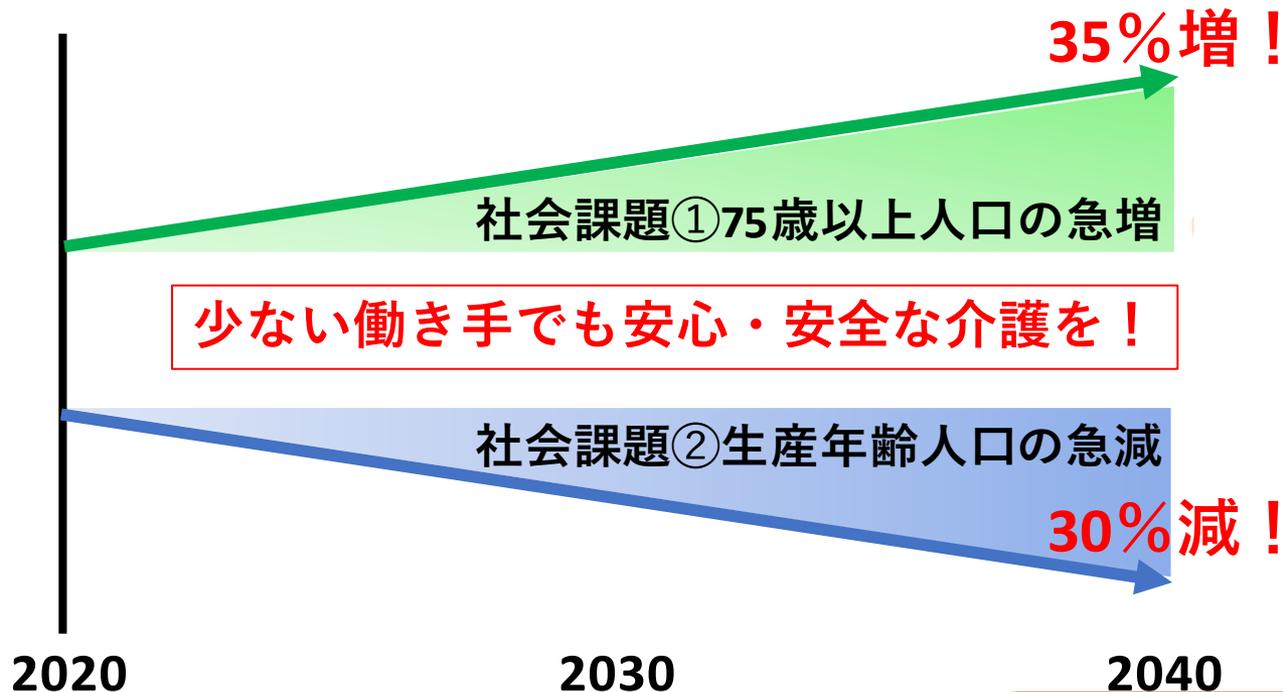
鈴鹿市全体 総人口：195,867人 65歳以上割合：25.8%
75歳以上割合：13.9%

	人口	65歳以上割合	75歳以上割合
深伊沢地区	1,884人	32.4%	15.5%
久間田地区	1,953人	34.3%	20.1%
石薬師地区	6,001人	33.2%	19.0%
加佐登地区	5,049人	26.0%	14.2%
鈴峰地区	3,283人	32.1%	16.3%
椿地区	1,502人	35.2%	19.5%
庄内地区	1,990人	39.7%	21.4%
7地区計	21,662人	32.2%	17.7%

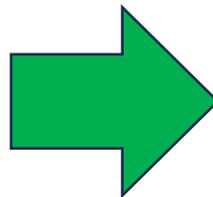
市全体より約6%高い

市全体より約4%高い

2. 当ホームの方策



地域の社会課題
について、どう取
り組むか...



機器を活用して安心を
効率的に!
(ICT・ロボット活用)

災害時でも安心できる
介護を!

3. 当ホームでの導入状況

<p>マッスルスーツ 【パワーアシストスーツ】</p> <p>介護スタッフが背部に装着し（背負い）パワーを補助します</p> 	<p>J-PAS freairy 【パワーアシストスーツ】</p> <p>介護スタッフが背部に装着し（背負い）パワーを補助します</p> 	<p>SASUKE 【移乗支援ロボット】</p> <p>ベッド⇄車いすの移乗助に使用します／付属のハンモック状のスリングシートを用いることで職員・ご本人双方の負荷を軽減します</p> 
<p>HitomeQ【カメラ系センサー】</p> <p>天井に設置し、体動や離床を手元の端末で確認することができます シルエット機能付で、訪室することなく様子を伺うことができます</p>  	<p>Neos+Care【カメラ系センサー】</p> <p>居室壁面上部に設置し、体動や転倒などを手元の端末に知らせが入ります シルエット機能付で、訪室することなく様子を伺うことができます</p>  	<p>i-PAL 【移乗支援ロボット】</p> <p>座位から立ち上がり支援するロボットです</p> 
<p>眠りSCAN 【マット系センサー】</p> <p>ベッドマットレスの下に設置します 呼吸・脈拍・睡眠・覚醒・ベッド上での座位・離床を手元の端末で確認することができます</p>  	<p>安心ひつじα 【マット系センサー】</p> <p>ベッドマットレスの下に設置し、体動・心拍・呼吸・離床を手元の端末で確認することができます／ナースコール機能が付加されていて手元のスマートホンに通知が入ります</p>  	<p>D Free 【排せつ予測デバイス】</p> <p>膀胱部に張付し、生体に安全な超音波により膀胱の尿量を手元の端末で確認します 適切なタイミングでの排せつ支援のために使用します</p> 
<p>メンタルコミットロボ・パロ 【コミュニケーションロボット】</p> <p>アザラシ型のコミュニケーションロボットです癒しの効果を求めています</p> 	<p>《開発実証中》アイススペック 【マット系センサー】</p> <p>ベッドマットレスとベッドの脚部に設置し、生体サインや離床を手元の端末で確認することができます／ナースコール機能と体重測定機能が付加されています</p> 	<p>《試用中》aams【マット系センサー】</p> <p>ベッドマットレスの下に設置し、呼吸・脈拍・睡眠・覚醒・ベッド上での座位・離床を手元の端末で確認することができます</p> 
<p>《実験中》V Care【カメラ系センサー】</p> <p>居室や共有スペース壁面上部に設置し、転倒や離床などを手元の端末に知らせが入ります 画像機能付で、訪室することなく様子を伺うことができます</p> 	<p>介護ロボット：以下3つの要素技術を有する、知能化した機械システムのことです</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を感じ（センサー系） ・判断し（知能・制御系） ・動作する（駆動系） <p>【厚生労働省ホームページ】</p> <div style="text-align: right;"> <p>介護ロボット - 10機種・99台 -</p> <p>社会福祉法人 鈴鹿福祉会 鈴鹿グリーンホーム</p>  </div>	

4. 安心ひつじα

(引用元：株式会社エヌジェイアイ公式ホームページ(安心ひつじα))

- 離れた場所での状態確認
- 異常の早期発見・早期対応
- 夜勤スタッフの安心材料

Point!



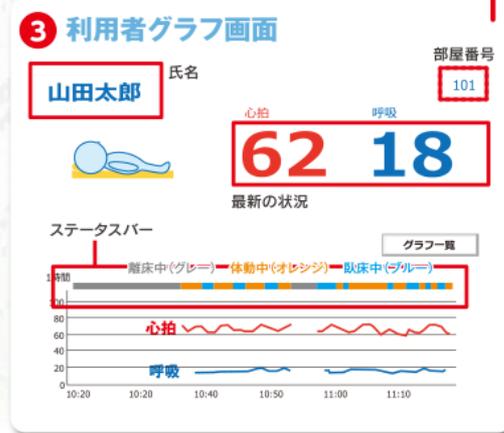
■PCで確認



イメージ画像



■iPhoneで確認



5. HitomeQ(ヒトメク)



注記

プライバシー保護

通知時以外でお部屋の映像を確認することはできません。また、転倒・転落時以外は映像記録されません。

通知

仕様外のシーンが存在するため、誤報や失報が一定割合で発生します。

(引用元：[コニカミノルタ公式ホームページ\(HitomeQ\)](#))



(引用元：[コニカミノルタ公式ホームページ\(HitomeQ\)](#))

- 通知からスタッフが対応するまでの時間を分析
- スタッフの居室の滞在時間を分析
- 通知や対応が多い時間帯の分析
- 通知や対応が多い居室の分析
- 見えなかった利用者の行動を分析
- スタッフごとの業務内容のばらつき
- ケアの方法や介入時間のばらつき



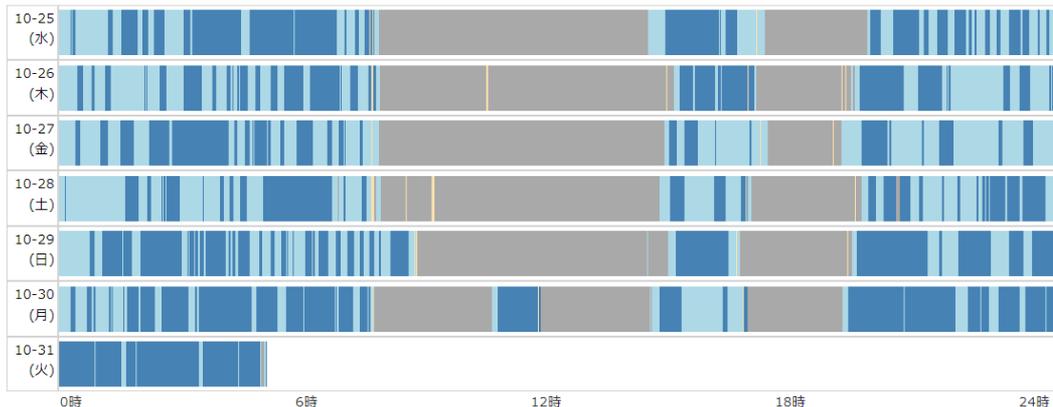
※月に1回メーカー様とディスカッション

CARE LOUPE

NEW

■ 睡眠状態の分析

居室での過ごし方



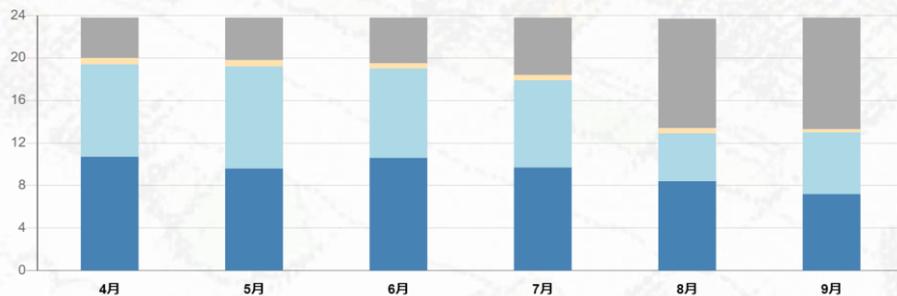
印刷

増減色の表示 ?

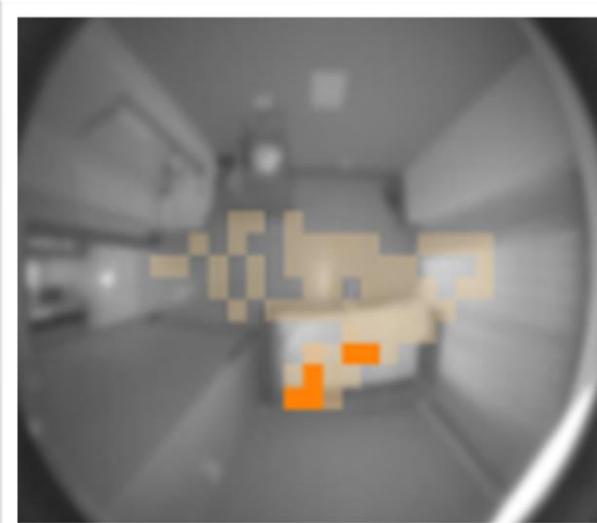
【月集計】

2023年4月
~
2023年9月

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
昼間	離床時間	3.8	3.9	4.3	5.3	9.4	9.9
	室内離床時間	0.5	0.5	0.4	0.5	0.3	0.2
	在床時間	7.6	7.5	7.1	6.1	2.2	1.6
夜間	睡眠時間	7.0	6.6	7.4	7.1	7.2	6.2
	在床時間	11.8	11.8	11.9	11.9	10.8	11.4
日数		30	31	30	31	26	28



■ 色が濃い場所ほど滞在時間が長い



居室外 室内離床 覚醒 (在床) 睡眠 (在床)

6. Neos+Care(ネオスケア)



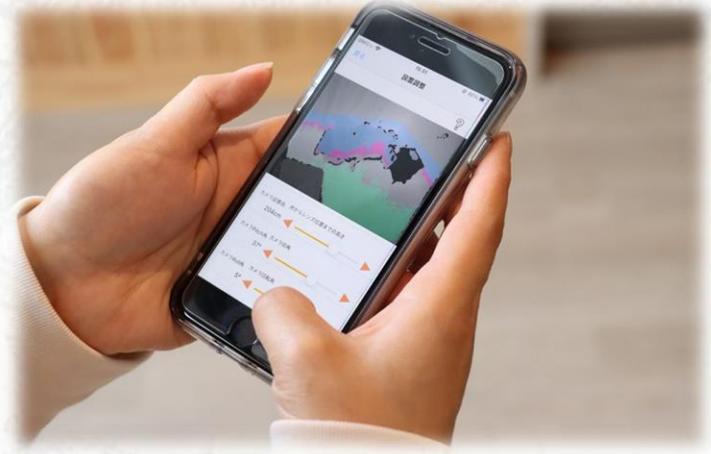
- 状態に応じた通知設定
- 素早い通知と素早い訪室
- 画面確認による訪室判断
- プライバシーへの配慮
- 事故の原因と対策



Point!



■壁に設置し利用者の体動を検知



■iPhoneに通知、その場で様子確認

7. 課題

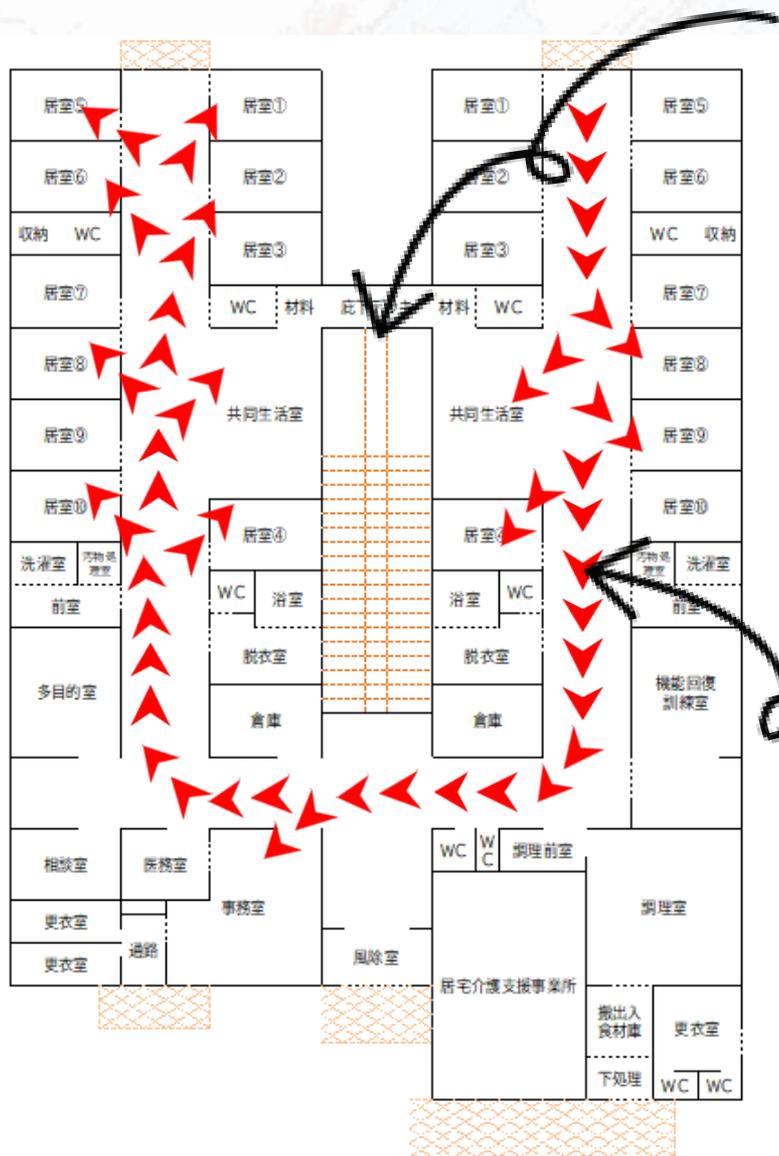
中庭



- 隣のユニットの様子が分からない
- 隣のユニットの音は聞こえない
- 中庭があり動線が長い

■端から端まで143歩

■時間になると1分20秒以上



8. 対策



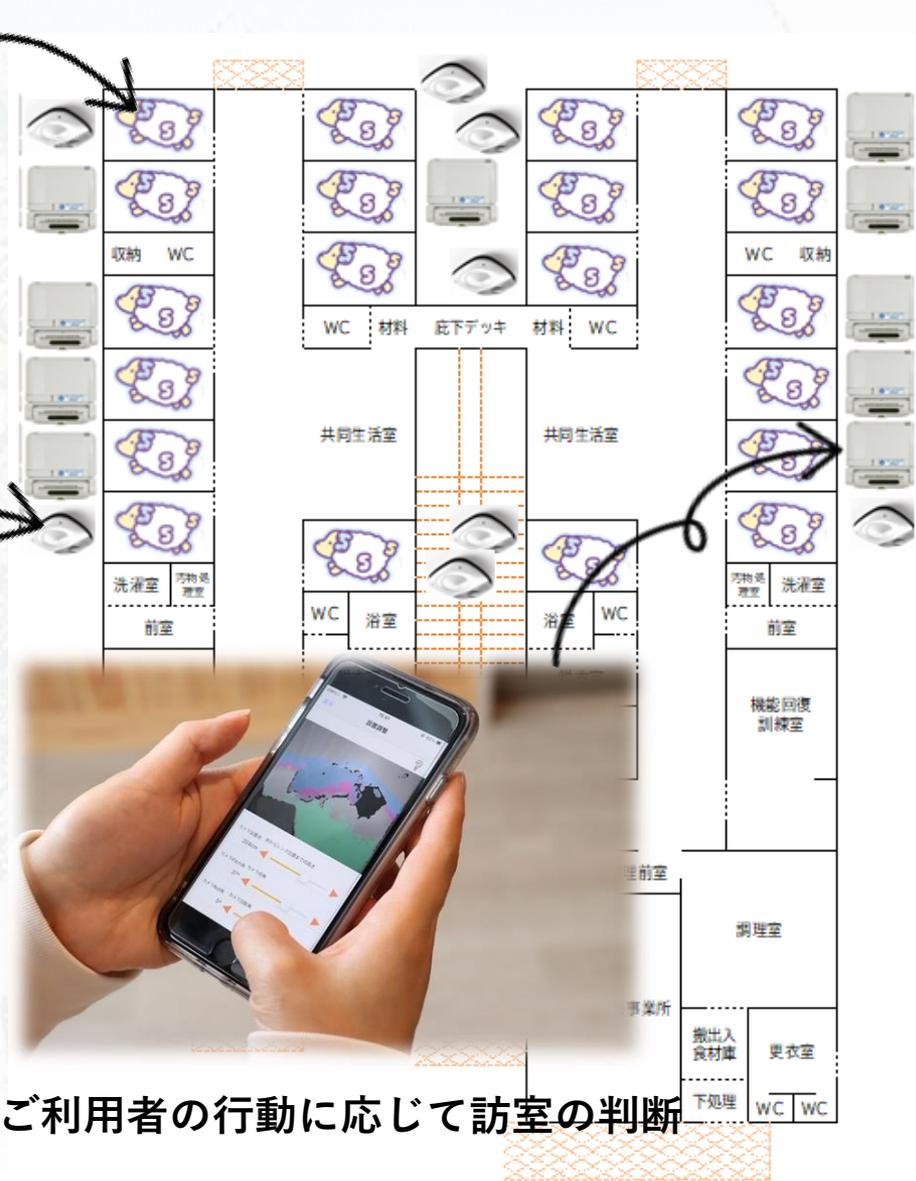
■全居室の体動・心拍・呼吸・離床を
画面1つで確認

(引用元：[コニカミノルタ公式ホームページ\(HitomeQ\)](#))



■24時間データの収集・分析・改善

■必要時以外は無駄に
動かなくて良い



■ご利用者の行動に応じて訪室の判断

9. 情報共有



■NASを活用したデータの共有



■iPhoneでfacetimeやメールを活用



■Webでオンラインの会議や研修・見学・レク

- 紙媒体でのデータ共有の削減
- どのパソコンでも同じデータを確認
- 自宅からでも会議に参加
- 手元のiPhoneで情報確認・通話



Point!

9. 情報共有

■インカムを活用した情報共有



■Wi-Fiを経由しないため
停電時でも使用可能！



- 災害や停電時でも使用可能
- その場ですぐに連絡・相談可能
- 装着している全員に共有可能
- 生活空間を乱さないスマートな連絡



Point!

10. ホームページの活用

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
鈴鹿グリーンホーム

059-374-4600

トップページ 経営理念 理事長挨拶 グリーンホーム だより 事業紹介 法人沿革 情報公開 採用情報 施設マップ アクセス

気持ちを「かたち」に
ころづかいを地域の皆様に
思いやりを地域の皆様に

お知らせ
2023.10.18 お知らせ
(令和5年度) 第2回 福祉の就職フェアinみえ

○ グリーンホームだより

鈴鹿グリーンホームHOME > グリーンホームだより

フリーワード検索

フリーワード検索 検索

すべての記事

- 特養（特別養護老人ホーム）
- ショートステイ（特養併設）
- ショートステイ翠風(suifu)
- 居宅介護支援事業所(ケアプラン)
- デイサービスセンター
- 悠々デイサービス
- 悠々グループホーム
- 活動・コラム
- 学び・研修
- お知らせ
- 季節のおたより

ハッシュタグ

#テクノロジーの記事一覧(196件)

並び順: 最終更新日



活動 ええな〜! 19
ATCエイジレスセンタ
ーを訪問しました

社会福祉法人 鈴鹿福祉会
2023.10.27

#ATCエイジレスセンタ
#ICT #テクノロジー



デイ ええな〜! 11
フレイル予防プログラ
ムデイリーアクショ...

デイサービスセンター
2023.10.27

#ICT
#すずか健康マイレーシ



特養 ええな〜! 23
見守り支援ロボッ
ト「HitomeQ」ベッ...

ショートステイ翠風 生...
2023.10.26

#ICT
#ショートステイ翠風



活動 ええな〜! 24
福祉の職場バス見学in
みえ

施設長
2023.10.24



デイ ええな〜! 6
フレイル予防プログラ
ムデイリーアクショ...

デイサービスセンター
2023.10.24



特養 ええな〜! 10
マッスルスーツExo-
Power・GS-BACK

施設長
2023.10.23

鈴鹿グリーンホームで検索！

<https://suzuka-greenhome.jp/>

ええなあ〜！をクリックお願いします！



335 人が「ええな〜！」と言っています。

Point!



ご清聴ありがとうございました



私たちは、地域に信頼されるべき
存在であり続けます



社会福祉法人 鈴鹿福祉会

鈴鹿グリーンホーム

自立を尊重しながら安全性を保つ 介護ロボット・ICTの活用

社会福祉法人シルヴァーウィング
理事長 石川 公也

法人紹介

1. 法人概要

法人名	社会福祉法人 シルヴァーウィング
法人所在地	東京都中央区新富1-4-6
設立年月日	平成13年1月22日
職員数	常勤116名、非常勤71名
施設	東京都中央区 特別養護老人ホーム新とみ 東京都練馬区 特別養護老人ホームみさよはうす土支田 練馬若年性認知症サポートセンター 東京都新宿区 特別養護老人ホームみさよはうす富久 小規模多機能型居宅介護施設・ 通所介護施設 戸山いつきの杜 他



英語教室 →

人・ロボット・ICTの融合により変わる介護現場

1. 課題解決に向けてロボット・デジタル技術を活用

持続可能で質の高い介護サービスを実現していくためには、

(1) 介護従事者の負担軽減(雇用環境の改善)

介護者の身体にかかる負担の軽減や見守り看取りなど精神的に負担となる業務をサポートして、心身の負担を軽減

(2) 人手不足への対策(効率化・生産性の向上)

介護の業務量そのものを減らすなど、専門性や働きがいが高まる職場環境の実現

(3) 自立支援・QOL向上への取り組み (個々人に最適なサービスを提供)

低下した身体機能を補助して自立をうながしたり、ロボット技術を応用したリハビリなどにより重症化防止

*腰痛による休業4日以上の労災申請数は全産業の30.6%が保健衛生業(2018年)

先進的介護システム導入の経緯

東京都産業労働局「課題解決型雇用環境整備事業」に選定され

1. 業務効率化と雇用環境改善の取組み

(1) 介護記録の電子化による間接業務の効率化

①リアルタイムで健康情報や、実施した介護サービスの記録等を共有

②社内メールで朝、夕礼の申し送り等の介護情報を全職員に周知

(2) 介護ロボット導入による業務の負担軽減

①介護職員の離職率の低下

②利用者の安全と自立を高める

③高齢者等の雇用機会の拡大

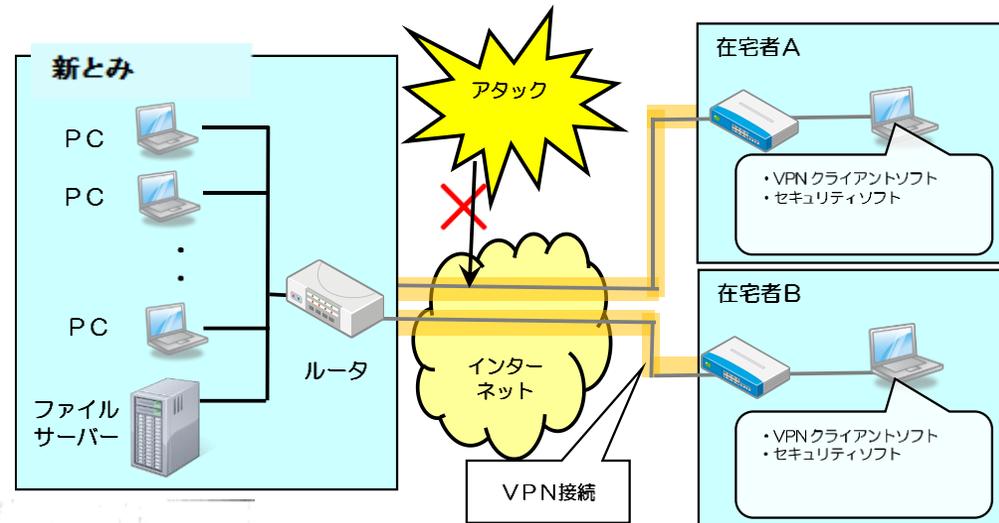
(3) テレワークによる障がい者雇用

・介護職員の職務時間は食事、入浴、排泄介護で45%程度で、記録等の間接業務が30%程度

先進的介護システム導入への経緯

①VPN(仮想専用線)を用いて
ネットワーク環境を構築

②雇用環境の整備



社会福祉法人に就職した
人ひとさん

「納税」の夢へ一歩



「将来は、自分の経験を生かし、障害者支援で役立つ存在になりたい」
先天性の視覚・身体障害の重複障害を持つ さん(28)。今年2月に東京・中央区の社会福祉法人シルヴァーウィングに就職、社会人としての一歩を踏み出した。強度の弱視と、脳性まひの影響で左手足が不自由。一人での移動は難しいため、在宅勤務が基本だ。今は特別養護老人ホームでの面会票のデータ入力を行っている。

働いて、税金を払うことは、さんの目標だ。中学2年生の時、学校の課題で取り組んだ税に関する作文が内閣総理大臣賞を受賞した。テスト問題を全教科点訳してもらっていることとだけ税金がかかっているか考え、責任を痛感。『成人後はしっかりお返しとして、税金を払うことができる人間にならなければならない』と、頭張って勉強している」と話した作文は、当時、国会でも話題になった。

さん自身の転機にもなった。施設の送迎車を使ってくれる。さんの能力に合わせて、仕事内容や環境整備への配慮もしている。法人によると、さんの努力する姿は、他の職員にもいい刺激になってくるとい。

勉強は人一倍以上の努力で乗り切ったものの、就職は大きな壁だった。さんの場合は、一人で移動できないのがネックだ。「企業側の出した条件に、あてはまる人を探している」と感じたという。諦めずに門をたたき続け、卒業から就職までに3年かかった。今の法人では、月1回の通勤時に

勉強は人一倍以上の努力で乗り切ったものの、就職は大きな壁だった。さんの場合は、一人で移動できないのがネックだ。「企業側の出した条件に、あてはまる人を探している」と感じたという。諦めずに門をたたき続け、卒業から就職までに3年かかった。今の法人では、月1回の通勤時に

た。高校時代には、東京都教育委員会が開催する「東京未来塾」(現在は閉塾)の塾生に選ばれ、ノーベル物理学賞受賞者や企業の社長など、社会の第一線で活躍する人の講義に刺激を受けた。その後、首都大学東京に進学。「自分に身近な学問」と感じた社会福祉学分野を専攻した。



障害学生に必要な支援について母校で話す、さん(中)

介護ロボットの現状と課題

1. 介護ロボットの分類

(1) 既存の製品をロボット化した機器

すでに市場を形成している介護、福祉機器にロボット技術を目的に応じ組み込むことで、性能やコスト、個別性への配慮などの顧客価値を高めた機器

(2) 従来の技術では困難であった機能を持った機器

既存の製品では実現できなかった分野で開発した機器



介護ロボットの現状と課題

2. 介護ロボットの導入例

(1) 移動支援 搭乗型



□サービスの改善（ヒアリング結果）

- 階段昇降での介助職員の負担が軽減した。
- 移動や持ち運びが出来るので、いろいろな場
所で使用できる。
- 小型、軽量なので、積み込みや収納が簡単
に出来た。
- 一人で階段昇降の介助が簡単に出来た。
- エレベータの無い都営住宅に住んでいた要
介護の方が、10年振りに外出できたと喜ん
でいた。

アルバジャパン社(独)
ナブテスコ社

スカラモバイル
J-MAX

介護ロボットの現状と課題

(2)排泄支援 水洗式ポータブルトイレ

□ サービスの改善(ヒアリング結果)

対象者は

- ・トイレ移動の不安から夜間ポータブルトイレ、オムツを利用
- ・尿、便意を伝えられるが、トイレへの移乗介護が必要
- ・排泄介助を要するが、定時誘導での排泄が可能

期待される効果は

- ・排泄物処理が可能で自尊心の保護、自立度を高める
- ・臭いが室内に広がらず、衛生を保てる
- ・排せつ物の処理が簡単で、介護者の負担を軽減できる

課題は

- ・便の量や、血便等が分からない
- ・大きな便が流れずに詰まることがある
- ・水の補充の時に水漏れすることがある



介護ロボットの現状と課題

(3) 機能訓練支援 コミュニケーション支援型



□ サービスの改善（ヒアリング結果）

- 会話や歌、体操などに興味を示す方も多く、新しいエンターテインメントの提供手段となった。
- パルコの発する会話の内容を通してコミュニケーションを取ることができた。
- 話題提供の機会が増えた。コミュニケーションツールとして役割を果たしている。
- 「8時です」との声かけで時間の感覚を取り戻した方がいた。

富士ソフト社 PALRO

介護ロボットの現状と課題

(4) 認知症セラピー支援 非言語型



大和ハウス工業社 PARO

□サービスの改善（ヒアリング結果）

- パロを介してコミュニケーションが図れた。
- 不穏時の状況を解消させるきっかけとなり、スタッフ側の声掛けの負担が軽減した。
- 何度も同じことを話さなければならないストレスの緩和になった。
- 愛嬌のあるしぐさと声にいやされイライラしていても落ちついた。

介護ロボット利活用による現場改革

1. 介護職員(ロボット)の業務は

(1) 介護、看護などの専門的な福祉サービスの提供

・移乗、移動 ・更衣、清拭 ・食事、水分補給 ・体位変換 ・入浴 ・排泄 ・服薬 等

(2) 家事や清掃など家庭機能の代替的な役割

・洗濯、清掃 ・清潔、整容 ・リネン交換 等

介護施設で役立つ生活支援ロボットを導入して、日常業務の省力化を図り「利用者と接する時間を増やす」「介護業務に集中する環境を作る」といった視点が大切。

介護ロボット利活用による現場改革

2. ロボット利用の介護へ

人手を基本としながら人とロボットの協働(最適な組み合わせ)を考え、人とロボットのワークシェアで、安心・安全・高品質な介護の実現を目指す

(1) 人のために働くロボットの役割は

- ① 単純作業
- ② 危ない仕事
- ③ 労働の代わり

(2) 何をロボットがやるべきか

- ① 人でなければ出来ない部分(人が得意)と、ロボットで置き換え可能な部分(ロボットが得意)を分類し役割分担
- ② 部分だけの解決でなく、一連の介護業務でのスムーズな利用を想定

(3) 介護ロボットの現状は

- ① 単一作業は可能だが、多様な作業には改良が必要
- ② 職員の介護業務の負担軽減は可能だが、代替は困難

介護ロボット利活用による現場変革

3. 介護ロボット導入のプロセス

機種選定にあたっては、必要性、実績、扱いやすさ、操作の手間、安全性、コスト、保償(メンテナンス体制)、企業の信頼性など考慮して、

- (1)導入の目的や効用・効果を理解して機種を選定
- (2)IT環境など場所の状況を確認
- (3)安全性の仕様及び残留リスクが記載された書面を入手
- (4)利用者の状況に即したアセスメントを行い、ケアプランを作成
- (5)使い方の統一などの職員教育を実施
- (6)事故を避けるため必要かつ十分な情報を共有

介護サービスは対人社会サービスと言われるが、そこで使用される機器は人との接触度が高く、高次の対人安全性が求められる。

介護ロボット利活用による現場変革

4. 残留リスク低減のための現場での取組み

- (1) 機器の正しい使用法の確認
- (2) 想定される機器の誤使用を検討
- (3) 事故発生時の対応を考慮
- (4) 機器を使った現場運用ルールの見直し

介護ロボット利活用による現場変革

5. 介護ロボット社会実装に向けて

(1) 比較優位性のある業務を発見

ロボットが行うことが優位なことや得意なことを見つけることで、ロボットと人が協働して出来る機能を進化させ、安全で効率的な介護業務を行い省力化、最適化を実現する。

(2) 人とロボットの連携基盤を整備

ロボットが働きやすい環境は工場や事務所などの定型的環境ですが、介護施設ではそのような条件を整えるのは困難。あらかじめロボット利活用を想定したロボットインフラの整備(まるごとロボット化施設)が必要になる。

(3) 実用化という視点からの現場教育

介護職やセラピストの養成課程のなかで、現場が抱えている課題を解決できる人材の養成が必要である。

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

1. 記録と見守り機器を連携・統合しデータを一元管理するための業務支援基盤の構築を目指す

(1) 記録システムと介護ロボットを連携させることで情報と記録の共有化

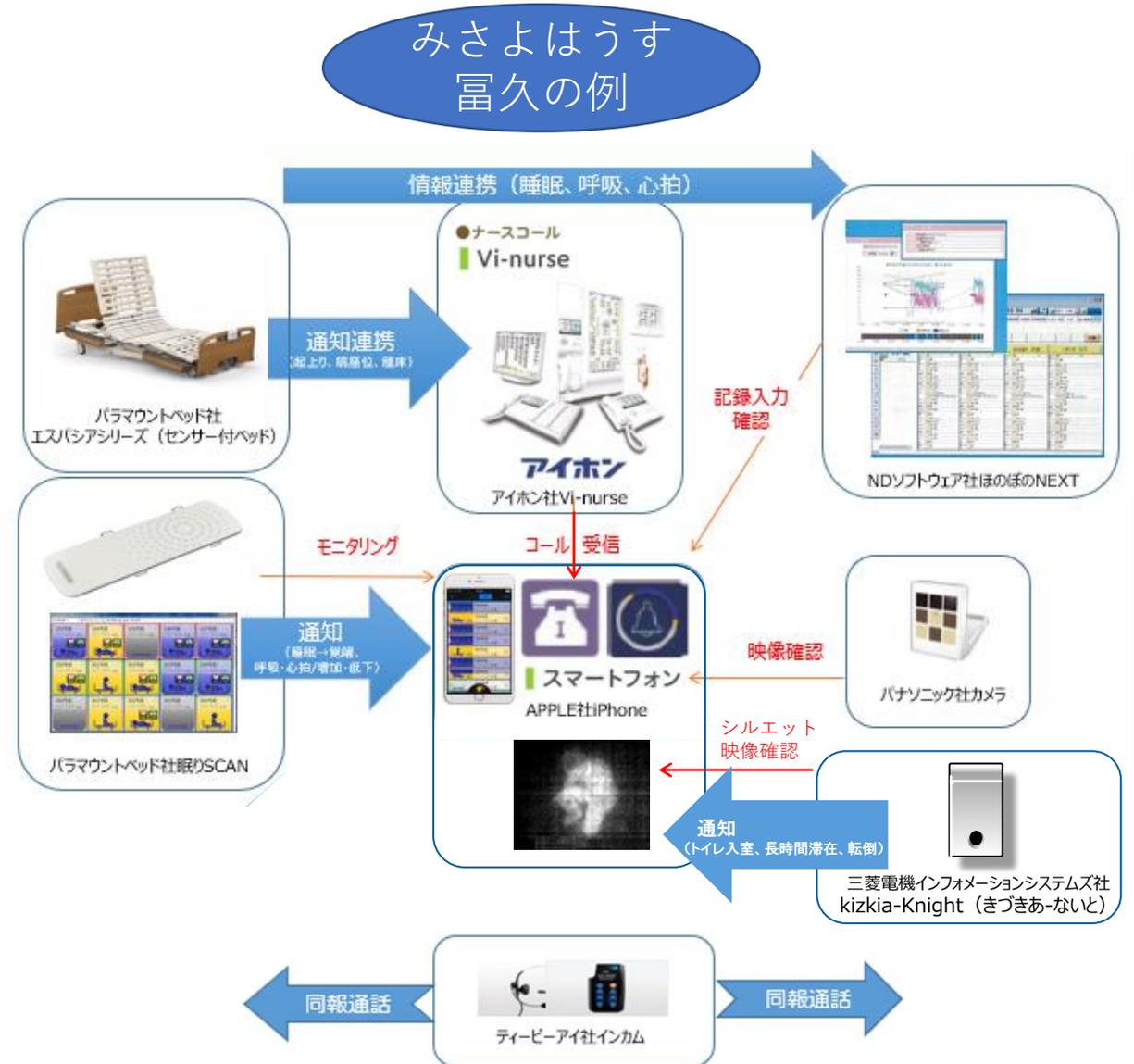
(2) 見守り支援機器等から取得できるバイタル、睡眠等のデータを介護記録に取込み業務の効率化

(3) 転倒防止、夜間巡視業務の軽減、コール対応業務の削減、睡眠改善などを期待

(4) 健康異常に早期に気づき迅速に対応することで、急変や入院を減らすことが可能

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

- ・パラマウントベッド社製センサー付ベッド「エスパシア」にて、起き上がり、端座位、離床をアイホン社ナースコールVi-nurseで通知
- ・パラマウントベッド社眠りSCANを活用し、PC及びiPhoneでモニタリング
- ・覚醒通知を鳴らすことで、入居者が覚醒したタイミングで排泄介助の訪室
- ・呼吸・心拍の通知及び呼吸/心拍日誌の活用で、体調変化に早めに気づくきっかけとして活用
- ・映像での確認が必要な場合には、パナソニック社カメラの映像をiPhoneで確認
- ・トイレの見守り～kizkia-Knight[きづきあ-ないと](MDIS): スマホのシルエット映像でトイレを見守り(トイレ入室、長時間滞在、転倒を検知して通知)
- ・ティービーアイ社インカム「クリアトークカム」を導入
- ・法人内他の施設でも活用していたNDソフトウェア社のほのぼのNEXTを採用、眠りSCANの睡眠情報、呼吸・心拍の情報を連携させた



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

- ・ナースコールをアイホン社Vi-nurseに更新
- ・眠りSCANを導入してナースコール及び介護記録ソフトと連携
- ・ノーリツプレジジョン社ネオスケアを導入しシステムを完成
- ・眠りSCANの状態変化の通知をナースコール経由でiPhoneへ行なう
- ・ネオスケアは事故等があった際の映像確認と対策立案の実施を中心に活用
- ・シート型センサーと映像型センサーを併用し、見守り範囲拡大(ベッド上+フロア部)と映像確認による訪室判断で、転倒事故の低減、夜間の巡視業務を軽減
- ・利用者の睡眠・動作状況を把握し、ADL改善に向けた個別ケアが可能



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

・ナースコールをアイホン社Vi-nurseに更新

・眠りSCANを全数導入してナースコール及び介護記録ソフトと連携

・令和2年度に、眠りSCANと連動するカメラシステム「眠りSCAN eye」を導入予定

・眠りSCANの通知に連動して映像表示ができること、通知前後の録画機能などを検証していきたい



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

1. 排泄支援機器の概略

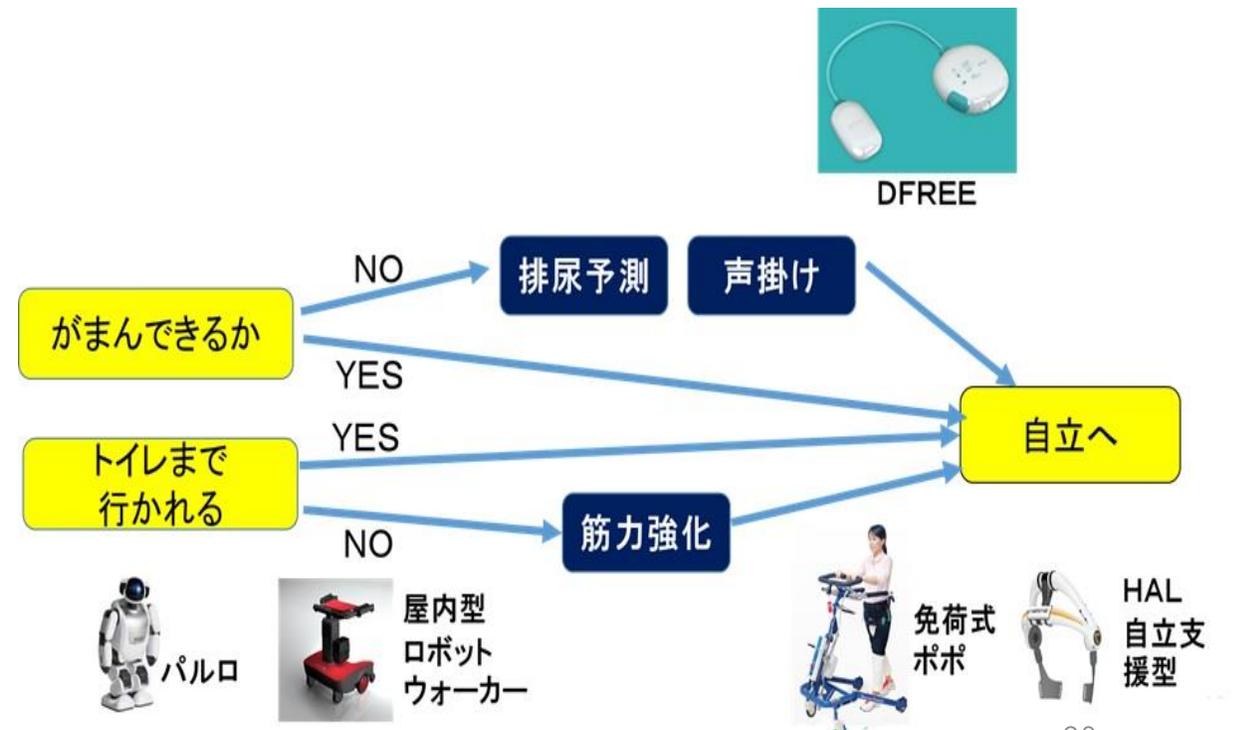
排泄行為は、尿意便意を認知・トイレ移動・下着をおろす・便座に座る・排泄をする・処理する・衣類を付ける・部屋に戻るから成り立ち、どの部分が滞っても介助が必要

2. 排泄支援機器の役割

(1) 自立を支援して生活の質を向上

(2) 皮膚の疾患の予防・改善など、身体的な負担を軽減

(3) 事故防止など療養環境を改善



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

3. 排泄支援機器の連携による環境の整備

Dfree

① 対象者

- イ. トイレ誘導などの排泄自立への支援が可能
- ロ. トイレに間に合わず失禁することがあり、早めにトイレへの誘導
- ハ. 尿意が頻回のため、尿意グラフを活用し改善が可能

② 効果

- イ. 定時のトイレ誘導の時間が適切かを確認し、排泄パターンを考慮したケアプラン(パットの交換時間等)を作成
- ロ. グラフで残尿がある時は、腹圧をかけて尿を出し切る
- ハ. 膀胱グラフが上がるまで尿意が我慢できた、トイレ回数を減らし、利用者、職員の負担軽減
- ニ. 尿意を示せない方もトイレへ誘導

③ 課題

- イ. 取り外してしまう方がいた 違和感の無い工夫が必要
- ロ. 皮下脂肪の厚い方などデータの取得が困難な方がいた
- ハ. 装着時に必要なジェルで赤みが出た方がいた
- ニ. 4時間の充電時間の短縮



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

リバティソリューション
リバティデカルト



排泄における「大・小」モードでの動作確認方法

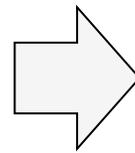
ひまわり本体背面にあるPC接続口とPCをケーブルで接続し、専用ソフトを使用（若干の解析が必要）することで「大」・「小」それぞれのモードが作動した時間を確認できる。

次段階では、自動的に介護記録に取り込み、活用する。

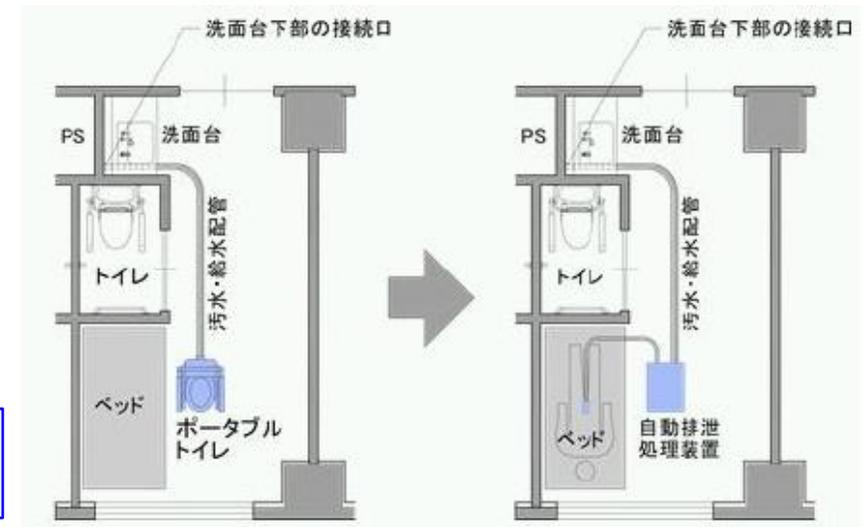


【新設施設で実施】

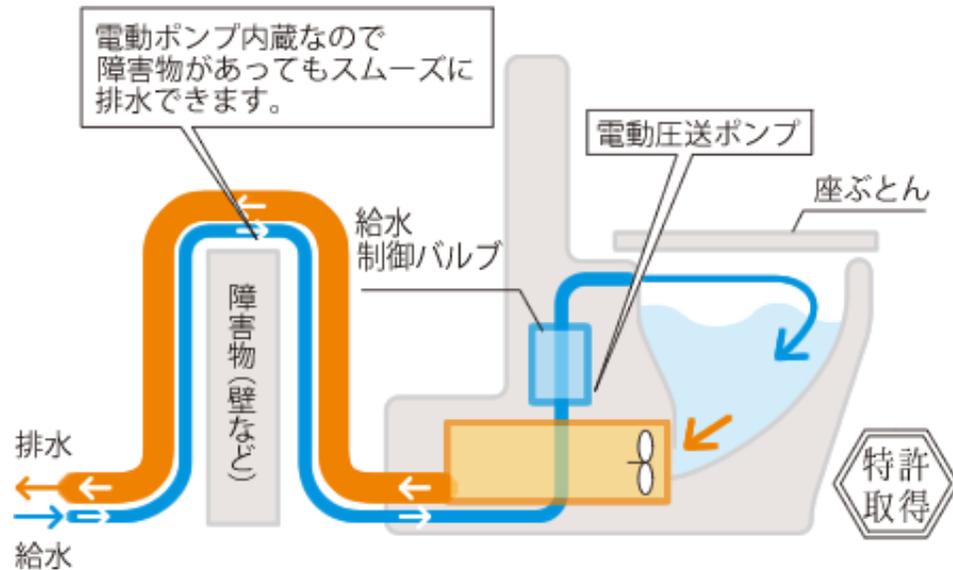
自動排泄処理装置の給水・排水を簡易に配管接続できるようにするには、建物側に接続口を設ける必要があり、ポータブルトイレにも接続できるように規格を統一すれば、利用者の介護度に応じてポータブルトイレ、自動排泄処理装置を使い分けることができ、介護職員の負担軽減および、利用者の満足度向上が可能となる。



居室内に統一規格の給排水接続口



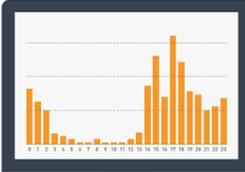
電動ポンプ圧送式水洗トイレ

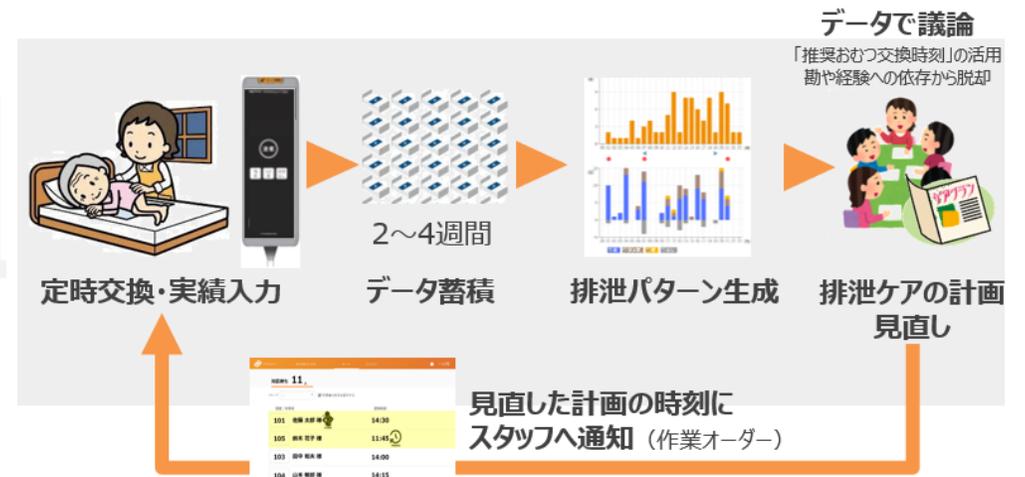


- 電動ポンプの力で汚物やトイレットペーパーを粉碎し、下水・浄化槽等の排水設備へ圧送
- バケツ清掃がなくなり業務の効率化
- 臭いが無くなり居室環境の向上

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

Helppadの3つの特徴

- 1 おむつを開けずに排泄した事が分かる → においで便と尿を検知 
- 2 おむつを履いたまま、シート上に寝ればOK → ベッドに敷くだけ！非装着で使用可能 
- 3 排泄した記録をデータ化排泄パターン表を自動で作成 → 介護にもIotを！適切な排泄ケアのタイミングを分析&表示 



定時おむつ交換+スイッチに結果の入力だけ

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

■ 特別養護老人ホーム新とみ、Helppad導入後3週間での効果事例



利用者Aさん 82歳女性



利用者Bさん 88歳女性

排泄課題	臀部に1センチ弱の剥離が2、3つあり、皮膚の状態悪化を防ぐために排泄後すぐに交換したいが、できなかった。	排泄課題	便が一度にドバッと量が多く、利用者は体動ができるため、便がつぶされ、おむつから漏れることが多く、原状回復に1時間かかる
効果	排便後の通知により、すぐにおむつ交換できることで、清潔を保つことができ剥離が無くなった。	効果	排便後の通知により、すぐにかけてあげることができ、おむつから便が漏れる前に交換ができるので、漏れが無くなった。

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

■ Helppadの課題・期待しているところ

期待している所

- ・介護者の負担軽減、利用者の不快感の軽減につながる製品だと思うので、すごく期待している♪
- ・通知がスマホでもパッと見れたらすごい使いやすいなあと思った！！

課題

- ・カバーがどうしても汚れたりするので、メンテナンスが面倒。
- ・たまに、排泄があったのに、通知が無かったこともあった。



新とみ 介護サブリーダー
ロボット委員会副主任

ヘルプパッド2は、
スマホ対応、メンテナンスが楽になりました
詳しくはブースにて！！



人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

アイサーブ・排泄検知システム

- 効果
- イ. ろうべん行為のある方が2日に1回便汚染をしていた。排泄センサー導入後、ろうべん行為前に気づくことが可能となり、シーツ・被服汚染が減少した。
 - ロ. 皮膚トラブルがある方に使用した。その結果、皮膚の赤みの軽減が見られた。ただし、保湿クリームなどのケアも併用している。
 - ハ. 大量に便の出る方が、以前はおむつを体重で押しつぶして、便汚染になってしまった。センサを取付けることで、便が出てすぐにおむつ交換ができ、便漏れ(便失禁)を未然に防ぐことができた。
- 二. 排泄センサを使用することで、排泄系ケア全体の意識付けにつながった。定時交換から随時交換への兆しが見えた。

概要図

おむつ内側に取付けたウェアラブルセンサが排泄(便)を検知すると無線通信により職員の通知端末へ通信し、排泄を知らせる。

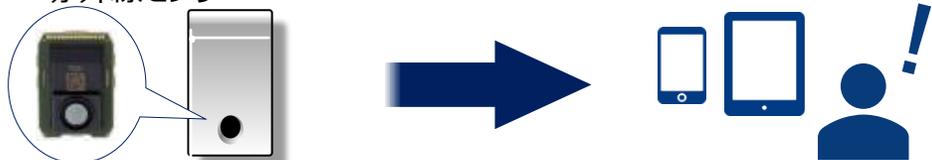


人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

見守り支援 シルエット・画像感知型(赤外線センサー)

kizkia-Knight T きづきあ-ないとT

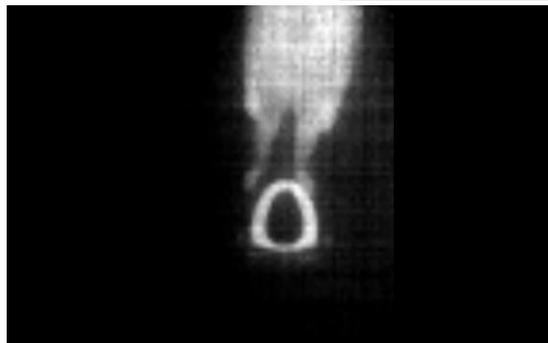
赤外線センサー



温度データをクラウド上でシルエット映像に変換
スマホで様子を確認

- ・トイレ入退室検知
- ・トイレ滞在時間把握

- ・転倒検知→録画
- ・ライブ映像確認



三菱電機インフォメーションシステムズ
kizkia-Knight T

スマホ画面のイメージ



kizkia-Knight T
トイレ倒れ込み検知画面



kizkia-Knight
居室・トイレ共通一覧表示画面



kizkia-Knight R
プライバシーモード画面

人・ロボット・ICTの複合により変わる介護現場

kizkia-KnightT きづきあ-ないとT

課題

- イ. 排泄時は傍らに居てほしくないとの要望がある
- ロ. 排泄終了時にナースコールを押すように伝えても押さないことがある
- ハ. 何かあった場合気づくまでに時間がかかり、対応が遅れる可能性がある
- ニ. どのように転倒したのか状況がわからない、ご家族への説明ができない

効果

- イ. スマホでトイレの様子が確認でき、利用者のストレスにならないような見守りが可能
- ロ. トイレ・長時間滞在の通知によって、良いタイミングで声掛けできるようになった
- ハ. 入室検知、長時間滞在把握、転倒検知などの機能により、早めの対応が可能になった
- ニ. 転倒前後の映像を録画し履歴として見る事が出来、転倒の分析が可能

トイレにおける利用シーン



認知症の方や介助が必要な方が、職員を呼ばずにトイレに行ってしまう

トイレ入室検知

101号室のトイレが使用中になりました



ナースコールを鳴らしてもらえないことがあるので、何度も見に行く必要がある

トイレ滞在時間把握

203室のトイレ滞在時間が設定時間をこえました



導入にあたって工夫した点、変化したこと



介助中にほかの呼び出しがあった場合、優先度を判断して他の場所に駆けつける
夜間は優先度の判断が特に重要
⇒スマホで見てから駆けつけを判断



なかなかトイレから出てこない時に、何度も中を確認すると、入居者様のストレスになる
⇒まずはスマホで見て確認



転倒事故が起きてしまった時に、事故の経緯が分からない
⇒録画映像で確認

ロボット導入の取組みと成果

1.導入の有効性を検証

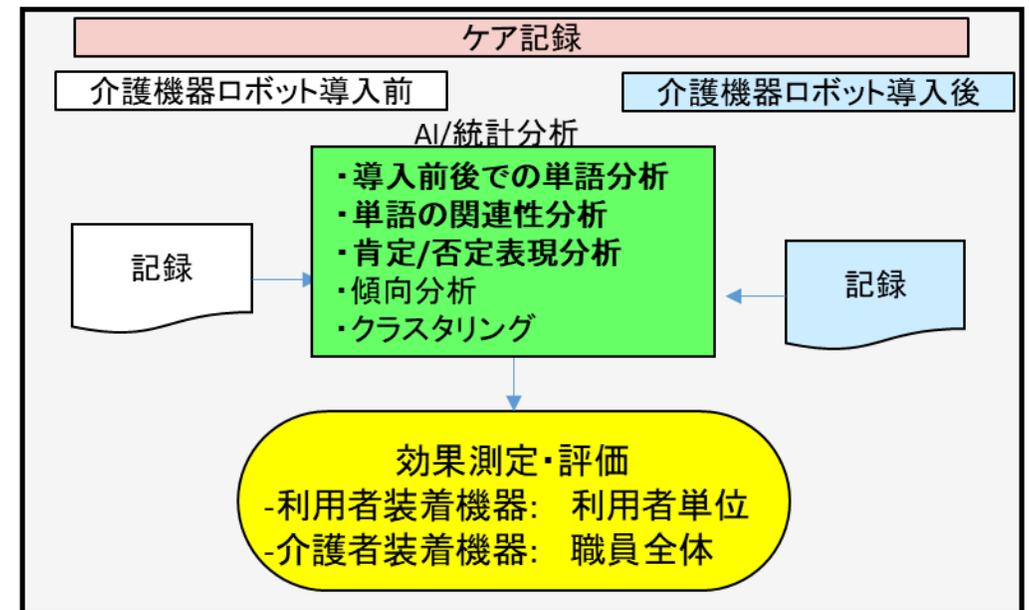
介護現場で導入効果を定量的・客観的に臨床評価して、有効性を検証するシステム確立が求められている

介護ロボット機器導入の効果測定

2.導入効果の測定

導入前後のケア記録・ケアプランを分析調査

当法人でのケア記録(AI分析)の事例



記録の電子化による介護の質向上と業務効率化

1. ICTの利活用がもたらす新しい介護

情報共有ができる組織を作ること、

- (1)職種間の信頼関係を構築(情報共有)
- (2)互いの仕事内容の意味と成果について理解(共通意識)
- (3)職員の能力向上(チームケア)

2. 電子記録導入しての取り組み

- (1)各帳票の項目を洗い出し、必要性を検討した。また、改めて帳票の目的を検討し、項目を増やすなどの工夫を行った
- (2)排泄記録、バイタル記録等を記録システム導入時に集約し、情報を統合した。さらに職員が記入する内容を整理し、定型文を作成した
- (3)介護職と看護師の入力内容が明確に区別できるよう、看護職は赤字で入力とした
- (4)フロア、職種毎に入力ルールを決め、手順書をまとめた
- (5)入力した記録を見落とすことがないよう、全職員に社内メールを送る

記録の電子化による介護の質向上と業務効率化

3. 必要な介護情報は

- (1)実施した介護サービスの状況を把握するための情報
- (2)心身機能の変化などサービス実施の効果を分析する情報
- (3)病状などを客観的に捉えるための情報

＊利用者支援、自身の専門性の向上、機関のための3つの役割

4. 手書きの介護記録の課題

- (1)手書きのため記録内容が定型化されていない
- (2)過去の記録の確認について時間がかかる
- (3)帳票が多く、書類整理の手間と負担が大きかった

記録の電子化による介護の質向上と業務効率化

5. 介護情報システム導入で期待されることは

- (1) 同じ視点、同じ方向性や目線で、誰が見ても同じように読み取れる
- (2) 職員の経験値などによる判断能力の差をなくす
- (3) 間接業務の時間を削減して負担を軽減する

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

1. 科学的介護に向けたデータ活用の取組み

デジタル化によって得られたデータの集約・分析の課題は、

- (1) データを手入力するのは無理
- (2) センサ機器からの取得は比較的容易

2. 形式の統一によるデータの質の向上

標準化、共通化の必要性は、

- (1) 地域包括ケアにおける在宅医療・介護では情報共有することが必要
- (2) 使う人によって言葉、形式が異なると不便
- (3) 標準化、共通化することで、システムとセンサやロボットの接続が容易

3. デジタル公共財としての活用は

社会全体でデータを共有し、ビックデータとして活用することで、

- (1) 住んでる場所などに関わらず、必要な情報にアクセス出来る
- (2) 異なる分野の情報と連携し、新たなサービス提供の可能性がある

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

4. 介護データ蓄積と活用における現状と課題

介護記録分析支援システム

①目的

- ・ リスク(嚥下機能低下、肺炎、褥瘡、認知症などの兆候)重症化にいたるまでの時系列での介護記録の分析
- ・ リスク重症化の予兆を見出す

②目標

- ・ 利用者の状況を見える化したい
- ・ 事故や状態悪化を予測し、起きなかったこと/しなかったことを評価したい
※予想よりも良い方向に進んだことを評価する仕組み

③背景

- ・ 介護記録 を有効活用できていない
 - ・ ケアマネは介護記録の分析に苦勞している
 - ・ ご家族への説明資料用の客観的なデータがない
 - ・ 施設の評価向上につながるような分析資料が作れない

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

5. 介護記録の試行分析

(1)分析対象の介護記録

- 期間:2015/3~2015/7
- 件数:10,404件
- 介護対象者:62名
- 記入者:20名
- 内容:朝夕2回のミーティングで記録された各介護対象者への介護に関する記述および介護者のリスクに関するコメント。一件あたりの文字数は20~200文字。

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

(2) クラスタリング

- 介護記録の内容を自動分類
- 1685件/10404件を分類(16%)
- 問題のありそうな介護記録を抽出
- 似て非なる分類もあり:「良く眠れている」

クラス	件数	内容概略
0	8719	分類不能
1	152	体温の記載あり
2	288	良く眠れている(日中)
3	247	食事関連の問題
4	27	血圧関連の記載
5	229	不審行動/発言関連
6	265	良く眠れている(就寝時刻の記載あり)
7	31	良く眠れている(居室に誘導あり)
8	164	「傾眠」の記載あり
9	169	ラキソ反応に関する記載あり
10	163	気分が良い

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

(3)分類可能な介護記録の割合

記入者	比率	分類件数	総件数
PT_01	50%	1	2
栄養士_01	12%	17	144
介護_01	13%	96	758
介護_02	23%	166	737
介護_03	22%	178	823
介護_04	8%	61	746
介護_05	10%	78	772
介護_06	50%	394	785
介護_07	9%	69	783
介護_08	10%	86	864
介護_09	13%	107	807
介護_10	7%	45	633
介護_11	11%	87	765
介護_12	14%	105	776
看護師_01	19%	99	526
看護師_02	17%	2	12
看護師_03	50%	78	156
看護師_04	18%	57	318
相談員_01	21%	9	43
相談員_02	0%	0	3
(空白)	0%	0	1

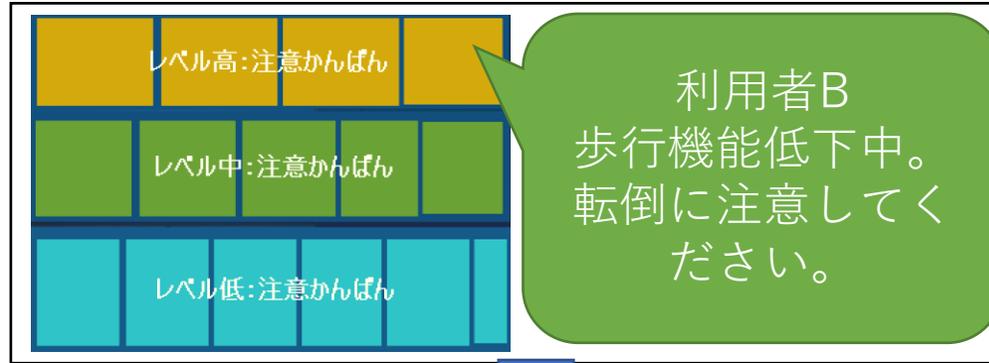
記入者によって分類のされ方にも差がある

文法や言葉遣いに統一性があると分類しやすい

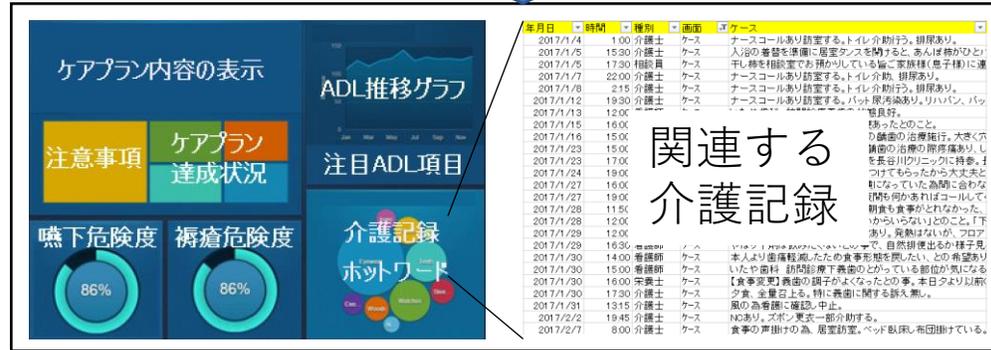
記入者によって表現の仕方が様々

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

(4) 介護記録分析ダッシュボード



注意してほしい利用者とその内容をユーザが「かんばん」に登録し、一覧表示する。



「かんばん」を選択すると、それに関する介護記録が見える化。



前回からどうなったかを時系列で分析し予測する機能。病気や症状の危険度を表示する機能。

業務の質向上と効率化を目指した情報システムの構築

6. 介護記録入力支援ツール

(1) 目標

- 誰が書いても同じレベルの正確な記録を残したい
- 手間のかかる介護記録の負担を軽減し、もっと利用者のお世話をする時間を増やしたい

(2) アプローチ

- 標準文例集を作成する
 - 書き方の個人差をなくす
 - 読みやすく、分析しやすい記録を残す
- 専門用語、薬名などの単語を入力した時にその次に続く単語の候補をあげる
- 代表的な例文パターンを提示し、薬や症状、処置など必要な情報を穴埋めする
 - 入力時間を短縮する
 - 記録の書き方を統一する
 - 初心者でも一定のレベルの記録を残せる
 - 誤字脱字を防ぐ

ロボットで広がる人間の可能性

ロボットによって現存する機能が拡大し、

- (1) 生きがいを持って働けるうちは働き、社会的役割を果たせる
- (2) 健康を長く維持し、自立的に暮らせる
- (3) 自分ひとりでできなくなったことが出来る

人とロボットが支えあいロボットが人を幸せにする、
そんな社会の実現が期待されています。

ご清聴ありがとうございました。

社会福祉法人

シルヴァーウィング



高品質サービスの追求と介護の生産性向上につなげる

介護の可能性を広げるICT、IoT システムの実践と活用について

各種ICT、IoT機器（ChatWork、ライフリズムナビ+Dr.、
FirstCare、ライフリズムナビ+HOMEなど）を複合的に
組み合わせて用いた事例発表

2023.11.15

株式会社来夢
管理者統括 矢代 虎太郎

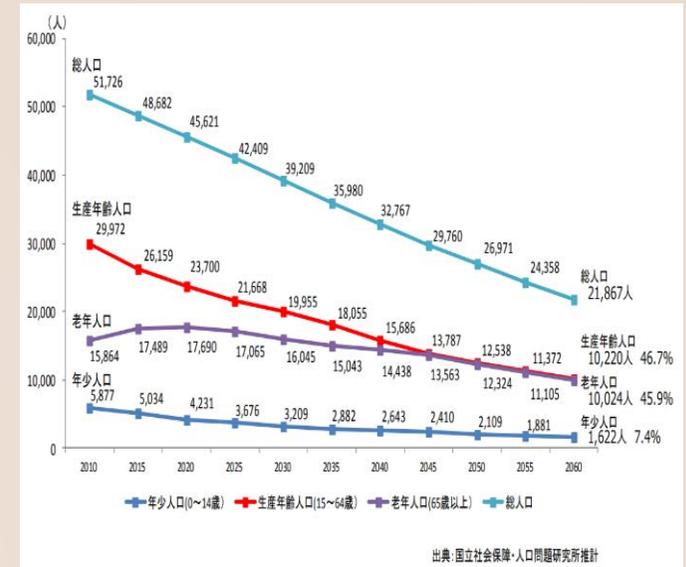
会社概要

法人名 株式会社来夢
 事業所名 リハ・ハウス来夢
 代表者 代表取締役 岩倉 香織
 設立 平成26年4月2日
 住所 氷見市伊勢大町二丁目14番20号
 事業内容 通所介護(定員30名)、訪問介護事業
 サービス付き高齢者向け住宅事業(40室)
 居宅介護支援事業
 関連会社 株式会社カオリ、有限会社サラン商会、
 岩倉米穀店、岩倉不動産



地域統計

人口 42,922人 人口密度 190.6人/km²
 世帯数 16,972世帯 高齢化率 39.08%
 昼夜間人口比率 85.3% 地域経済循環率 63.9%
 第3次産業所得 582万円



氷見市の総人口は年々減少していて、高齢化率の伸びが他市と比較しても著しい
 年少人口と生産年齢人口の減少が目立っており、特に男性の生産年齢人口の半数が
 他市へ通勤しており、年々他市へ人口が流出している

導入前の主な課題

全社

- 職員の個々のレベルにバラツキがあり、統一したサービス提供が実施できていない
- 利用者様本位でのサービス提供が出来ていない
- 自立支援、認知症対応、中重度対応に弱い
- 間接業務の効率が悪いいため、残業時間が多い
- 事務作業に追われていて、直接業務が疎かになっている

サ高住

- 認知症状の重い入居者への対応が弱い
- 介護依存度や医療依存度が高くなってしまうと特別養護老人ホームなどへ移動

将来への予測と展望

- 生産性が向上することで、利用者様や職員の満足度につながるのではないか？
- 業務改善を行うことで、高品質のサービスを提供することにつながるのではないか？
 - ➡ 生産性の向上、業務改善、高品質のサービスを行うためにはどうすればよいのか？
 - ➡ 当社でもICT、IoTシステムを導入すべき??

全事業所共通

- ・ 約300事業所のベンチマークや各種展示会、講習会の視察 【平成29年～令和1年】
- ・ ベテラン職員を中心にICT化している事業所を視察 【平成30年9月18日】
- ・ 申し送り業務をSNS化へ変更(ChatWorkの導入) 【平成30年9月から】
- ・ 高齢者住まい看取り推進研修事業所の採択を受け、研修実施 【平成30年12月19日】
- ・ 食事提供業者の変更(療養食対応、クックチル対応へ切替) 【平成31年4月1日から】
- ・ 介護記録ソフトをICT対応に変更(FirstCareの導入) 【令和元年11月から】
- ・ インカムの導入 【令和3年9月から】

サービス付き高齢者向け住宅

- ・ 経営革新法採択 【平成31年4月18日】
- ・ 平成30年度補正「ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」採択 【令和元年6月】
- ・ 見守り機器を全居室へ設置(ライフリズムナビ+Dr.の導入) 【令和元年9月から】

通所介護

- ・ リハビリ職員を確保(看護職からリハ専門職へ) 【平成30年4月：PT、平成31年1月：OT】
- ・ リハプラン(現Rehab Cloud) の導入 【令和4年3月から】



1. 職員間や他事業所、利用者家族とのコミュニケーションツール

Chatwork × 社用携帯 × インカム = ペーパーレス対応

- ・社内申し送りはノートから電子化へ切り替え（社内）
- ・画像や動画、添付書類をリアルタイムで共有可能（社内外）
- ・必要な情報を全体や事業所、必要な階層に分けて共有（社内外）

2. 多職種・関係者の連携ツール

当社のChatwork運用画面



インカムの使用風景

ライフリズムナビ+Dr. × FirstCare × Rehab Cloud × ライフリズムナビ+HOME × ChatWork

- ・詳細データを必要に応じて多職種で共有することにより統一した介護サービスを実施

3. 見守りツール

ライフリズムナビ+Dr.
※画像・イラストはメーカーの提供

ライフリズムナビ+Dr. × ライフリズムナビ+HOME

- ・サービスのすき間を見守りツールを用いて活用
- ・見守り情報をもとにサービス調整を行う

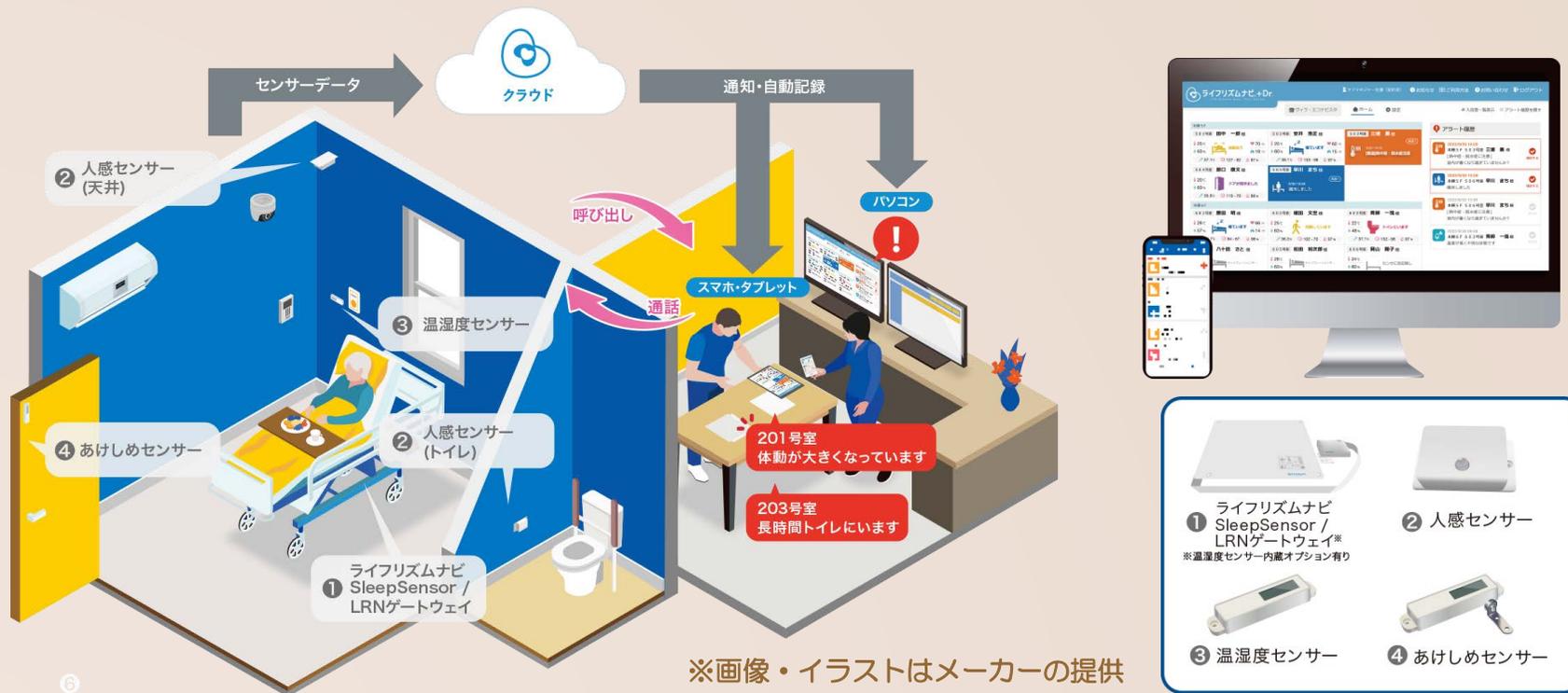


必要に応じて当社はシステムの連携を行っている

Bluetooth通信対応の
バイタル機器と記録を連動

ライフリズムナビ+Dr.

入居者の暮らしを妨げないで、必要に応じて介助を行う「先回りの介護」を実現が可能
現場の業務効率化と生産性向上を同時に実現し、質の高い介護を可能にする見守りシステム



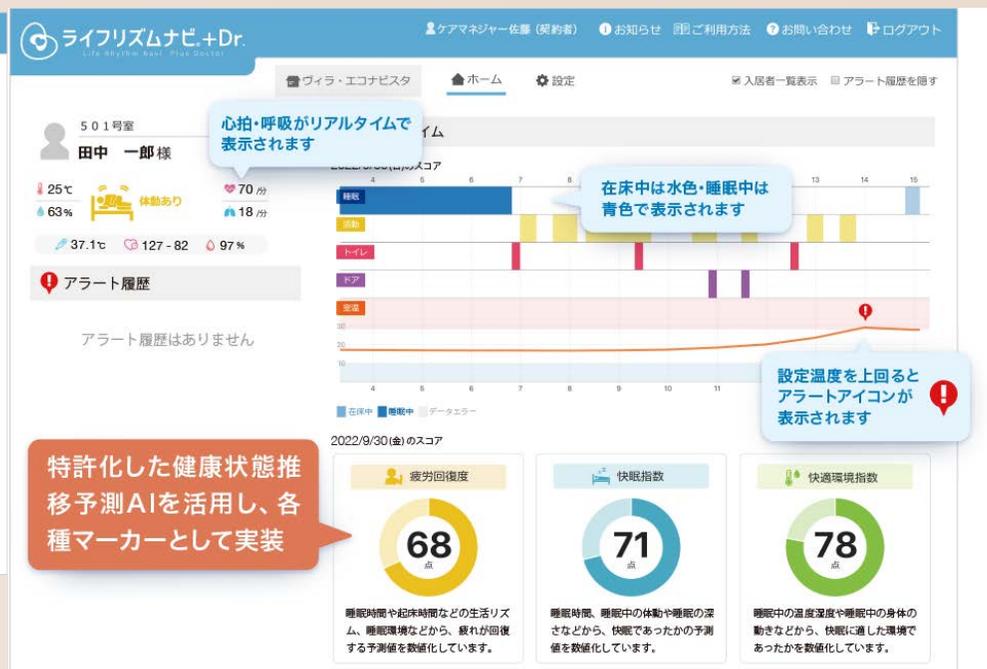
PCモニターやタブレットにてリアルタイムの生活状態が表示されている
必要なアラート設定と職員の気づきで先回りの介護を実現している

ライフリズムナビ+Dr.詳細画面

入居者の暮らしを妨げないで、必要に応じて介助を行う「先回りの介護」を実現が可能
現場の業務効率化と生産性向上を同時に実現し、質の高い介護を可能にする見守りシステム

一覧画面 ※ダミー

個別画面 ※ダミー



※画像・イラストはメーカーの提供

PCモニターやタブレットにてリアルタイムの生活状態が表示されている

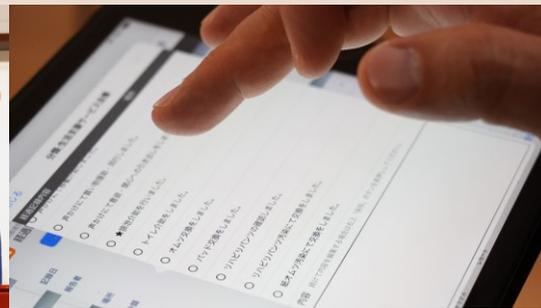
必要なアラート設定と職員の気づきで先回りの介護を実現している

全事業所共通

- 日常業務を見直し、3M「ムリ・ムダ・ムラ」を抽出
- アナログで改善できるところはアナログで改善を行い、ICT、IoTシステムを導入し、各事業所の情報を一元管理
- 間接業務の削減により、残業時間月平均約230時間削減
- 事務効率が約60%上昇し、記録や請求業務が簡素化
 - ケア記録を手書きからその場で速やかにタブレット入力へ
 - 必要に応じてマイク音声入力も実施
- インカムの導入でスピーディーな連携対応を実現（無駄な動きの削減）
- Chatworkの導入にて必要な情報を必要な階層へリアルタイムに伝達
 - 文字以外に画像や動画、書類添付が情報共有に役立った
 - 新型コロナウイルス感染発生時に有効活用
- 介護職員を各種研修へ派遣する時間の確保



タブレット操作風景



シルバー産業新聞
令和4年2月20日号掲載記事

サービス付き高齢者向け住宅

- 活動状態が見える化することで、必要に応じた対応を実現
- ➡ モーニングケア、ナイトケアの集中時間を30%削減
- ➡ 夜間帯の巡視回数の削減
- 中重度入居希望者の受け入れ【平均介護度1.9上昇】
- 認知症入居希望者の受け入れ
- 看取り対応の実現【令和2年/3名、3年/3名、4年/5名、5年/4名】

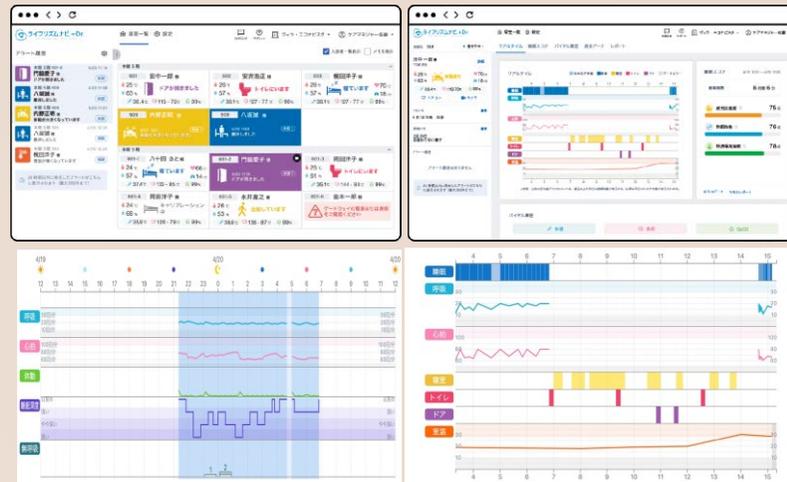
通所介護

- 記録業務作成時間の削減(日平均：約10時間)
- 実績集計業務時間の削減(月平均：約32時間)
- 機能訓練計画書作成時間の削減(利用者一人あたり：約15分)
- モニタリングなど各種報告書作成時間の削減

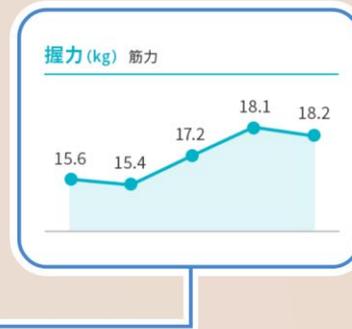
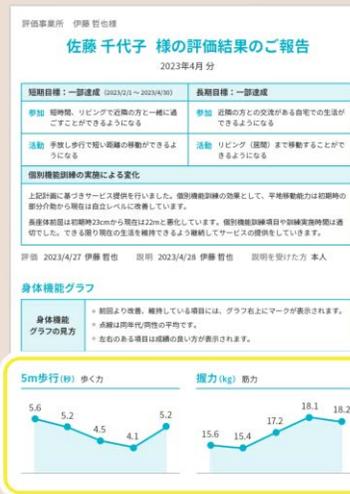
訪問介護

- 記録業務作成時間の削減(日平均：約1時間)
- 必要な時間帯に訪問提供に入り、不必要な訪問提供を削減
- 限られた訪問枠を必要な方へ割り振ることで対応強化につなげる

➡ 結果として大幅な業務改善を実現



※一覧画面、個別画面はダミーを使用
※画像はメーカーの提供



※帳票はメーカーの提供
※データはダミーを使用

全事業所共通

得られた情報を利活用することで、一人ひとりの生活スタイルに合わせたケアをサポート

- 先回り介護の実現
- 必要に応じたサービス内容をケアプランに反映
→ デジタルケアプランニングの実現
- 排泄対応へのレベル強化（オムツからトイレへの移行）
- 介護依存度、医療依存度中重度者の積極的な受け入れ
- 嚥下機能に合わせた食事提供の実施
- 在宅看取り対応の実現
→ 看取り対象者には対象者情報カードやACPを必ず作成
- かかりつけ医、かかりつけ薬局との連携強化
- 新規加算の取得実現
- 介護福祉士の資格保持者の上昇

※第2表はダミーを使用
※画像はメーカーの提供

利用者氏名	様	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	長期目標(期間)	短期目標(期間)	対応内容	担当	
		アルツハイマー認知症、糖尿病、高血圧、アルコール依存症。起立歩行不安定、付き添う。認知症の進行の為口開けア、薬管理での清潔が維持できない	R05.06.28~R05.07.11	口腔内の清潔が維持できる	R05.06.28~R05.07.11	①歯磨きを設け日中、ホールでの時間を設けて頂く ②コミュニケーションを随時やかに通じて頂く ③声掛けにて口開けアを行って頂き、食物残渣の残っている部分の口開けアを職員が実施します ④歯磨きの洗浄を行って頂いたのち、十分な所を職員が洗浄し、職員により速に2回夜間に歯磨き剤を使用します ⑤専門職によるケアを月に2回実施します	介護職員、歯科医師 毎日 R05.06.28~R05.07.11
		#4 口腔内の清潔を保つことができない <口腔衛生管理計画>					
		パンツおむつ使用中であるが失禁はなし 歩幅狭く、歩行は不安定。トイレまで付き添い排泄できている	R05.06.28~R05.07.11	付き添うことでトイレで排泄できる	R05.06.28~R05.07.11	①手引き、または歩行器の使用を促し、トイレでの排泄が出来るよう支援します ②定期的、また随時のおむつ交換を行い、清潔を維持します ③排泄コントロールを行い定期的に排便が出来るよう支援します	介護職員、看護師 毎日、週2回
		#5 トイレで排泄したい <排泄支援計画>					
		糖尿病の既往があり、傷が治りにくい可能性がある 高齢で友が居るため、排泄衛生リスクあり	R05.06.28~R05.07.11	皮膚のトラブルが治癒できる	R05.06.28~R05.07.11	①体任の分數、密着による皮膚の清潔、摩擦とずれによる皮膚の剥離の程度を管理します ②皮膚に異常がある時は医師、看護師、管理士、機能訓練指導員と連携し適切な処置を行います ③食事摂取量のチェックを行い、摂取量の減少があれば管理士と連携し対応します	医師、介護職員、看護師、管理士、機能訓練指導員 毎日、週宜
		#6 痛いのには嫌なので褥瘡は作りたくない <褥瘡マネジメント計画>					

ライフルズナビで生活リズムを把握し、生活リズムに合わせた声掛けを実施する。

ライフルズナビで夜間の排泄リズムを把握する。

排泄データを共有し服薬調整を検討する。

利用者氏名	様	生活全般の解決すべき課題(ニーズ)	長期目標(期間)	短期目標(期間)	対応内容	担当	
		#1 自身のペースで生活が出来るようにしたい <自立支援促進計画>	R05.04.15~R05.08.31	生活のリズムを築ける	R05.04.15~R05.08.31	①声掛けをしながら、本人のペースで車椅子を操作して頂く ②食事、エプロンを使用する際は自己選択しやすいよう食器を準備し、声掛けをしながらお話をしながら頂く ③日中は、出来る限り起きさせて頂く ④ホールで好きなお話をしながら頂く ⑤職種で情報共有する。また、ご家族様にも状態報告を行う	介護職員、管理士、機能訓練指導員 毎日
		#2 新たな環境に慣れやすくなるようにしたい <個別機能訓練計画> レビー小体認知症、H27左大腿頸部挫傷、左大腿骨骨折	R05.04.15~R05.08.31	新しい環境に慣れやすくなる	R05.04.15~R05.08.31	①歩行練習、起立、歩行訓練(歩行器) ②日中、状態を診ながらホールでの時間を設けて頂く ③日中、活動の場を設けて頂き、職員はいつでも声掛けで対応する ④歩行の状態に関するスクリーニング、支援計画書参照	介護職員、管理士、機能訓練指導員 週1回 R05.04.15~R05.08.31
		#4 認知によるADL低下、機能低下、認知症に関連した排泄介助が必要である トイレ排泄を継続したい <排泄支援計画>	R05.04.15~R05.08.31	トイレ排泄を継続する	R05.04.15~R05.08.31	①おむつに体で頂いた後は、ホールまで職員と一緒に歩行器で頂く ②職種で情報共有する。また、ご家族様にも状態報告を行う	介護職員、管理士、機能訓練指導員 毎日
		#5 高齢の為皮膚の脆弱。紙パンツ使用による皮膚トラブルから褥瘡へ移行する可能性がある 褥瘡は作らない <褥瘡マネジメント計画>	R05.04.15~R05.08.31	褥瘡好発部位の皮膚トラブルがない	R05.04.15~R05.08.31	褥瘡対策に関するスクリーニング、ケア計画書参照	介護職員、管理士、機能訓練指導員 毎日、週宜

ライフルズナビで生活リズムを把握する。
睡眠リズムに合わせて、就寝、起床介助の時間を検討/実施する。

ライフルズナビのデータをもとに服薬調整の検討。

おむつ外しのあった時間の把握、排泄介助のタイミングを検討/実施。

ライフルズナビで排泄時間等のデータを収集し排泄リズムを把握する。
排泄介助の時間をリズムに合わせて検討/実施する。

当社の住宅を終の棲家として希望された場合には、対象者本人様や家族様と最後にどう過ごされたいのか、下記のツールなどを使用して必ず意向確認をしています。

1. 希望する住まいのイメージ

2. 希望する住まいのイメージ

3. 希望する住まいのイメージ

4. 希望する住まいのイメージ

事前確認書 (当社書式)



もしバナカード

もしものときのために

項目	希望	不要
お風呂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
トイレ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
キッチン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
洗濯機	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
冷蔵庫	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エアコン	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
照明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家具	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
カーペット	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
壁紙	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
床	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
窓	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ドア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

わたしのこと

今のわたし

いちごメモ (氷見市医師会)

私の「これから」をデザインする。

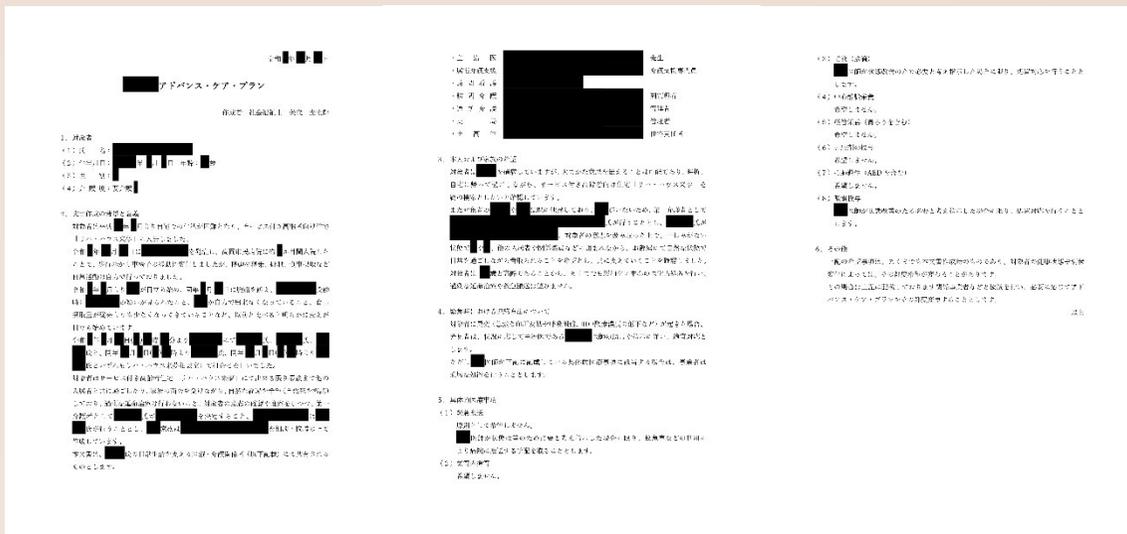
自分を知る

自分の未来を知る

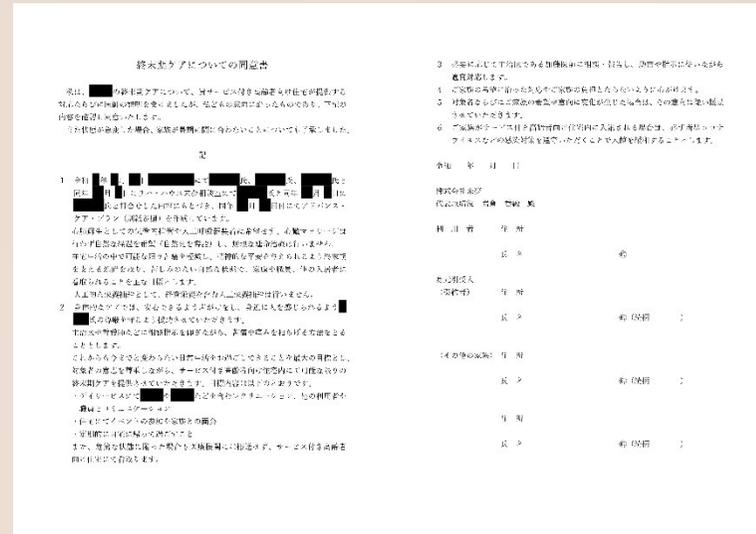
私の未来をデザインする

私の「これから」をデザインする。手引書 (NPO法人らいびながさき)

意向確認後、アドバンス・ケア・プランを取りまとめ、多職種にて共有して対応している



アドバンス・ケア・プラン



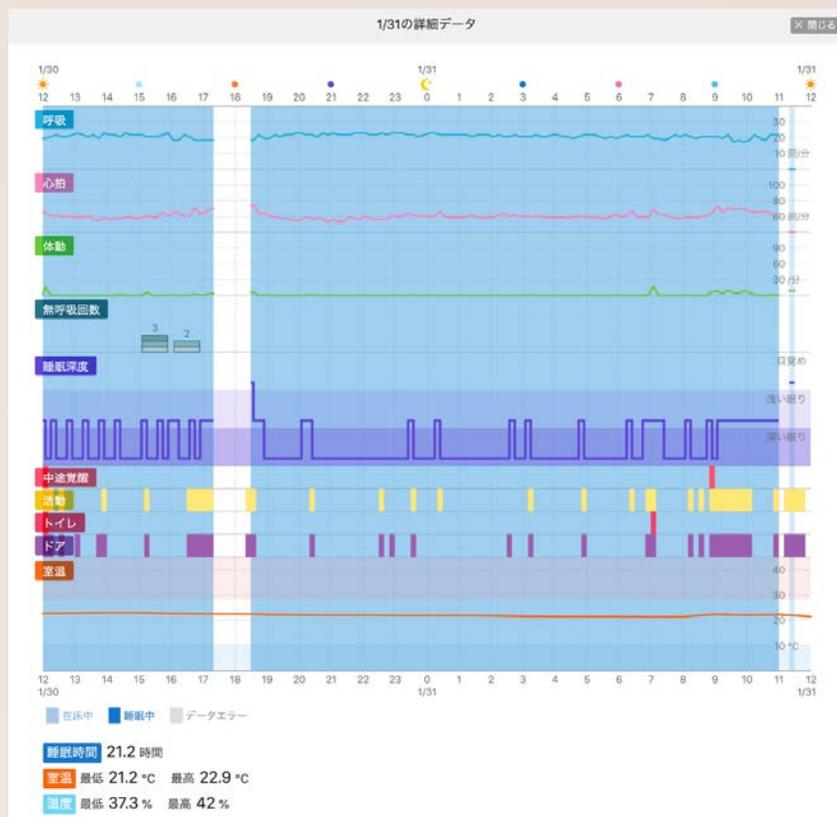
終末期ケアについての同意書

意向確認は入居時や状態変化時など、生活の変わり目の際に入居者様や家族様などに対して、これからどのように過ごされたいのか、終末期を迎えたい場所や延命治療の有無、気になることなど、雑談などから入って畏まらないように確認している

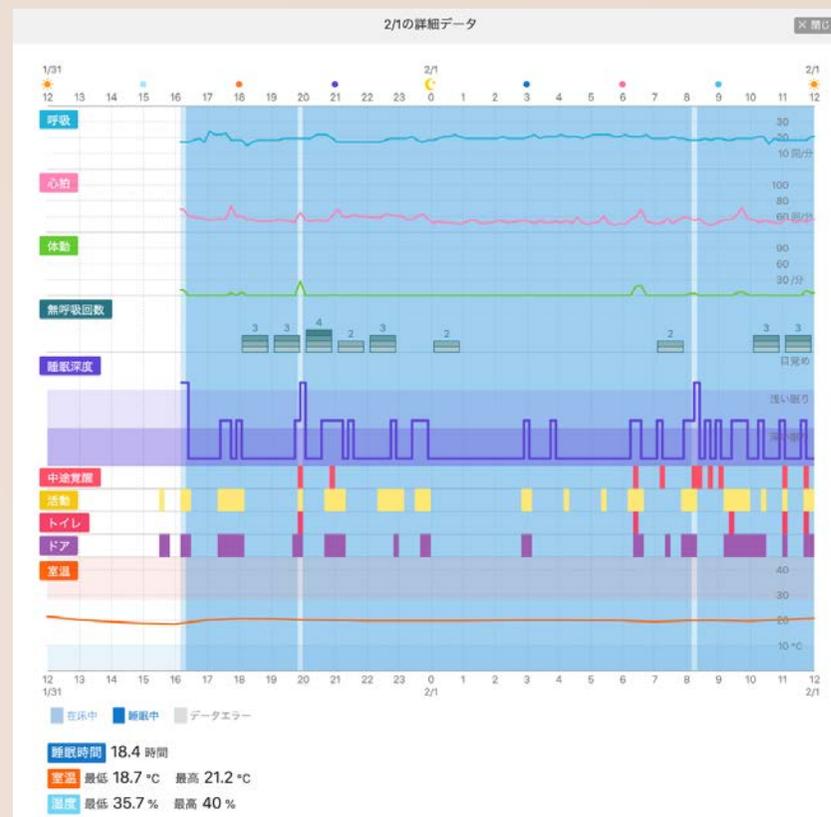
看取り対応1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例

死亡4日前より無呼吸回数が増加し始める



死亡5日前

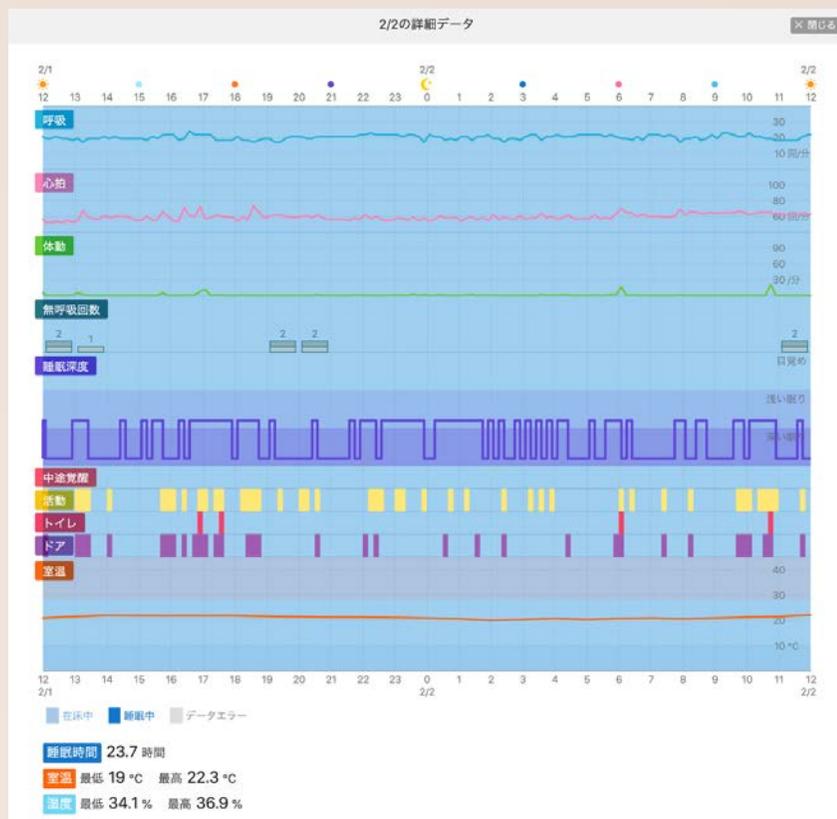


死亡4日前

看取り対応1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例

体位交換やギャッチアップで調整 死亡2日前より在宅酸素を使用開始



死亡3日前



死亡2日前

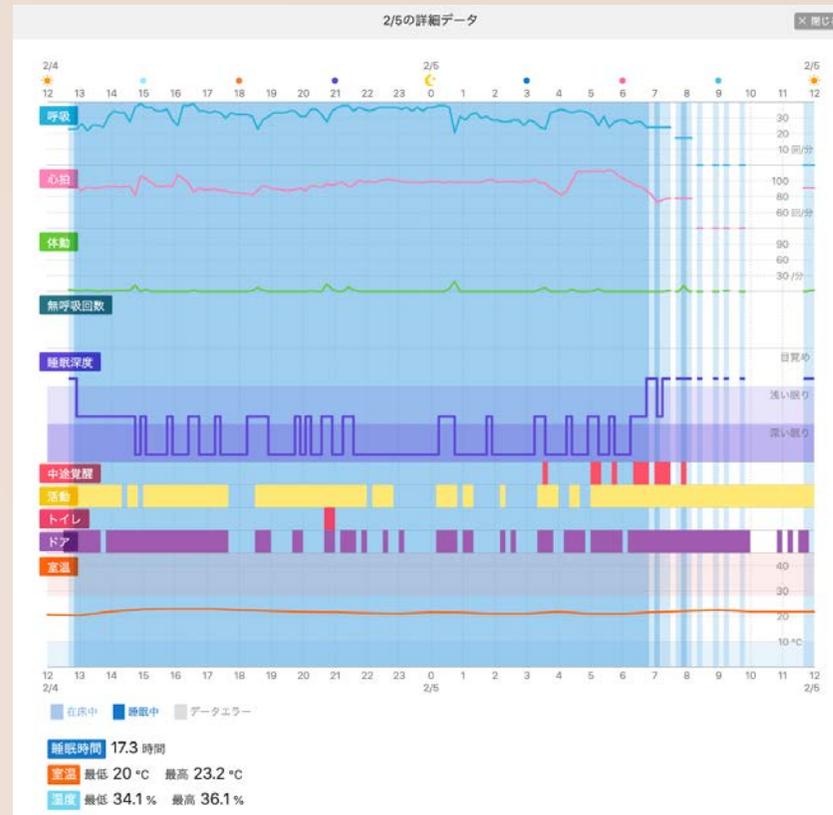
看取り対応1

胸部食道癌、喉頭癌などの看取り事例

12時以降より心拍や呼吸が乱れ始めたので職員が家族様へ連絡 家族様が最期を看取った



死亡1日前

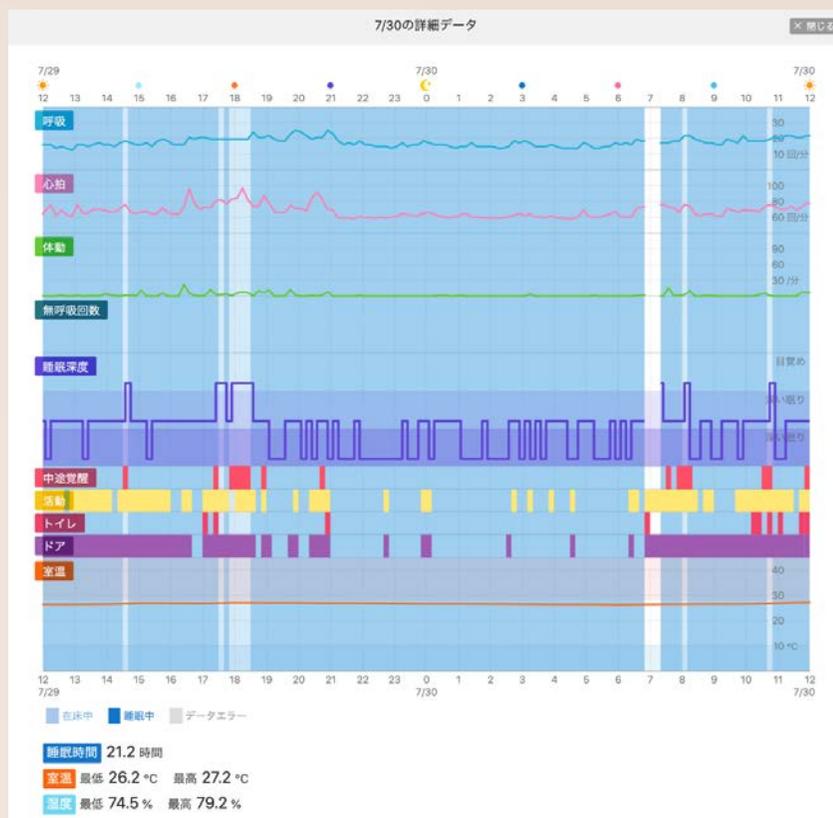


死亡日

看取り対応2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例

呼吸が乱れ始めていることを職員が確認している



死亡5日前

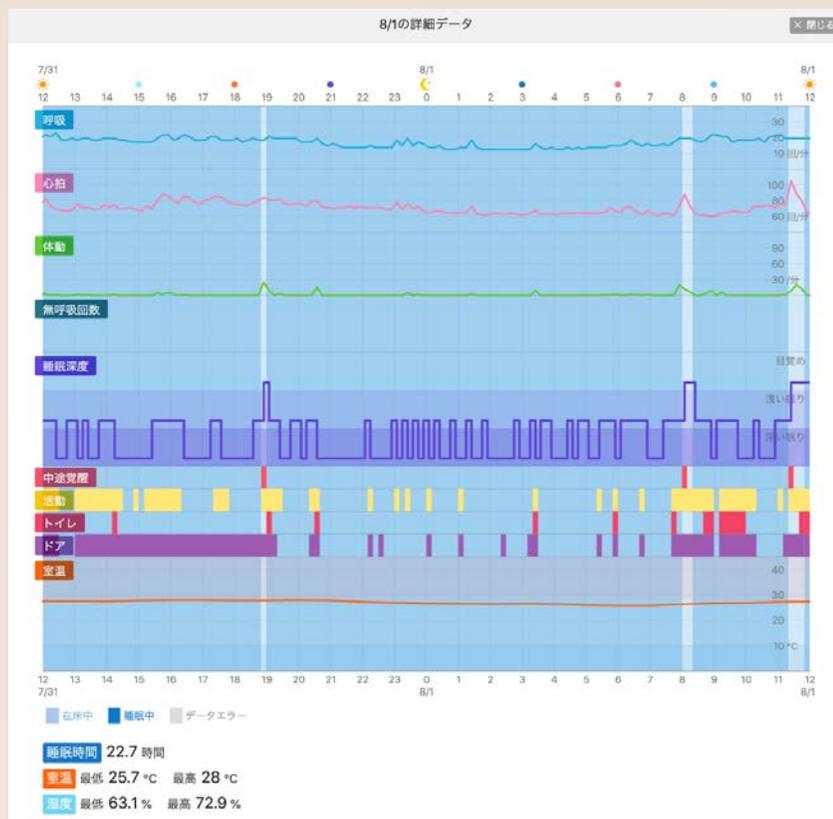


死亡4日前

看取り対応2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例

体動が少なくなり、睡眠震度が深くなってきたことを家族様へ連絡した



死亡3日前



死亡2日前

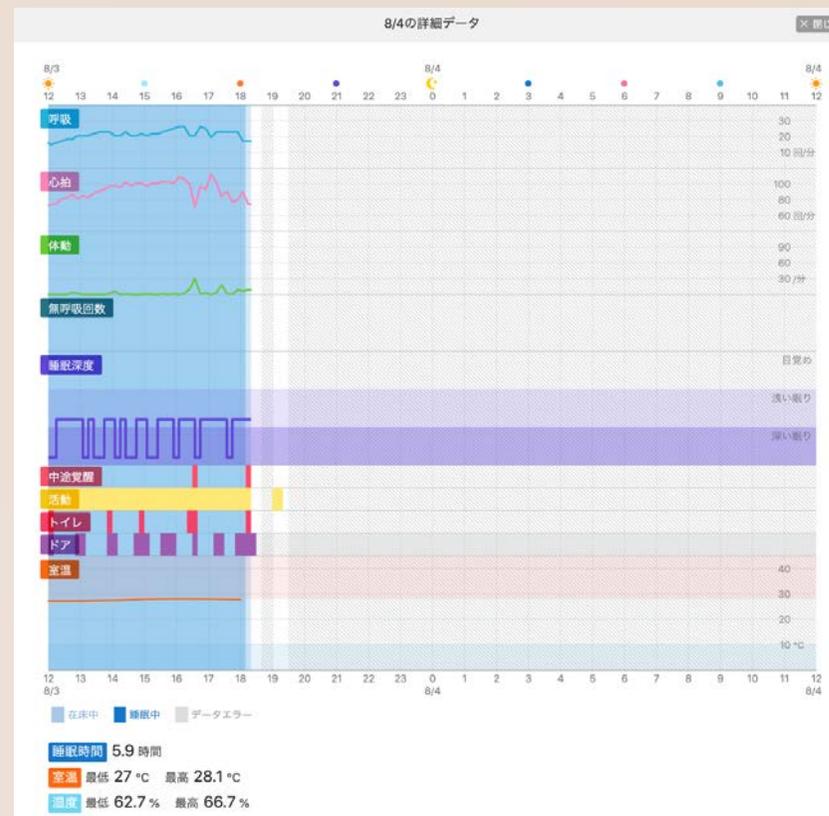
看取り対応2

外傷性直腸裂傷、直腸癌、廃用症候群などの看取り事例

16時以降より心拍や呼吸が乱れ始め、家族様や職員がまわりで付き添っている



死亡1日前



死亡日

健康管理・睡眠改善

一日中不眠であり、トイレ内にて生活される状態に変化を感じたケース

令和3年1月9日～1月21日

◎日常

認知症あり、排便困難

◎主な症状

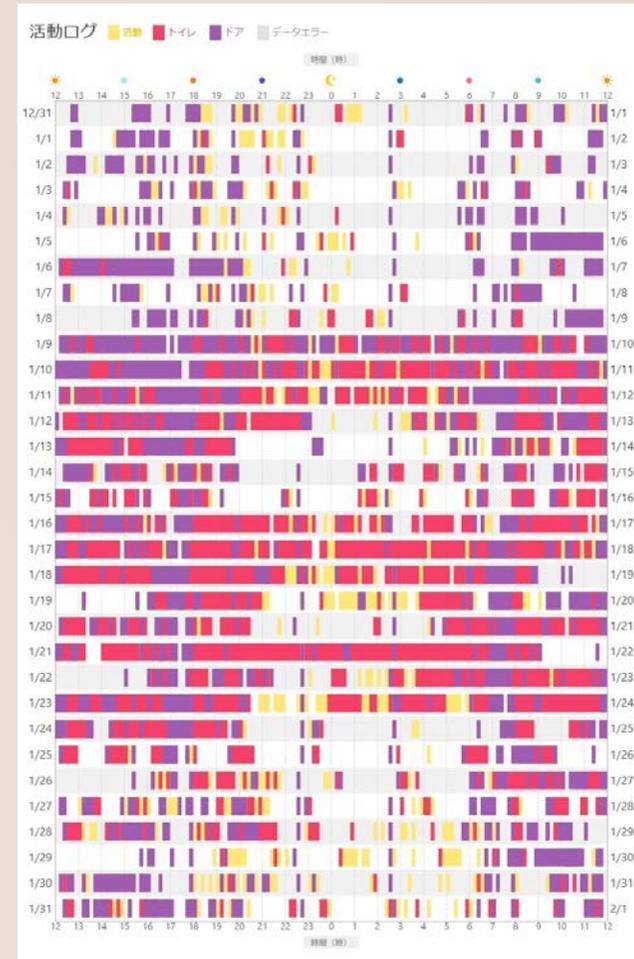
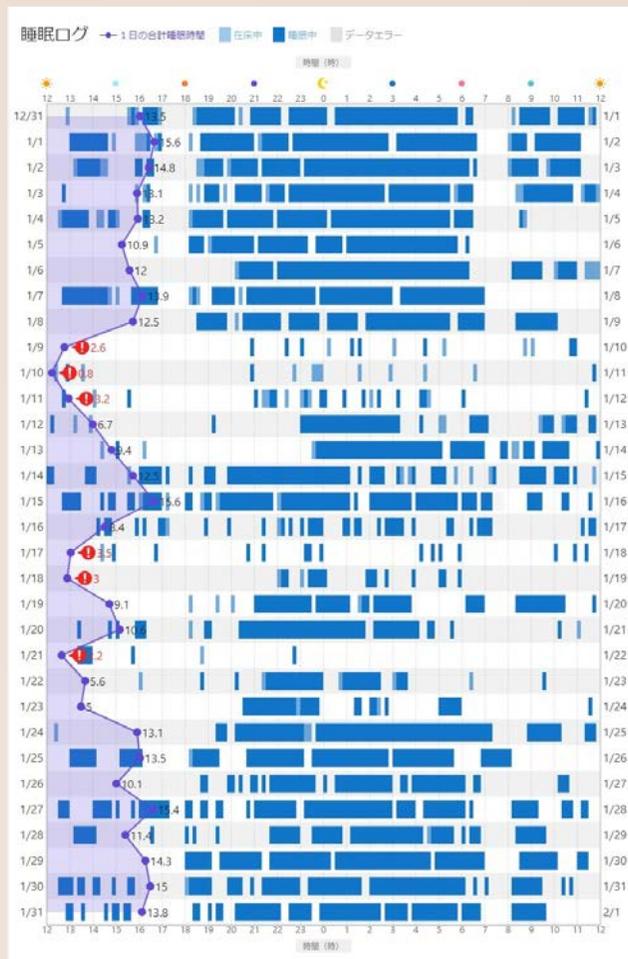
トイレがやたらと気になる

排便が出ない

そわそわしていて落ち着きがない

睡眠時間が普段より極端に少ない

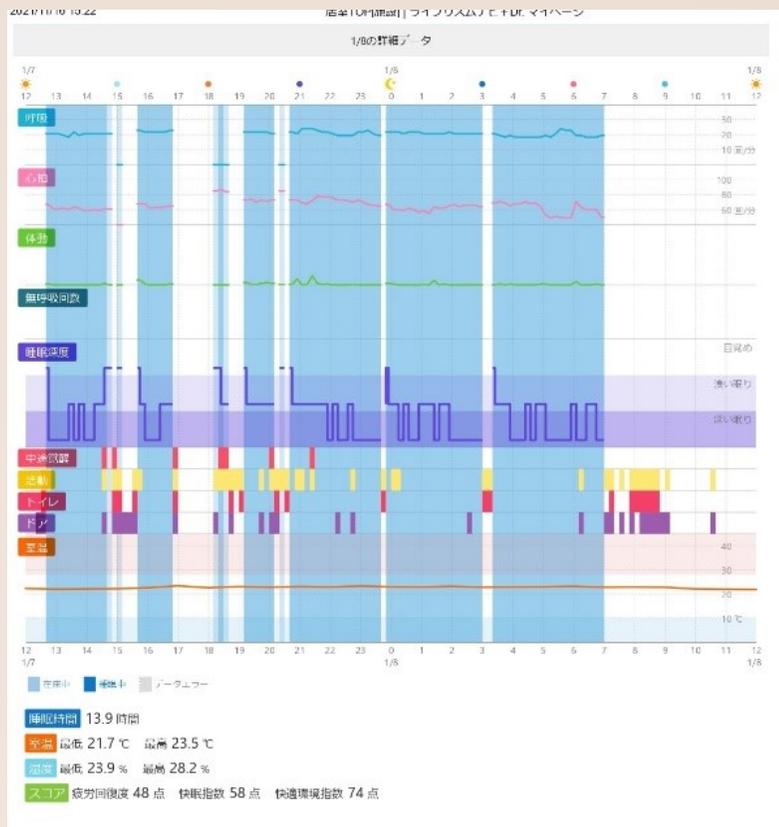
ふらつきが顕著で転倒リスク大



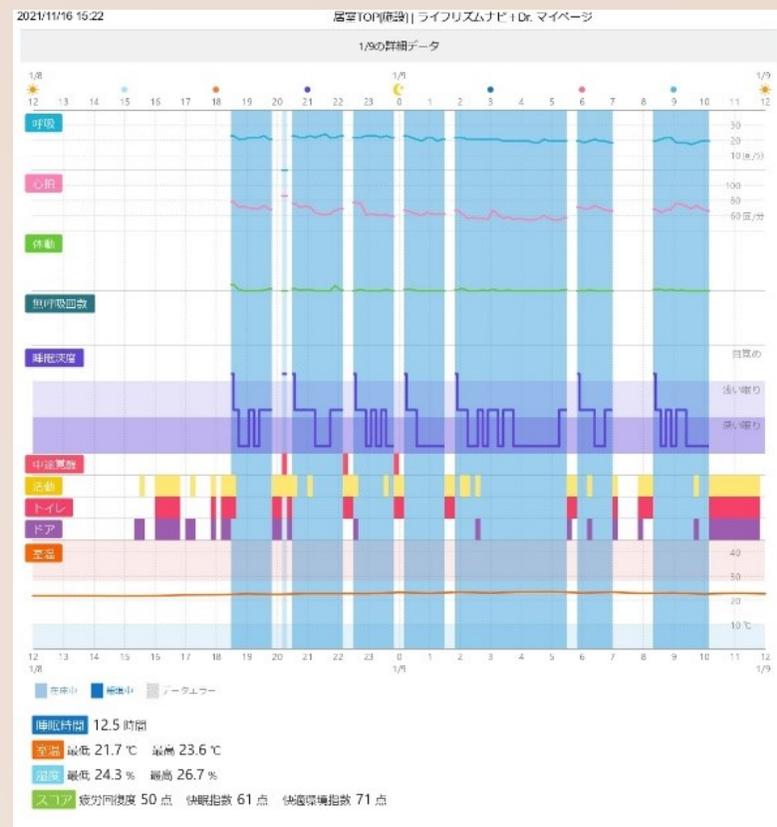
健康管理・睡眠改善

一日中不眠であり、トイレ内にて生活される状態に変化を感じたケース

1月9日10時以降からトイレに居続ける状態が確認されている。



1月8日詳細データ

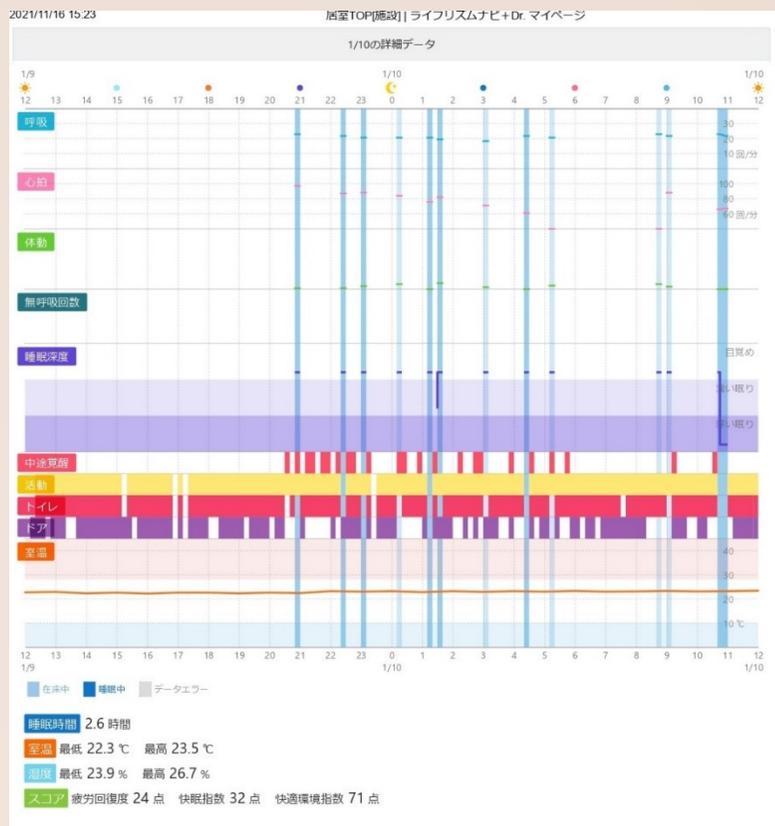


1月9日詳細データ

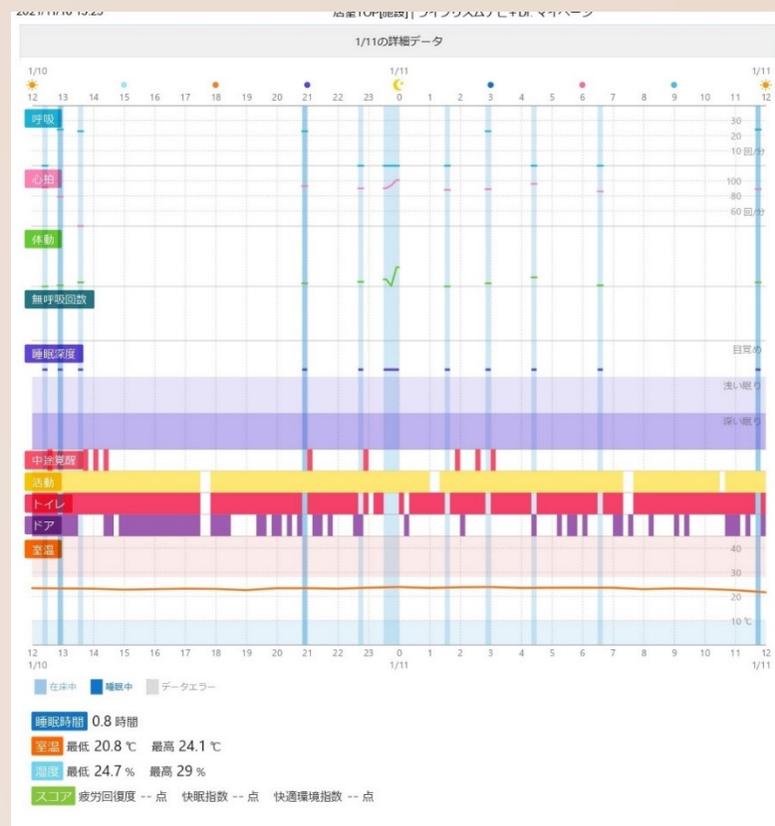
健康管理・睡眠改善

一日中不眠であり、トイレ内にて生活される状態に変化を感じたケース

1月10日以降はほぼトイレ内で生活されていることが判明。明らかに不眠状態。



1月10日詳細データ

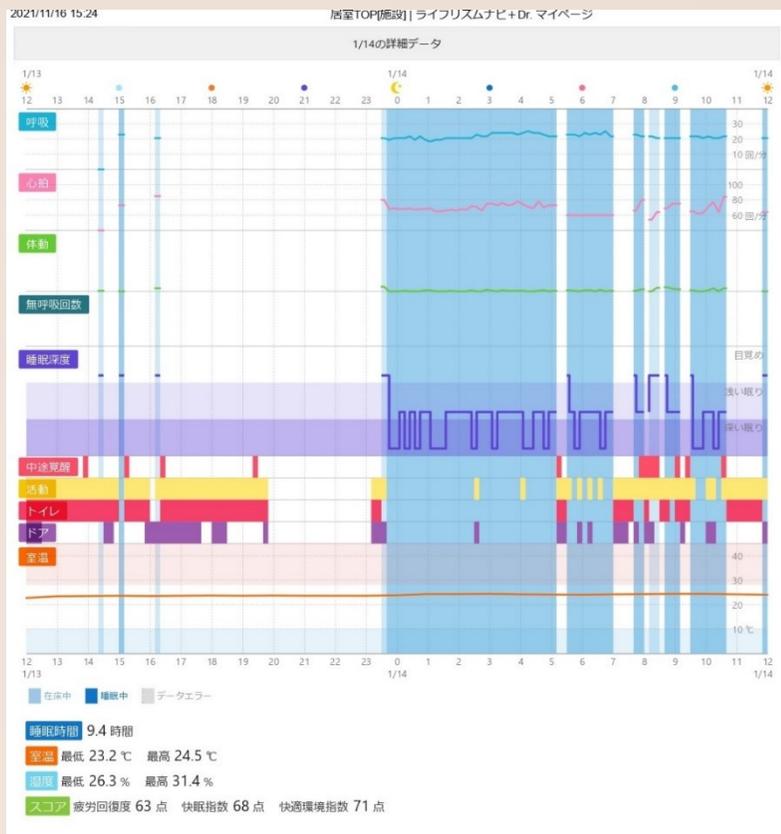


1月11日詳細データ

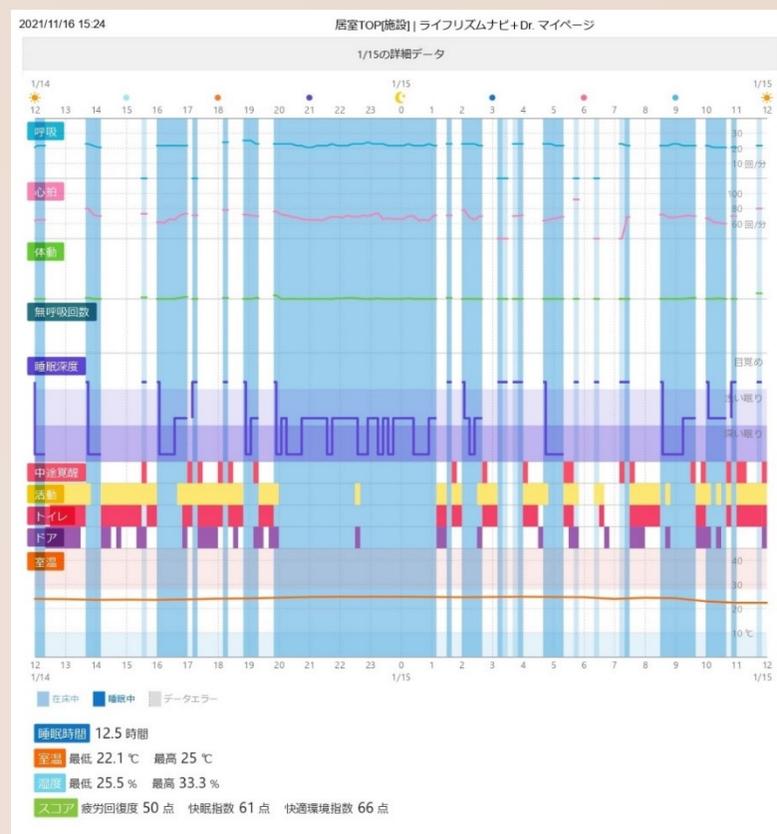
健康管理・睡眠改善

一日中不眠であり、トイレ内にて生活される状態に変化を感じたケース

1回あたりのトイレの時間は長いものの、睡眠時間がある程度確保されている



1月12日詳細データ



1月13日詳細データ

1. 導入してから今までに感じていること

- ・システムを導入する前に現実を振り返り、アナログで解決できることはアナログで解決すべき
- ・システムを入れたからと言って、すべてが完結する（片付く）わけではない
- ・システムを導入することでサービスの平準化や属人化の解消につながった
- ・感染症対策にも見守り機器は有効活用できる

2. 現状として出来ていること

- ・一定レベルで記録のICT化とペーパーレス化が達成
- ・出来る限りの間接業務を削減し、直接業務に比重を変えることに成功した
- ・社内外にてタイムリーな情報共有を実現している（医療介護の連携強化）
- ・科学的介護へ本格的に取り組むにあたってICT化やDXに、職員の抵抗はなく、前向きに実施している

3. 今後の主な課題や展望

- ・居宅（集合住宅以外）の見守りシステムの運用および確立に力を注いでいく
- ・LIFEの利活用が不十分なので、個別のフィードバックを活かして、更にケアの質を上げていく

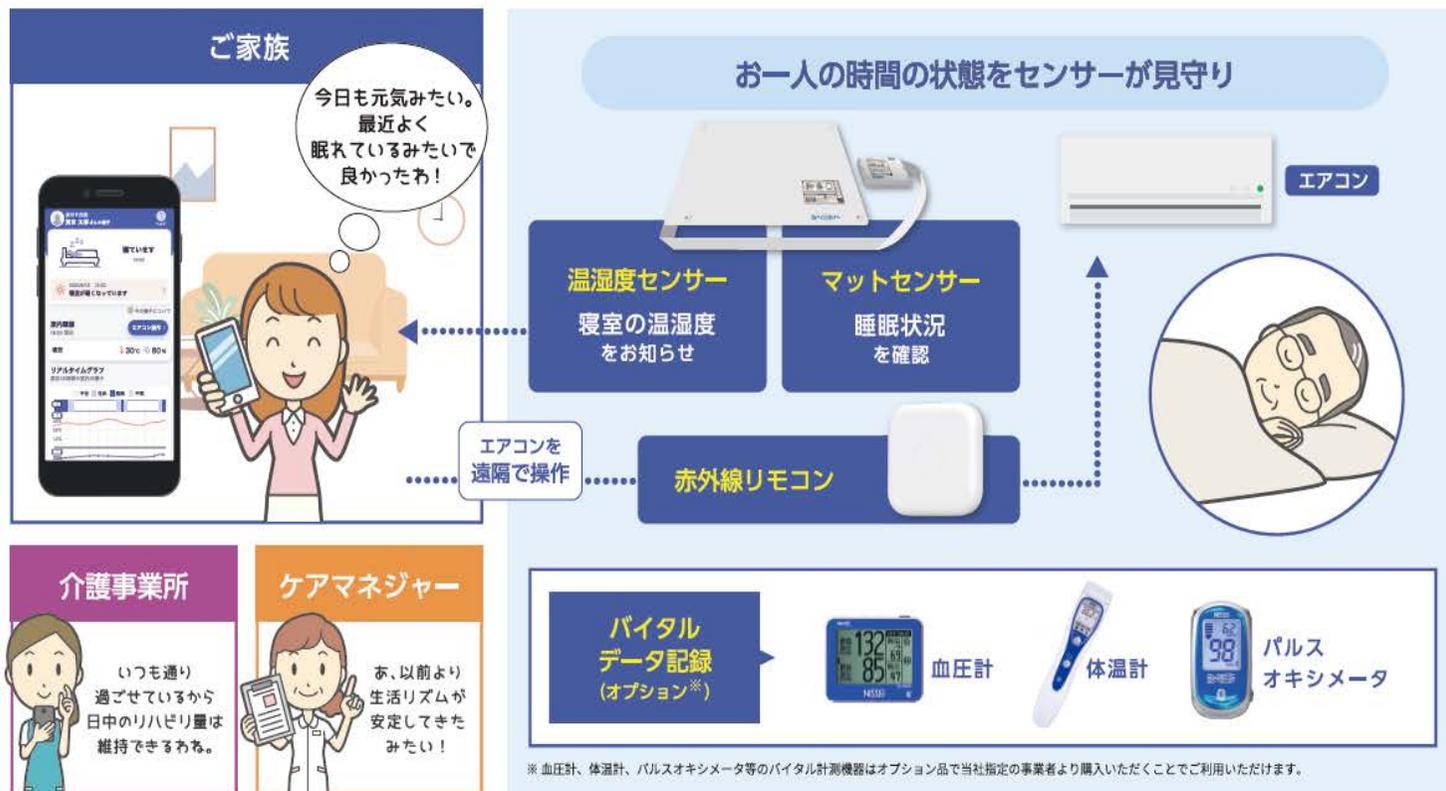
これからの在宅のあり方について

- 急性期病院では在院日数の短縮化傾向にあり、介護ニーズや医療ニーズの高い状態にもかかわらず退院しなければならない療養者は増加傾向にある
- 在宅医療機器の革新により、今迄は入院で対応するしか出来なかった治療が在宅でも可能となってきた
- 国は終末期医療費を削減するためにも「在宅死比率アップ」を目標としていることから、今後、在宅ターミナルケアはますます増えていくことが想定される
- 更なる地域包括ケアシステムの深化・推進に向け、見守り機器を活用した居宅サービスの組み合わせ次第では、大幅な質の向上や効率化が見込まれる
- コロナ感染対策による面会制限などにより、無理をしてでも病院や施設などを退院する人は多くなっている

ライフリズムナビ+HOME

※画像・イラストはメーカーの提供

睡眠や温湿度の情報を見える化し、対象者をいつでも見守れるサービス<当社で現在実証中>



WiFi 環境不要

熱中症が心配な方におすすめ!

エアコン遠隔操作

生活リズムの確認

ライフリズムナビ+HOME

※画像・イラストはメーカーの提供

見守る人も見守られる人も、現場のニーズに合わせて柔軟な設定が可能<当社で現在実証中>

複数人で見守る



見守る人を複数設定可能な「招待機能」

複数の事業者が関わる現場でも
多職種連携が簡単に！

複数人を見守る



一つのアプリで複数人を見守りを
リアルタイムで可能

ケア品質向上・業務効率化に！

福祉 三子 さん ♡ 56回/分 🕒 16回/分 🌿 36.8℃ 🩺 117/78 mmHg 📶 98% 🌡️ 24℃ 🌊 38%	
開発 六江 さん ♡ 77回/分 🕒 26回/分 🌿 37.6℃ 🩺 122/85 mmHg 📶 97% 🌡️ 25℃ 🌊 44%	
国際 九郎 さん ♡ -回/分 🕒 --回/分 🌿 35.8℃ 🩺 118/76 mmHg 📶 97% 🌡️ 25℃ 🌊 50%	
技術 十二子 さん ♡ 56回/分 🕒 16回/分 🌿 36.5℃ 🩺 117/76 mmHg 📶 98% 🌡️ 23℃ 🌊 38%	

もはや介護現場もICT、IoT化は避けられない

- 限られた「人」を有効に、効率よくサービス提供していくためには、介護現場ではもっと介護ロボットの導入やICT、IoT技術は利活用すべき
- 人材不足の介護現場では業務効率化や生産性の向上は至上命題
- 介護ロボットの導入やICT、IoT技術は介護現場での離職率低下や若手職員の定着率アップにもつながる
- 技術の使い方次第ではケアの質の向上と危険予測の強化にもつながる
- 職員間のコミュニケーションの円滑化
- 医療職や介護支援専門員など多職種との連携強化
- 感染症対策やすき間を埋めること、生活を把握するためには見守り機器は大変有効なツール
- システムをどれだけ入れても、進化しても最後は「人」
- 本当に残していきたいのは限られている「人」の手による介護

ご清聴ありがとうございました。
ご質問やご見学の希望などありましたら、
下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

矢代 虎太郎（やしろ ことろう）
メール：kotaro@raimucare-t.jp

ドライバー不足問題に対応する送迎管理業務のICT化について

【通所リハビリテーション・通所介護利用者送迎システム導入と効果】



医療法人
健明会

〈介護老人保健施設協会 青風苑〉

事務長 青見健志

施設長 城戸崎 直子

〈青見通所リハビリテーション〉

介護部長 加治 雅子

1. はじめに

医療法人 健明会 法人概要

・医療法人 健明会(ケンメイカイ)

福岡県直方市上新入2490-7

- A) 青見胃腸・内視鏡内科クリニック
- B) 介護老人保健施設協会 青風苑(定員50床)
- C) 青見通所リハビリテーション(定員130名)
- D) 健明会ケアプランセンター
- E) 青見ショートステイ(定員5床)
- F) 通所介護 健明会 総合ケアセンター(定員40名)

〈送迎車両〉

ウェルキャブ(ハイエース・キャラバン) 9台

福祉車両(車椅子乗降可) 6台

1日の送迎利用者数:98名

明るく、楽しく、輝きある毎日の生活に私たちが出来ること。
介護サービス・医療サービスの多機能複合施設として
地域と一体となったケアを積極的に行います。



私たちはここにいます。医療法人 健明会



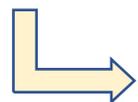
2. 通所系サービス送迎管理システム導入の経緯

送迎ルート作成業務の属人化解消を目的として送迎管理システムを導入

(送迎業務の課題)

(課題1)送迎ルート作成における課題

A地点からB地点にかかる送迎時間を予測し、ルートを組み立て、送迎管理表を作成する。
利用者の新規・中断・中止にともなう変更があれば、そのたびに送迎管理表の組み替えが必要。



(今までの解決方法)運転に慣れたプロを採用する。

タクシー・トラックドライバーなど、過去に輸送・運送業で働き、退職・定年後の経験者を採用する。
ドライバー業務の経験を生かし、送迎ルートと時間予測を頭で組み立て、送迎管理表を作成
地図に出てこない場所などもあり、土地勘がないとルートの組み立てができない



〈今後ドライバー不足が予測される！〉

物流・運送業界の「2024年問題」に伴う、ドライバー需要の増加
地方でのタクシー不足解消に、ドライバー上限年齢80歳まで引き上げ
労働人口減少に伴い、路線バスなどが維持できないなど、人材がいない

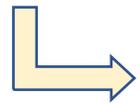
2. 通所系サービス送迎管理システム導入の経緯

送迎車両のサイズ、乗降人数、同乗者等の調整業務

(送迎業務の課題)

(課題2)送迎車両の選択と乗降者の調整に取られる業務時間の課題

送迎ルートが割り出されると、道幅に合わせた車両サイズの送迎車を選択する。
車両サイズにより乗車人数などの制限が異なるため、乗車する利用者の調整が必要。
こまかな調整ができれば、利用者とケアマネに送迎時間を確認した後に、送迎管理表を作成する。



(今までの解決方法)できるまで試行錯誤を繰り返す

送迎管理表が完成するまで、試行錯誤を繰り返し、1日2時間以上も作業することもある。
試行錯誤により組み立てた送迎時間を、利用者に変えて欲しいと言われ、時間が無駄になる。

(送迎管理責任者の負担が強く、人為的なミスが発生しやすい)



毎日のように、調整と変更を繰り返すため、この業務から開放されたいという意見が多い。「考えすぎて、頭から煙が出る、できれば他の人にやって欲しい。」など、作成者に負担が掛かるため、限られた人にしか調整管理ができない。

3. システム導入前の送迎管理表

送り・迎え、月～土曜日、送迎管理表はエクセルデータで作成

月曜日 (送迎)

1コース		2コース		3コース		4コース		5コース		6コース		7コース	
1 便 (L-2)	1 便 (M-2)	1 便 (M-1)	1 便 (L-3)	1 便 (L-1)	1 便 (L-7)								
乗車手 介助員なし													
施設出発時刻 8:10	施設出発時刻 8:10	施設出発時刻 8:25	施設出発時刻 8:30	施設出発時刻 8:00	施設出発時刻 8:10								
時刻 氏名 乗車													
8:30 綾乃 八重子	8:30 池田 秀成	8:43 前田 輝彦	8:43 木村 光博	8:50 川原 三千雄	8:56 黒木 浩子	8:56 黒木 浩子	8:40 西本 高美子	9:00 土田 千鶴子					
9:10 綾乃 キコエ	9:10 池田 恒康	9:00 前田 美津子	9:00 木村 佳子	9:00 川原 美穂	9:00 土田 知子	9:00 土田 知子	9:10 西本 高美子						
施設到着時刻 9:35	施設到着時刻 9:35	施設到着時刻 9:30											

月曜日 (送迎) の詳細なスケジュール表は、コースごとに分けて記載されています。乗車手と介助員の配置、施設出発時刻、施設到着時刻、乗車時刻、氏名、乗車状況が記載されています。

月曜日 (送り)

1コース		2コース		3コース		4コース		5コース		6コース		7コース	
1 便 (L-1)	1 便 (L-1)	1 便 (L-3)	1 便 (L-7)	1 便 (L-2)	送り便 ()	1 便 (3932)	1 便 (L-1)	1 便 (L-1)	1 便 (L-2)				
乗車手 介助員なし													
施設出発時刻 13:00	施設出発時刻 15:00	施設出発時刻 15:00	施設出発時刻 15:00	施設出発時刻 13:00	施設出発時刻 13:00	施設出発時刻 13:00	施設出発時刻 13:30						
時刻 氏名 乗車													
13:10 山田 光雄	13:30 鈴木 孝子	13:30 西田 正子	13:30 西田 美穂										
施設到着時刻 14:30	施設到着時刻 14:25												

月曜日 (送り) の詳細なスケジュール表は、コースごとに分けて記載されています。乗車手と介助員の配置、施設出発時刻、施設到着時刻、乗車時刻、氏名、乗車状況が記載されています。

〈業務に関する聞き取り〉

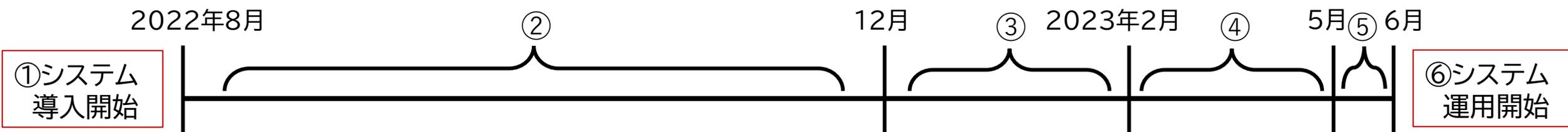
- 送迎管理表で1人組み込んだり、変更したりするのに、およそ15分くらい掛かる。
- 1人変われば、その後の到着時間が変更になるため、打ち替えが必要。
- 名字や名前が似ている利用者がいれば、ミスや混乱の原因となる。
- 今まで、何度となく簡素化や効率化を検討したが、この管理方法が一番わかりやすい。
- ドライバーの運転能力によって、通れる道や通れない道があり、経験が浅いと遠回りしたりして、時間通り走れないことがある。
- 管理表が作成できるようになるために、月～土曜までの送り・迎えの全コースの利用者の家と送迎ルートを覚えるまでにおよそ3ヶ月、そこから、仕事に慣れ、コースを作成するセンスがあれば、半年ぐらいで送迎管理表を作れるようになる。
- 複雑な管理が必要なので、運転もできない、現場も知らない人が口出ししないほしい。

※添付画像は個人情報匿名加工済み

4. 通所系サービス送迎管理システム導入の流れ

システムを導入し運用が開始されるまで9ヶ月の期間を要した

〈送迎管理システム導入の流れ〉



- ① 送迎業務の属人化や独占業務を解消し、男女問わず職員が誰でも送迎業務を行えるようにする事を目的としてシステム導入を決定する。
- ② システムを稼働させるために必要となる利用者情報の入力を、日常業務の片手間ですすめていたこともあり、情報を入力し終えるまでに新規・中断・変更など利用者情報がアップデートされるため、情報がシステムに反映されたときには、すでに状況が変わっており打ち替えや調整に時間が掛かって進まなくなっていた。
- ③ 状況を打開するため、情報入力専属の事務員を配置してリカバリーし、2月までに入力作業を完了する。
- ④ 入力作業が完了するが、送迎管理システムを使用して業務をするという習慣化や職員教育が進まず、システムは業務で活用されず、情報の更新も滞り、また使用できない状況に陥る。
- ⑤ 最後はトップダウンで、「〇〇(時間)までに〇〇(人)さんが〇〇(内容)をしてください。」と半ば強制的に命令し、2023年6月1日より送迎管理システムの運用を開始する。



(過去の法人業務ICT化の実績)

介護記録システム導入[稼働までに2年半]、AIシフト作成システム[現在進行形、稼働まで9ヶ月を予定]、電子カルテ[紙カルテ終了まで3年半]

5. 通所系サービス送迎管理システム入出力の流れ

(STEP1)システム運用に必要な利用者情報の入力

※添付画像は商品紹介サンプルデータ

送迎管理システム導入後

(現場への質問)

Q1:利用者1名の情報入力に掛かる時間は何分？

A1:5分掛からない

Q2:以前に比べると、負担は減りましたか？

A2:利用者情報を入力すれば、送迎管理に必要な情報が把握できるため、とても楽になりました。

Q3:気をつけておくべき点がありますか？

A3:利用前の担当者会議で訪問したときに、送迎に使う車のサイズ確認が必要です。

The screenshot shows a web browser window with the URL https://bu11.scom-inc.jp/bu00005/BU0010. The page title is "利用者登録" (User Registration). The main content area is divided into two parts: a list of users on the left and a detailed registration form on the right.

User List (Left):

コード/お名前	状態
00000001 荒崎 一郎	🚫
00000002 石川 次郎	
00000003 石田 花子	
00000004 市丘 華子	
00000005 井戸田 市子	
00000006 井の元 和夫	
00000007 茨木 智子	
00000008 浮島 春子	
00000009 牛巻 敏夫	🚫
00000010 内方 静子	
00000011 内浜 秀子	
00000012 太田 よし子	
00000014 大塚 雅夫	🚫
00000013 御良 仁	
00000015 鍵田 貴志	
00000016 柏木 有希子	🚫
00000017 片坂 太郎	🚫
00000018 甲山 隆	
00000019 釜塚 ひとみ	
00000020 上坂 かず子	

Registration Form (Right):

Code: 00000001
Name: 荒崎 一郎
Surname: あらさき, Given Name: いちろう
Gender: Male, Female, Birth Date: 1940/01/05
Start Date: 2014/04/01, End Date: [2023/10/30], Delete (after stop date)
Address: 福岡県福岡市中央区赤坂1丁目3
Phone: 810-0042
Vehicle: None, Large priority, Small priority
Notes: 服薬確認
Status: Solo, Wheelchair
Staff: No staff, Need staff
Transfer: Transfer to wheelchair, Transfer from wheelchair
Service Time: 09:30 - 16:00
Valid Date: yyyy/mm/dd ~ yyyy/mm/dd
Priority: [Dropdown], Awareness: [Dropdown], Rank: [Dropdown]

5. 通所系サービス送迎管理システム入出力の流れ

(STEP2) 利用者情報の反映、他者情報との連動

※添付画像は商品紹介サンプルデータ

送迎管理システム導入後

(現場への質問)

Q4:表示された地図は便利ですか？

A4:近くに住む利用者をまとめて表示でき、時間指定がある人をベースに送り迎えの時間割を作成できるため、便の調整がしやすくなった。

Q5:時間割をつくる時に便利な機能は？

A5:送迎車両が定員オーバーになると教えてくれる。身体状況から、車両限定される人をベースにして、限定されない人を車両に配置していくことができ、送迎時間もすぐに表示されるので、調整がしやすくなった。
(※自動計算もできるが、現在結果の調整中)

The screenshot shows a web browser window displaying a management system interface. The browser address bar shows 'https://bu11.scom-inc.jp/bu00005/BUB010'. The page title is '利用者登録' (User Registration). The main content area is divided into a left sidebar and a main panel. The sidebar contains a '利用者リスト' (User List) with columns for 'コード/お名前' (Code/Name) and '状態' (Status). The main panel shows a detailed view for a user with ID '00000001', name '荒崎 一郎' (Araizaki Ichiro), and address '福岡県福岡市中央区赤坂1丁目3' (Fukuoka City, Chuo-ku, Akasaka 1-3-3). Below the form is a map showing the user's location and other nearby users marked with colored dots and labels like '石川次郎(1)', '片坂太郎(1)', '高辻智代(1)', and '柏木有希子(1)'. The interface includes various navigation and control buttons such as '更新' (Update), '削除' (Delete), and '検索' (Search).

5. 通所系サービス送迎管理システム入出力の流れ

(STEP3)利用者送迎ルート完成

送迎時間	お名前	状態
08:33	大喜 新一	
08:33	大喜 とし子	
08:39	北原 昌枝	
08:47	下山 とし	
08:52	田光 誠一	
08:58	牛巻 敏夫	
08:40	太田 よし子	
08:42	下坂 貞世	
08:47	亀城 譲二	
08:53	大殿 雅夫	
09:02	井戸田 市子	
09:09	惣作 拓海	
08:49	白砂 清次郎	
08:52	笠塚 ひとみ	
08:58	白羽根 亜希子	
09:03	洲雲 裕	
09:09	竹田 益美	

※添付画像は商品紹介サンプルデータ

送迎管理システム導入後

(現場への質問)

Q6:作成された送迎ルートはどうですか？

A6:最短距離を表示して送迎ルートがつくられるため、あれこれルートを考える必要もなくなったし、ルートが覚えやすくなった。

Q7:誰でも利用者の送迎業務ができますか？

A7:送迎ルートが記載された地図を印刷して、地図を確認しながら迎えに行けるので、迷う心配も無く、介護職員でも利用者の送迎業務が可能だと思います。

5. 通所系サービス送迎管理システム入出力の流れ

(STEP4)送迎連絡票の作成と印刷、利用者への配布

送 迎 連 絡 表

00000014

様

令和 05年09月18日 から 令和 05年09月24日 までの送迎予定連絡表です。

		予定	お迎え予定時間	お送り予定時間	備考
9月18日	(月)	☆	08:32 頃	15:20 頃	
9月19日	(火)				
9月20日	(水)	☆	08:58 頃	15:23 頃	
9月21日	(木)	☆	09:04 頃	15:27 頃	
9月22日	(金)				
9月23日	(土)	☆	09:03 頃	15:16 頃	
9月24日	(日)				

上記の予定になっておりますので、宜しくお願い申し上げます。

青見通所リハビリテーション

※添付画像は商品紹介サンプルデータ

送迎管理システム導入後

(現場への質問)

Q8:連絡票の作成は便利になりましたか？

A8:印刷して渡すだけなので、非常に便利です。
以前は、1人ひとり、手で送迎管理表を打ち替え、そこから利用者を拾い出し、送迎時間を連絡していたので、入力ミスがあれば、利用者に迷惑をかけたり、現場が混乱するなど、様々な問題が発生し、それが解決できずにいました。

Q9:今後の活用について教えてください

A9:まだ使用していない機能もある。また、システムも発展途上のため、今後期待している。

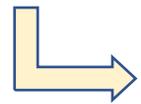
6. まとめ

システム導入初期に発生する費用負担への向き合い方

システム導入を阻む問題

(問題1)システム導入費用の問題

システム導入やその後の保守、管理、ライセンスに掛かる費用を支払うメリットが見えにくい。



(対応) 職員の業務負担が軽くなるという内容だけでは、導入決定のきっかけにはならない。負担の軽減から、新たな取り組みを初め、収益の改善など経営戦略につなげていかなければ、費用面の問題から導入計画が進まない。



《送迎管理システム導入の経営計画》



①送迎専属ドライバーの減少 → ②介護職員の送迎業務拡大 → ③介護職員の賃上げ → ④採用力アップ

取り組み開始時には送迎業務だけを行う職員が12名いた。60歳以上の雇用が中心であるため、1年も経つと体力と体調を理由に数名が退職、ドライバー採用が掛からないため、介護職員の送迎業務拡大と賃上げを実施、その後、介護職員の採用面接が増え、職員確保に繋がっている。

6. まとめ

システム導入初期に発生する業務負担への向き合い方

システム導入を阻む問題

(問題2)システム稼働に向けた業務負担の問題

システムが導入され稼働するまでに、日常業務をしながら、システムの操作訓練、調整、情報入力作業が発生し、さらに、システム移行の計画まで考えなければならない。



(対応) 現場職員の負担を増やし、考えて取り組めというやり方では、無理難題を押しつけている可能性がある。システム移行のための管理計画ができる人員を配置し、現場と対話しながら計画を着実に前へ進めていくように取り組む。

《過去の失敗より》



現場管理者とシステムの説明会を受け、ICT化をする利便性や可能性を理解した。その後、トップダウンで、「ICT化を導入した方が業務効率化してよい。」という言葉だけで、システム契約を進め、現場に早く使えと命令したが、現場としては、ICTを導入するより、日々の業務の方が優先順位が高く、前向きに捉えてもらえない。現場から、「忙しい。」を理由に、システム導入が進まないという状況を打開するために、人を配置し、システムに触る時間を見つけ、システムが徐々に現場業務を浸食していく様な流れをつくらないといけないことに気がついた。

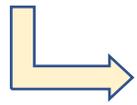
6. まとめ

現場職員の「慣れ・こだわり」がシステム導入を拒む

システム導入を阻む問題

(問題3) 人がシステムの言うことを聞いて作業をしないといけない

システムに作業が入れ替わる場合、現場職員の慣れやこだわりに合わせて配慮してくれることはなく、システムが要求することや導き出すことに、人が合わせて行かないといけないため、今までの作業の否定とは言わないが、ショックや葛藤が生まれ、強い受け入れ拒否反応が生まれる。



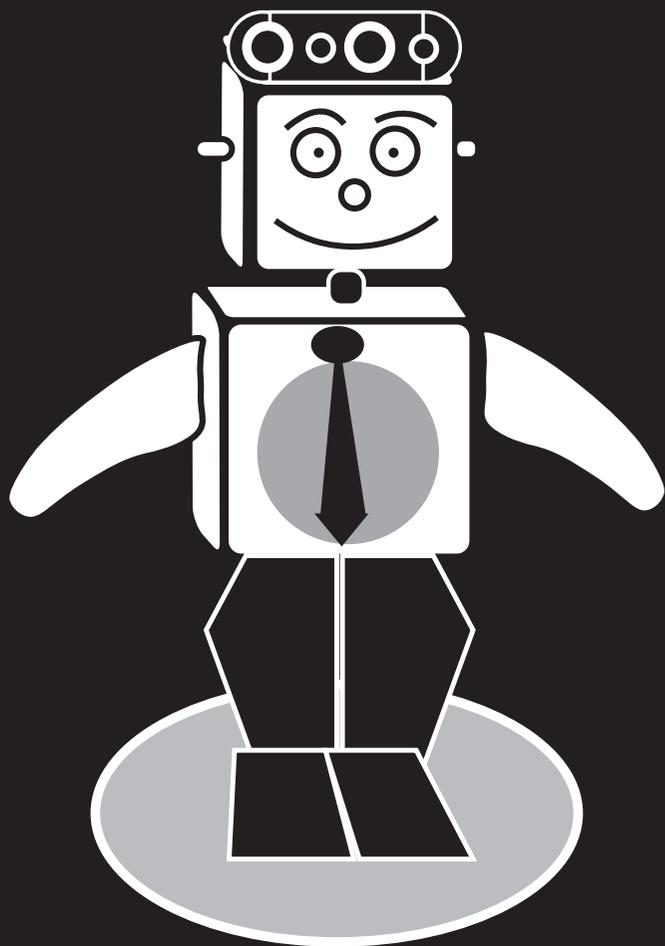
(対応) システムの扱い方に慣れ、利便性を実感するまでは受け入れてはもらえないため、過去のやり方を完全に辞める日を定め、次の日から、混乱してもシステムを使ってやっていく。



《今後の悩み》

使用しているシステムより、費用が安かったり、情報連携ができたり、進化・改良された内容のものが日々増えていく中で、一度導入し稼働したシステムを入れ替えることは、非常に困難となるため、施設はシステム会社の開発競争や市場シェアの勝ち負け、保険制度の仕組みや制度の変化に影響を受けることが悩みとなる。

介護施設で活躍する
コミュニケーション・ロボット
パティくん



グループホームまごころ

代表 勝田哲司

奈良県奈良市 入居者6名のグループホーム



民家を改造した建物

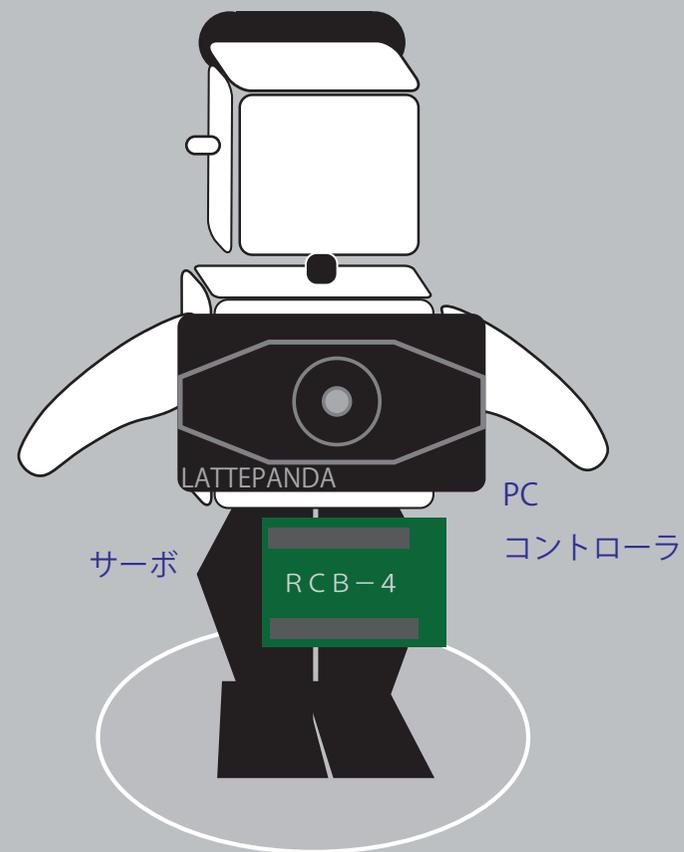
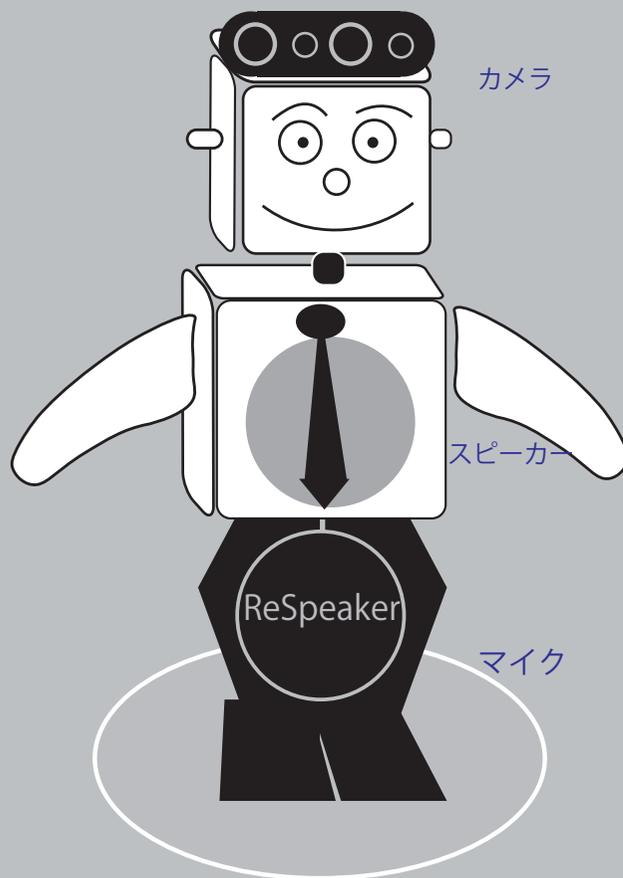


認知症高齢者6名

軽量・小型の ヒューマノイド

事業所内で開発

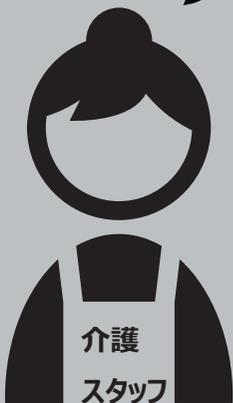
3次元カメラによる物体認識、顔認識
スマートスピーカーによる音声認識、音声合成
人型ロボットで上半身の動きを再現



開発の背景

慢性的な人手不足

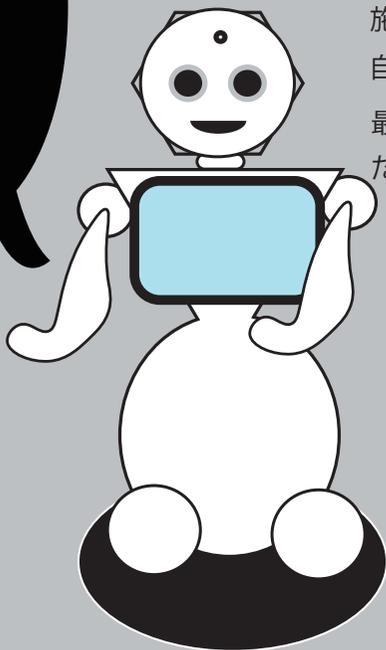
毎日忙しくて
猫の手も借りたい
けど……



先人に学ぶ

まともな会話のできるコミュニケーションロボットを作るのは困難。
Softbankのような大企業でも失敗している。

何か手伝いましょつか？



失敗の要因

施設などで使用する場合、周囲がうるさい。

自然な会話は当時の技術では難しかった。

最初は物珍しくても単純な受け答えだけだとすぐに飽きられる。
たとえ会話が成立したとしてもそれが何になるのか？

ChatGPT
の登場



介護施設特有の事情

認知症への対応



私の眼鏡が
見当たらないの……

通常の会話とは
別の視点が必要

安全性への配慮



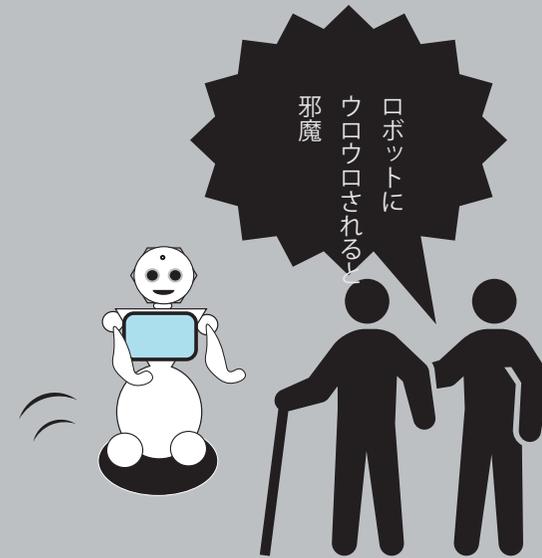
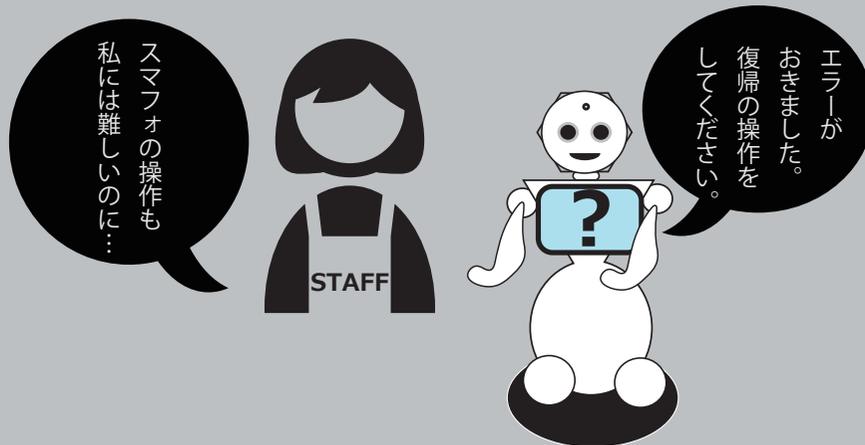
導入へのハードル

職員の本音

難しい機械は使いたくない

あぶないのは嫌

ロボットの面倒まで見てられない



電源を入れたり、充電したりという以上の操作を期待することはできない

提供側の問題

現場のことを分かっていない

開発者が的外れなものを作ってしまう



メリットが見えにくい

役にたつものでも現場で理解してもらうには

それなりのハードルがある



バディくんが目指すもの



スタッフの負担をロボットで軽減する

操作、メンテナンスが簡単にできる
利用者への物理的リスクを避ける

開発済

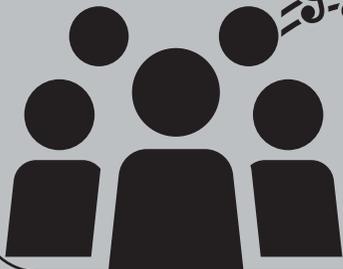
レクリエーションのお手伝い

歌や体操のリーダー



楽器の演奏

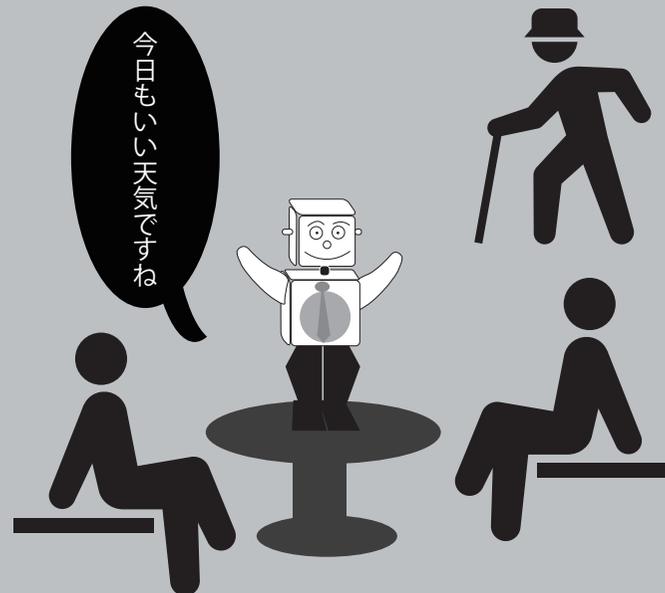
漫才などの演芸



開発中

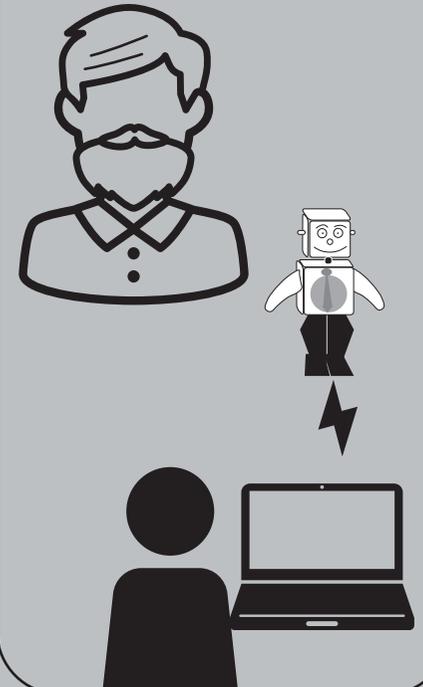
ダイルームでの雑談

今日もさう気をつけてね



予定

リモート面会



開発と導入

事業所内で開発 → 現場の事情を理解した上で制作

機能を絞る → レクリエーションとコミュニケーションの機能に特化（物理的リスクの排除）

機能を徐々に追加 → 試行錯誤を繰り返し、現場のニーズにあったものに仕上げる

操作・メンテナンスは開発者が行う → 最終的には職員が行えるように目指す

2021

2022

2023

調査・プロトタイプ製作

本体アセンブル
フレーム制作
CADデザイン



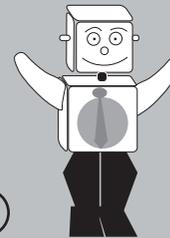
レクリエーションでの活用

自動演奏

体操・漫才

物体認識

数々の失敗…



奈良県
介護大賞受賞

コミュニケーション機能

顔認識・姿勢認識

展示会への出展

東京、ローマ、カリフォルニア

上海、ソウル等



https://www.mu-tech.co.jp/video/care_award.mp4

反応と効果

入居者の反応

- 無関心 ロボットに関心がなくてもレクリエーションには参加してくれる
- 好意的 ➔ 「かわいい」などの反応が多い
- 否定的 幼稚な「おもちゃ」と受け取る人がいる

体操などはロボットにあわせて率先して体を動かしてくれる人が必要（職員が誘導）



かわいらしいわね

職員の反応

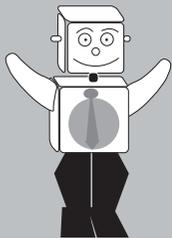
- 操作やメンテナンスをするのは無理 ➔ 当面は開発者が行う
- 感染リスクなしに演奏会を開催できる ➔ ボランティア演奏の代替



見ている楽しいけれど
楽になったというほどでは…

機能の改善と追加

- 準備と設置時間の短縮 ➔ 10分程度で設置できるようになった
- 機能の模索と改良 ➔ レクリエーションには様々なものがあり、色々な可能性がある
実際に使える機能と使えない機能があり、作って試してみないと分からない



今後の予定

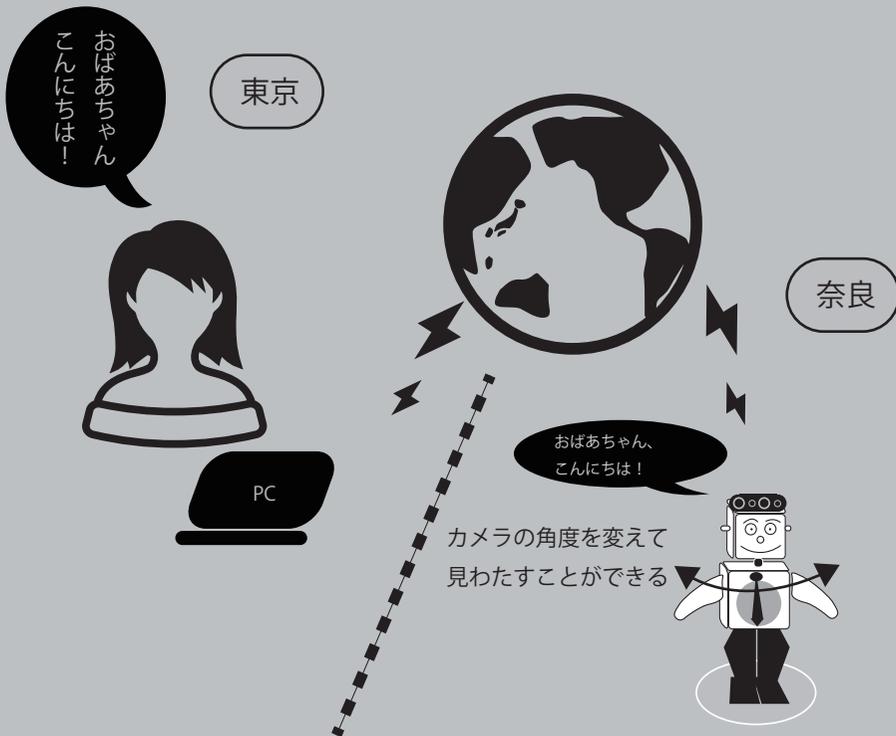
コミュニケーション機能の強化

入居者との会話 → ChatGPTにより実現の可能性がでてきた

見守り → 入居者の顔認識と立ち上がりの検知

リモート面会 → インターネットを介して遠隔地の家族と面会

面会



会話



見守り



製品化?

販売・レンタル

安価で製作できるように（機能を絞る）
操作、メンテナンスを簡単に
コンテンツの充実（歌やお話など）

採算をとるのは難しい
当面は自社施設内で使用…

介護ロボット導入後のケアの変化について

(株)CLOVER デイサービスクローバー日本橋
統括管理者 関根康介

2023年11月16日 (木)

(株)CLOVERについて



Happinessを提供する
何をやるかより、誰とやるか



「カスタマーリレーションシップ (Customer Relationship) に愛 (LOVE) がある」

ロゴの四つ葉についた水滴には、「小さなことにも気づく事ができる思いやりのある人になろう」という願いを込めています。目配り、気配りが出来て、お客様との間に愛があるサービスを目指します。

幸せの象徴である「クローバー」の名の下、関わるすべての人に幸せと愛を与えられる企業でありたいと思います。



導入した介護ロボット

- 眠りSCAN（見守り支援）
- エブリー（移乗支援）
- エアロバック（移乗支援）

導入のねらい

働きやすい職場環境の整備

緊急時を除き、利用者様はご自身で歩行し、職員は介助する

事業所内では、できる限り歩行介助をして「ご自身の力で歩く」サポートを行っていて、小柄な介護職員が歩行介助する際、安心して介護できる環境をつくりたかった。肉体的な不安から入られないケア・作業で職員自身が負い目を感じることの無い環境をつくりたかった

使用シーン



導入後の変化

マッスルスーツを利用している介護職員の声

空気圧を使用しているため、電気代を気にせずに長時間利用することができます

- 入浴介護 1日あたり9名

マッスルスーツ導入後は負担が軽減された（腰痛軽減）

- 慣れるまでは装着に時間がかかるが 総じて楽である
- 利用者様の体格や姿勢に応じてベルトの調整ができるところが良い
- 工夫をすることで、時間・対応・負担すべてが効率化された
- 動作に余裕が出る 落ち着いて対応できる
- 体の大きな利用者でも、大丈夫！
- 利用者様に提供する安全性が向上 活動が向上 介護職員の負担軽減 良いこと尽くし
- 心の余裕 体の余裕 自立支援の助長につながる！



マッスルスーツ利用に関して

Q.入浴介助時など濡れそうな気がしますが大丈夫ですか？

A.濡れます。

キャストが濡れる事を気にするとゲストに100%のケアができません。
その為、ゲストの動き易いような立ち位置にキャストは移動する為、ズブズブ濡れます。
しかし、電気を使用していない（空気圧のみ）ので、濡れても壊れたりすることはありません。
また入浴介助での濡れであれば普通に干して乾燥させるだけで嫌な匂いなどがすることもありません。

Q.夏場など、洗濯はどうしていますか？

A.カバーやベルトは外して洗うことも可能ではありますが、
外して洗って再度付けてだと少し面倒なので、そのまま水洗いでジャバジャバ洗ってしまっています。

また、複数人で使いまわしておりますので、他人の体臭や汗などが気になるICTを使う事自体が嫌になってしまいかねないため、毎日のように洗っては干しております。



訪問介護事業所の**間接業務**における 課題とテクノロジー活用について

令和4年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業
「訪問介護事業の継続に向けた担い手の育成・確保等に関する調査研究事業」
報告書より

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会
ケアセンターみなまきみらい 所長 新井仁子

法人の概要

- 昭和59年12月に設立
- 横浜市と共同出資し、市の外郭団体として誕生
(現在は横浜市の関係団体)
- 高齢者福祉を中心とした
多種多様な事業を運営



横浜市でも歴史ある社会福祉法人です

法人の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし 共に育ちあう協会風土
- 公正で透明感のある協会倫理



「できるコト、まだまだ」を合い言葉に
お客様大切な暮らしを支えていきます

事業内容

在宅介護サービス

- 訪問介護（ホームヘルプサービス）
- 居宅介護支援（ケアプラン）
- 訪問看護
- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- 夜間対応型訪問介護
- 福祉用具貸与・販売、住宅改修
- 通所介護（デイサービス）
- 認知症対応型通所介護
- 地域密着型通所介護
- 短期入所生活介護（ショートステイ）
- 小規模多機能型居宅介護

老人ホーム

- 特別養護老人ホーム
- 養護老人ホーム

地域ケアプラザ

- 地域包括支援センター
- 地域活動交流
- 生活支援

高齢者用住宅生活援助員派遣



- 横浜市全域(18区)に
160を超える事業所
- 横浜市から委託を受けて
運営している
地域ケアプラザは20カ所
- 職員数は4000名

令和3年4月現在

全国有数の規模を誇る社会福祉法人

横浜市福祉サービス協会の歴史

- 平成9年 社会福祉法人横浜市福祉サービス協会
 - ①横浜市養護老人ホームの受託開始
 - ②難病患者ホームヘルプ開始
 - ③ホームヘルプサービスの365日開始
 - ④在宅介護支援センターの受託開始
- 平成12年 居宅介護支援事業開始
- 平成18年 地域ケアプラザ指定管理開始
- 平成19年 外郭団体から関係団体へ
- 平成20年 中期経営計画策定
- 平成21年 認知症通所介護・小規模多機能の開始
- 平成22年 福祉用具センター開始
- 平成24年 訪問看護・定期巡回の開始
- 平成27年 住宅改修開始
- 令和 3年 地区センター合築の地域ケアプラザ開始
- 訪問介護事業所(23ヶ所特定事業所)
- 地域ケアプラザ(20ヶ所)
- 通所介護(22ヶ所)
- 特別養護老人ホーム(3ヶ所)
- 養護老人ホーム(1ヶ所)
- 居宅介護支援(43ヶ所特定事業所)
- 高齢者住宅相談(139棟・13棟)
- 小規模多機能型居宅介護(1カ所)
- 認知症デイサービス(19ヶ所)
- 福祉用具センター(1ヶ所)
- 訪問看護ステーション(5ヶ所)
サテライト(2ヶ所)
- 定期巡回・随時対応型(7カ所)

横浜市福祉サービス協会の訪問事業

介護保険

障害制度

移動支援

介護予防

定期巡回

計画相談

夜間対応

訪問看護

小規模多機能

自費



ケアセンター みなまきみらい

横浜市福祉サービス協会 ヘルパーステーション旭

ケアマネジャー9名在籍 ※非常勤も含む ベテランヘルパー多数在籍
☎045-360-3292 (ケアマネジャー) ☎045-360-3290 (ヘルパー)

横浜市福祉サービス協会 訪問看護ステーションあさひ

看護師 名、理学療法士 名、作業療法士 名、言語聴覚士 名在籍 ※非常勤も含む
☎045-360-3291

横浜市福祉サービス協会 訪問介護看護あさひ

夜間対応型訪問介護 定期巡回・随時対応型訪問介護看護
☎045-360-3290

デイサービスみなまきみらい
定員18名 11:15~18:15 夕食あり
☎045-360-3293

ケアセンターみなまきみらい

平日8:45~17:15 休業日:土・日・祝日・年末年始

〒241-0835 旭区柏町131-5

相鉄いずみ野線「南万騎が原」駅東口徒歩1分

※東口を出て真正面のサービス付高齢者住宅1階フロアです。

ご相談・ご質問など、上記連絡先まで
お気軽にお問合せ下さい。



6つの在宅介護サービスがひとつの事業所に



ケアセンター みなまきみらい

地域密着型

ケアマネジャー ヘルパー 訪問看護 デイサービス

夜間対応型訪問介護 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

- ◆横浜市福祉サービス協会 ヘルパーステーション旭 (ケアマネジャー) 045-360-3292 (ヘルパー) 045-360-3290
- ◆横浜市福祉サービス協会 訪問看護ステーションあさひ 045-360-3291
- ◆横浜市福祉サービス協会 訪問介護看護あさひ (定期巡回・随時対応型訪問介護看護) (夜間対応型訪問介護) 045-360-3290
- ◆デイサービス みなまきみらい 045-360-3293



ケアセンター みなまきみらい

在宅介護の

6つのサービスを
兼ね備えた事業所です。

各サービスが「連携」して
最適なサービスに
つなげることが可能です。

住み慣れた街で
ご自宅で
安心した在宅生活を
支援いたします。



ヘルパーステーション旭
(ケアマネジャー)



在宅で介護を必要とする方が
安心した生活を送れるよう
介護サービス計画（ケアプラン）
の作成やサービス事業者との
連絡調整を行います。



ヘルパーステーション旭
(ヘルパー)



ご自宅で安心してすごして頂ける
ように、ご家庭にヘルパーが
お伺いし、身体介護や生活援助の
サービスを提供致します。



訪問看護ステーション
あさひ



看護師やリハビリ職員がお伺いし、
看護/リハビリサービスを提供しま
す。ご本人やご家族の意思、ライフ
スタイルを尊重し予防的支援から
お看取りまで支えます。



訪問介護看護あさひ
(夜間対応型訪問介護)



24時間365日 緊急通報受付/訪問
夜でも安心してすごして頂ける
よう18時から翌日の朝8時まで
定期的な巡回訪問と緊急通報を
受け付け、随時に訪問して
必要な介護および支援を致します。



訪問介護看護あさひ
(定期巡回・随時対応型訪問介護看護)



24時間365日 緊急通報受付/訪問
時間帯にかかわらずヘルパーに
よる定期的な巡回訪問と
夜間対応型訪問介護同様、緊急通
報機器を無料で貸し出し、
通報内容に応じ、随時に訪問して
適切な支援を行います。



デイサービス
みなまきみらい



毎週決まった曜日に施設にお越し
頂き、夕食、機能訓練、レクリエー
ションなど専門スタッフと共に
半日、お一人おひとりに合わせた
多様で充実したメニューを提供
致します。

はじめに つぶやき

- 介護保険制度では、伝送システムなどの画期的なシステム化が進んだ。
- 毎月交付する利用票・提供票は紙媒体で印刷、郵送
 - ⇒ 4月から厚労省でケアプランデータ送受信システムが運用開始
- 事業所ごとにシステムが違い、事業所単体ではIT化できても、事業所間では、相変わらず紙媒体も現実。
- 最近、事業所へ送付する提供票が一括メール送信になり、半日から1日かけていた作業は、ボタン一つで1秒に効率化したか、受け手のサービス事業所のIT化にバラつきがあり、FAX送信や郵送を希望するため、却って手間がかかる事態になっている。
 - ⇒ 小規模事業所がIT化について行けなくなっていることを痛感
 - ⇒ 事業所単体では限界がある？

横浜市福祉サービス協会のICT化の現状

	2022年3月まで	2022年4月以降
契約	紙ベース	変わらず
アセスメント	エクセル	システム(ケアマネ共有)
訪問介護計画	エクセル	システム
サービス提供記録	紙ベース	システム (QRコード) 特記事項は音声入力
請求	システムとサービス提供記録と照合 記録票の仕分作業あり1週間	システム 1日には完結している
ヘルパー連絡	携帯電話貸与 電話がメイン+メール	スマホ貸与 メールがメイン+電話
休み等連絡簿	紙ベース	クラウド管理
会議(開催できない 時)	電話がメイン+メール 資料は郵送	メールがメイン+電話 資料は郵送

横浜市福祉サービス協会のIT化の効果と課題

効果

入退室の確認ができる

記録票の印刷が不要となった

ヘルパーへの記録票の送付が不要

記録票の仕分作業の人手が不要
(シルバー人材6名+職員)

⇒ **作業時間削減・経費削減**

記録票の紛失の恐れがなくなった

※ スマホ紛失対策は必要

定期巡回は毎日1時間の余裕ができた

課題

定期巡回など、1日複数回派遣は、事前登録の業務量負担が大きい

職員が見に行かないと確認ができない(サービス内容・交通費・休暇)

入力で済む事柄と電話しなくてはいけない事柄の選別

不適合のアラートが出ない(要改修)

高齢化したヘルパーへの指導が困難
(半日かかり+何回も個別指導)

内部連携に留まっている

ICT導入の効果

人しかできない業務に特化できる
責の役割が明確化され、
成長が促される

リアルタイム
で把握

ミス減少

経費削減

業務負担
軽減

質の向上

ICT導入の効果

➤ リアルタイムの利用者の立体的理解

- 毎日確認できるので、月末まで訪問状況がわからないことがなくなった
 - ⇒ 活動の見える化

➤ 業務負担軽減

- 時間と経費を7割以上削減
- 月末の請求業務が8割削減
 - ⇒ 残業が減り、若い人材が辞めなくなった
- 活動確認・指示・キャンセルを一覧で見られる ⇒ 一括管理できる
- ファイルに綴る手間なし
- ファイル持ち出し不要
- 過去の記録が見られる
- 写真を送れる
- 検索しやすい
- 引継ぎが楽
- 事務所に寄る必要なく、リアルタイムで伝達できる
 - ⇒ 電話の行き違いなく、無駄な電話の時間が削減
- 在宅勤務できる

ICT導入の効果

➤ 経費削減

- 記録用紙の削減
- 書類の突合の手間が不要
- 書類を保管する倉庫が不要

➤ ミス減少

- 派遣漏れなし
- シフトミスに気付ける
- 紛失がなくなった

➤ 質の向上

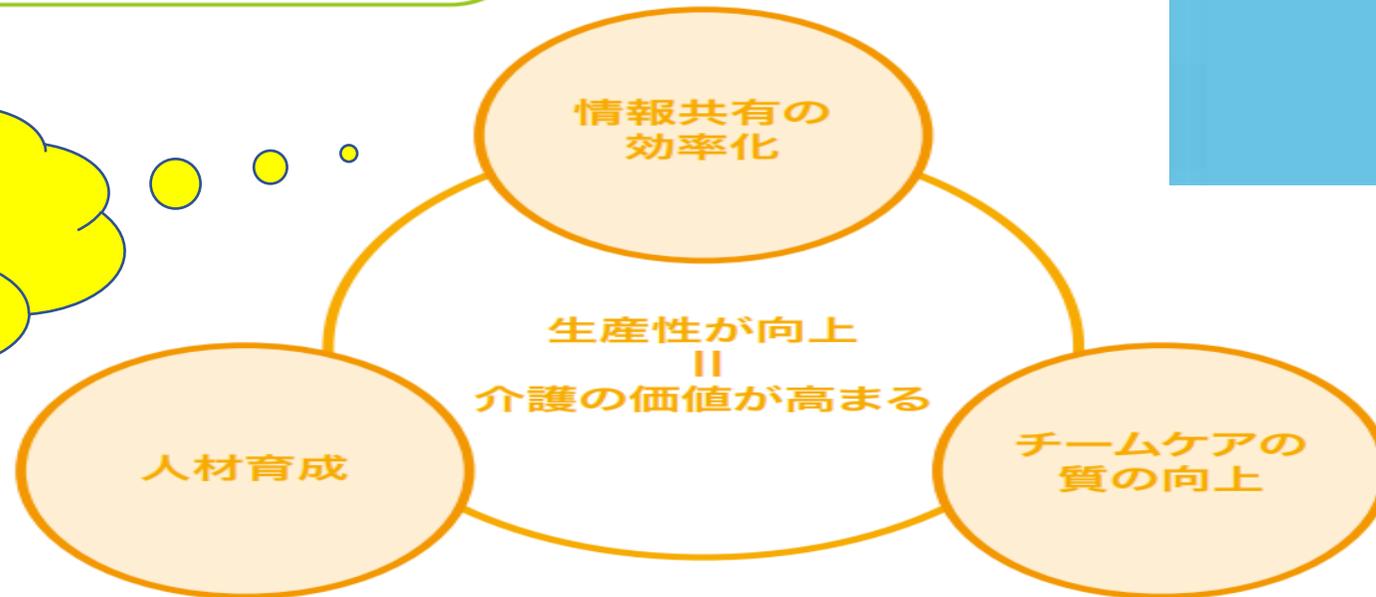
- ヘルパー同士の記録が見れる ⇒ 情報共有
- 記録力向上
- 仲間意識
- 孤独感解消
- 活動前に記録を読んで利用者を把握できる
- 情報を自分から取りに行ける
- 家族にも自動送信できる
- ヘルパーの遅刻や利用者から遅刻と言われても遅刻していない証拠がある
⇒ 利用者・ケアマネから信頼される
- 特定事業所の指示・報告ができる
- **人しかできない業務に特化 ⇒ 責の役割が明確化され、成長が促される**

介護保険最新情報Vol.1089

- ・ 介護現場における生産性向上の取組
- ・ ICT の導入促進に向けた資料について
「生産性向上に資するガイドラインR2年改訂版
R4一部改訂」

生産性向上に取り組む意義

間接業務を
減らす！



より良い職場・サービスのために
今日からできること
(業務改善の手引き)

厚生労働省 健康局

上位目的

介護サービスの
質の向上

人材の定着・確保

働く人のモチベーションの向上
楽しい職場・働きやすい職場作り

「介護サービスにおける生産性向上」

- ▶要介護者の増加やニーズがより多様化していく中で、業務を見直し、限られた資源(人材など)を用いて一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける。
- ▶改善で生まれた時間を有効活用して、利用者に向き合う時間を増やしたり、自分たちで質をどう高めるか考えていくこと。

生産性向上に
取り組む意義

人材育成

チームケアの
質の向上

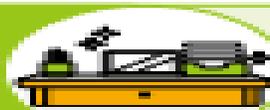
情報共有の
効率化

介護の価値を高める

介護サービスにおける生産性向上のための7つの取組

介護サービスにおける生産性向上の取組は下記の7つに分類することができます。

1 職場環境の整備



5Sの視点で安全な介護環境と働きやすい職場を整備する。

P.65

2 業務の明確化と役割分担



業務の明確化と役割分担の見直しにより、ムリ・ムダ・ムラ(3M)を削減して、マスターラインを再構築する。

P.72

3 手順書の作成



理念やビジョンをもとに職員の経験値、知識を可視化・標準化することで、若手を含めた職員全体の熟練度を養成する道筋を作る。

P.81

4 記録・報告様式の工夫



項目の見直しやレイアウトの工夫などにより、情報を読み解きやすくする。

P.91

5 情報共有の工夫



ICTなどを用いて転記作業の削減や、一斉同時配信による報告申し送りの効率化、情報共有のタイムラグの解消を図る。

P.105

6 OJTの仕組みづくり



日常業務を通じた人材育成の仕組みを作る。職員の専門性を高め、リーダーを育成するため、教育内容の統一と指導方法の標準化を図る。

P.123

7 理念・行動指針の徹底



組織の理念や行動指針に基づいて、自律的な行動がとれる職員を育成する。

P.130

生産性向上の取組に新しい技術を導入することも有効です。例えば、情報共有の工夫にはICTの活用が考えられ、また、記録・報告様式の工夫と組み合わせることによって、文書量削減の効果も期待できます。

- 間接業務における課題
- 問題解決に向けたテク/ロジーの活用状況
テク/ロジーのニーズ

間接業務における現状

テクノロジーの活用状況

間接業務における課題

テクノロジーのニーズ

人材募集

現状

- ・ ホームページに採用専用サイト
- ・ ハローワーク
- ・ 有料・無料求人サイト

テクノロジーの活用状況

- ・ ホームページの採用専用サイトから電子的に応募できる

課題

- ・ システム上の応募は、返信がなかったり、面接当日のドタキャンが多い。
- ・ 応募者の働き方と募集者の採用条件のマッチングは、面談しないとわからないことが多い。せっかくの応募者を、法人内で有効に活用できていない。

テクノロジーのニーズ

- ・ 応募者を取りこぼすことなく、法人内でマッチする職場を選定できるソフト

労務管理

現状

- ・ 専用システムによる管理
- ・ 賃金はアウトソーシング

テクノロジーの活用状況

- ・ 専用システム

課題

- ・ 非常勤が多く、働き方が多様。
- ・ 交通費は通勤費と活動交通費など複雑。
- ・ 移動賃金など、賃金体系が複雑。
- ・ 扶養範囲内での就労の管理が必要。
- ・ 介護報酬請求と賃金の連動はできているが、月遅れの過誤再請求が煩雑。

テクノロジーのニーズ

- ・ 多様な働き方に対応したシステム
- ・ 介護報酬請と賃金に完全に連動したシステム

サービス依頼・提供票の取り込み

現状

- ・ 依頼書が統一されていない
- ・ システムが統一されていない

テクノロジーの活用状況

- ・ メール程度の活用以外、ほとんどなし
- ・ 法人内では提供票のメールによる取り込み ⇒ 4月より国の連携システム

課題

- ・ 電話での依頼がほとんどで、利用者情報はケアマネジャーによりまちまちのため、情報不足のこともある。

テクノロジーのニーズ

- ・ ケアマネジャーの『課題分析標準項目』の23項目のような、利用者情報の標準化をした統一システムによるサービス依頼

契約

現状

- 紙ベース

テクノロジーの活用状況

- なし

課題

- 高齢者・障害者に電子化した契約書が受け入れられない場合、紙ベースと併用する必要があり、煩雑になる。

テクノロジーのニーズ

- 高齢者・障害者が受け入れられやすい電子契約システム

アセスメントから訪問介護計画

現状
テク

ノロ

シ
の活

用状
況

課題

テク

ノロ

シ
の

二

- 専用システム

- 専用システム
- アセスメントはケアマネジャーと共有できる

- ケアマネジャーの『課題分析標準項目』の23項目のような、利用者情報の標準化ができていない。 ・ LIFE対応していない。
- アセスメントと訪問介護計画の連動性はない。 ・ 評価システムがない。
- ケアプランを取り込めないため、ケアプランとの連動性がない。
- 身体と生活の区分けによるサービスコード選定の複雑さ

- ケアプランからアセスメント、訪問介護計画の一連の連動性を持たせる。

ヘルパー選定・シフト調整

現状
課題

- ・ 専用システム ・ 紙ベース

課題
課題

- ・ 専用システム

課題
課題

- ・ 非常勤が多く、働き方が多様。 ・ 扶養範囲内での就労の管理が必要。
- ・ 多能工化できていないため、マッチングが困難。
- ・ 依頼がランダムに入るため、エリアを集中できず、非効率な移動になり、ヘルパーから断られる確率が高まる。
- ・ ヘルパーの就労可能な日時が常に変動していて、現状の把握が難しい。

課題
課題

- ・ サービス内容とヘルパーのマッチング+効率的な移動ルートを導き出すAI
- ・ ヘルパーの就労可能な日時が常時更新できるシステム
- ・ ヘルパー発信によるヘルパー空き情報アプリ。

利用者からの電話

現状

- 紙媒体のケースファイル

テクノロジーの活用状況

- メール程度でほとんどなし

課題

- 日々更新していないと、最新情報になっていない。
- 職場に行かないと見れない。

テクノロジーのニーズ

- 外出先でもデータ送信できる。

ヘルパーとの連携(連絡・調整)

現状

- 電話
- メール

テクノロジー ロー の活用 状況

- メール配信
- 災害時の安否確認

課題

- メールの見落としがあるため、「メール見た？」と電話が必要になってしまう。
- 直行直帰のヘルパー同士の情報共有が少ない。

テクノロジー ロー のニーズ

- メール・チャットによる一斉配信と双方向のやりとり
- 音声入力・自動送信
- 既読の確認ができる

記録

現状

入口

シートの活用状況

課題

テクノロジー

シートの

の

- QRコードから読み取り、スマホで入力(音声入力も併用)
- 障害制度は、紙ベースに押印またはサイン

- システムに経過記録を入力
- ヘルパーからの入力の経過記録への取り込み

- 障害制度は未だに紙ベースに押印またはサインが必要
- 制度による縦割りの弊害で、同じようなことを何度も重複して行い、業務負担となっている。
- 紙ベースの保存期間の長さや保存場所の確保とそれによる経費負担。

- 記録システム
- 音声入力
- 自動送信

実績確定と請求業務

テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー
の
現
状
ノ
ロ

- ・ システム ・ 伝送 ・ ケアマネジャーへの報告は紙ベース

テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー
の
活
用
状
況

- ・ システム ・ 伝送

テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー
の
課
題

- ・ ヘルパー賃金へ連動はしているが過誤再請求は精算
- ・ ヘルパーの入力ミスを見つけにくい
- ・ 訪問介護計画と連動していないため、間違いを発見しにくい
- ・ 自機関内ではシステムで完結できても、ケアマネジャーへは紙ベースで報告

テ
ク
ノ
ロ
ジ
ー
の
課
題

- ・ ヘルパー賃金へ過誤再請求も連動する
- ・ ヘルパーの入力ミスを防げるシステム
- ・ 訪問介護計画との連動からアラームが出る
- ・ 実績の日々取り込み ・ ケアマネジャーへの実績送信

会議・研修会

現状

- ・ 対面
- ・ 書面(感染時期)

テクノロジーの活用状況

- ・ ヘルパーに関しては、なし

課題

- ・ ヘルパーへの携帯or個人携帯へのアプリ導入が必要。
- ・ ヘルパー宅のWifi環境
- ・ 経費負担
- ・ 制度上で対面orテレビ電話でなければならないなどの制約がある。

テクノロジーのニーズ

- ・ オンライン開催
- ・ オンデマンド
- ・ eラーニング

テクノロジーの導入・活用の円滑化に向けた取組

トップの決意

システム導入担当・
導入計画

ヘルパーには
準備段階から関
わってもらおう

業務の棚卸
ITと人の業務仕分
け

利用者・家
族への説明

ヘルパーには
半年前からスマホを
貸与し、慣れておい
てもらおう

先行導入
試験導入

法人単位・中小の連携・組合・
市町村単位の取組
(様式の統一など)

マニュアルは、業者任せでなく、
職員が作成

テクノロジーの導入・活用の円滑化に向けた課題

ICタグがQRコード
だと複製できてしまう

システム障害

システムに頼りすぎによる問題の防止
(事例：センサー故障で孤独死)

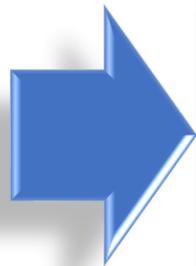
責に期待される役割

責の**本来業務**の理解



ITと人の業務の
仕分けの理解

テクノロジー導入の
意義の理解



テクノロジー導入後の
世界を思い描ける力

テクノロジー技術を
学ぶ姿勢

ヘルパーへの
諦めない指導

ICTへの要望

開始アラート

派遣漏れアラート

他のソフトと連携

できること

操作量の少なさ

送信日時を指定

できると良い

参考：「居宅サービス事業所におけるICT機器・ソフトウェア導入に関する手引き」 厚生労働省 <https://www.mhlw.go.jp/content/12305000/000535305.pdf>

- ①導入計画の作成：導入する対象事業所やサービスを選定、スケジュールの作成
- ②導入するICT機器・ソフトウェアの検討：製品の機能、導入の効果、価格体系、サポート・メンテナンス、セキュリティ、利用しやすさ等
- ③業務フローの見直し：導入前後で何が変わるか、関係者にどのような影響があるかを整理
- ④実施体制の整備：導入の意義の共有、実施体制・役割分担の整理
- ⑤関係者への説明：職員、利用者・家族、他のサービス事業所など、関係者それぞれへの説明
- ⑥職員への研修：現場責任者、介護職員それぞれへの説明
- ⑦効果検証：ICT導入による目的が達成されたかを検証

訪問介護の役割と専門性

- お豆腐がいくつも冷蔵庫に入っていることを知っている
⇒ こんなサービスは他にない
- 点のサービスなのに、訪問時に不在でも居場所を知っている
⇒ 家の中の仕事だが、家の外のことも知っている



- 生活に密着していて、利用者の生活の**全体像**を知っている
- デイサービスに毎日行っても自宅での生活を支えることはできない
- 在宅介護にはヘルパーはなくてはならない存在

AI

ヘルパー

ビッグデータ

➤ 予後予測

共感 ➤ 意欲の喚起

➤ 自立支援

- 医師・看護師・ケアマネジャー・ソーシャルワーカー(ヘルパー)・小学校教諭(中学校教諭はAIにとって代われる)は、AIにとって代われない
- AIには「共感」はない ⇒ 「共感」がないところに「意欲の喚起」はない
「意欲の喚起」のないところに「自立支援」はない
- アメリカのヘルパーは「花束を持って行く」
- 喜楽苑の介護職は「オムツの替え屋やない、幸せを作る仕事と想ってます」

コロナ禍から見える訪問介護の利用者像

入浴介助

デイサービスへ

ヘルパーは
デイの送り出し

利用控え

軽度者と家事援
助が多かった

ひょっとして、
過剰サービス？

ヘルパーが
必要な利用者

ヘルパーの使命
感とモチベー
ションは高い

巡回サービス
認知症

訪問介護の利用者像

- コロナ禍前から、ヘルパーの利用者像に変化があった。
 - ⇒ 以前のような「排泄介助・食事介助・入浴介助」などの身体介護は、デイサービスへ移行し、デイサービスの送り出しと掃除がメイン
- 生活援助は単なる家事の作業か？ ⇒ **環境整備**と考える
- コロナ禍による利用控えで垣間見えた、軽度者への過剰サービス
- ヘルパーがなければ生きていけない利用者が、本来の訪問介護の利用者像ではないか？
 - ⇒ 巡回サービスの利用者・認知症の利用者
- その利用者へのヘルパーの使命感とモチベーションは高い。
- コロナ陽性でも、ヘルパー自らが訪問するべきと言っている。
- 担い手不足・担い手高齢化の中、本来の訪問介護の利用者へ選択・集中せざるを得ないし、選択・集中するべき？

訪問介護の担い手

ヘルパーの業態

滞在型ヘルパー

短時間巡回型ヘルパー

ヘルパーの技術

自立支援含む家事援助中心

身体介護中心

雇用形態

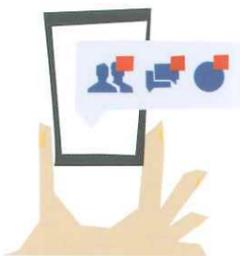
非常勤(扶養範囲内)

常勤

身体介護中心の巡回型ヘルパーは、
常勤志向の若い世代を取り込める

ICT導入により サ責とヘルパーの負担を大幅削減 ケアの質向上にも役立つ

横浜市旭区にあるケアセンターみなまきみらいは、居宅介護支援、訪問介護、夜間対応型訪問介護、訪問看護、定期巡回・随時対応型訪問看護看護、デイサービスと6種類の在宅サービスを提供している。2年前からICT化に着手し、業務内容の効率化に大きな変化をもたらした。現場での導入効果について、所長の新井仁子さんを含め、滞在型・巡回型の現場の管理者・サ責である成川直美さんと今津一恵さんに取材した。



従来時間がかかっていた業務が 一気に効率化

ケアセンターみなまきみらいの母体である横浜市福祉サービス協会は、昭和56年に民間のヘルパー派遣団体として発足した「ホームヘルプ協会」と横浜市が協働し昭和59年「財団法人横浜市ホームヘルプ協会」として設立。その後、平成9年に「社会福祉法人横浜市福祉サービス協会」に引き継がれ、在宅介護サービスをはじめ、特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、高齢者用賃貸住宅への生活援助員派遣事業等幅広い介護サービスを提供している。

同協会では令和3年4月より、ICT導入に着手し、ケアセンターみなまきみらいでも取り組みをスタートさせた。活用の実態は表1に示すとおりだ。ソフトを動かすシステムは、法人が契約しているベン

ダーに、記録システムを新たに開発してもらい、既存の介護報酬請求ソフトと連動させた。補助金申請はしていない。

現場では、全ヘルパーにスマホを貸与し、サービス提供記録・サ責やヘルパー間の申し送り・連絡・報告等に活用している。

「今までは紙ベースで個別記録を作成していたので、訪問を終えてから事務所に戻り、作業をしなければなりませんでした。でも、現在は現場で記録を入力するので『書く』作業がなくなり格段楽になりました」と話すのは、訪問介護看護あさひ（以後、定期巡回）の管理者（サ責兼任）の今津一恵さんだ。サ責4人、常勤ヘルパー8名に非常勤2名を加え14名で約30人の利用者宅を回る。日勤（6時～15時）・遅番（13時～22時）・夜勤（17時～10時半）でローテーションを組み、1日のサービス回数も多いの

で、記録時間の短縮は大きいという。

さらに滞在型のヘルパーセッション旭（以後、滞在型）（サ責6名、常勤4名、登録70名）の管理者（サ責兼任）である成川直美さんも「登録ヘルパーが多く、毎月の請求前に記録を整理して実績を手作業で上げるため、大変でしたが、今はヘルパーがログインして利用者宅の二次元バーコードを読み取ることで即座に記録と実績が入力できるようになりました。瞬時にサ責とも情報共有できるようになったので、負担が減っています。移動のための交通費も都度入力できるので便利です。私たちサ責としても、導入前は月末月初の請求時に残業が必須でしたが、今はそれもなく余裕が生まれました」と話す。

粘り強いサポートで ヘルパーの苦手意識を変える

滞在型ではサ責が現場のサービスに入らず、本来業務であるマネジメントや人材育成に専念する。「ヘルパーそれぞれに予定が活動前日の昼1時に1回送信され、既読がつかないと自動的に活動当日の朝7時にもう1回、それでも未読の場合は貸与したスマホに直接サ責から電話連絡をするので、派遣もれが少なくなりました」（成川さん）。

導入にあたっての障壁の一つに現場のヘルパーの拒否反応がよく挙げられているが、定期巡回ではデジタルネイティブの20代がスタッフの大半を占めるので、まったく問題なくスムーズに移行した。一方で平均年齢が65歳を超える滞在型では、当初抵抗感もあったが、サ責が粘り強く細やかにサポートした結果、全員が使いこなせるようになっていた。たまに入力ミス（特に音声入力の場合）もあるが、赤字で表示されるのでチェックが楽だ。

「我々管理職が一番心配したのは、スマホ導入で辞める人が増えるのではないかとということでしたが、だれも辞めませんでした」と所長の新井仁子さんは言う。利用者からの理解も深まり、当初は壁に貼られた二次元バーコードを見て「変なお札が貼ってある」と怖がっていた人も今では、入室の際の操作に慣れていないヘルパーに操作を教えるほどだ。

特定事業所加算取得と 職員の負担軽減が目的

導入のきっかけは、特定事業所加算取得の要件である「利用者に関する情報若しくはサービス提供にあたっての留意事項の伝達…」を満た

すために、紙ベースで伝達していたものを、ICT導入を機に、ペーパーレスにしたことだ。

さらに「職員の負担軽減も大きな目的でした」と新井さん。「うちでは利用者数も多いため、請求時期は書類を整理するため、臨時に人を雇わないと追いつかないほどでした。サ責の負担の大きさが悩みの種でした」が、これも解消されている。

導入による効果を整理してみると、入室の確認ができる／記録票の印刷が不要になった／ヘルパーとの記録票の送受信も不要／記録票の仕分け作業が不要に／記録票紛失のリスクもなくなった／定期巡回は1日1時間の余裕ができた等が挙げられる。その結果、活動が「見える化」され、業務負担軽減（時間と経費を削減／請求業務の8割を削減／ヘルパーの一括管理／引き継ぎ・申し送りが楽／無駄な電話の時間が削減／派遣もれの防止等）にもつながった。

「今まで1日かけて行っていた業務が、パソコンのボタン一つで一括送信できるので、今後の訪問介護事業継続のカギは、ICT化にかかっているとも言えるでしょう。これによりケアの質の向上にもつながり、ひいては利用者満足度アップにも結びついていくと思います」（新井さん）。

表1 横浜市福祉サービス協会のICT化の現状

業務内容	導入前（令和3年3月まで）	導入後（令和3年4月以降）
契約	紙ベース	紙ベース
アセスメント	エクセル（独自様式）	システム
訪問介護計画	エクセル（独自様式）	システム
サービス提供記録	紙ベース	システム
請求	システム サービス提供記録と照合	システム サービス提供記録と照合
ヘルパーとの連絡	携帯電話貸与 電話がメイン+メール	スマホ貸与 メールがメイン+電話
会議（開催できないとき）	電話がメイン+メール 資料は郵送	メールがメイン+電話 資料は郵送

株式会社和妍

I C T 機器を活用した
居宅介護サービスの
効率的な運営と効果

2023年11月17日



経歴

「経歴」

介護支援専門員 市部会長

株式会社和妍 統括責任者

「職種」

准看護師・介護支援専門員

スマート介護士・システムエンジニア



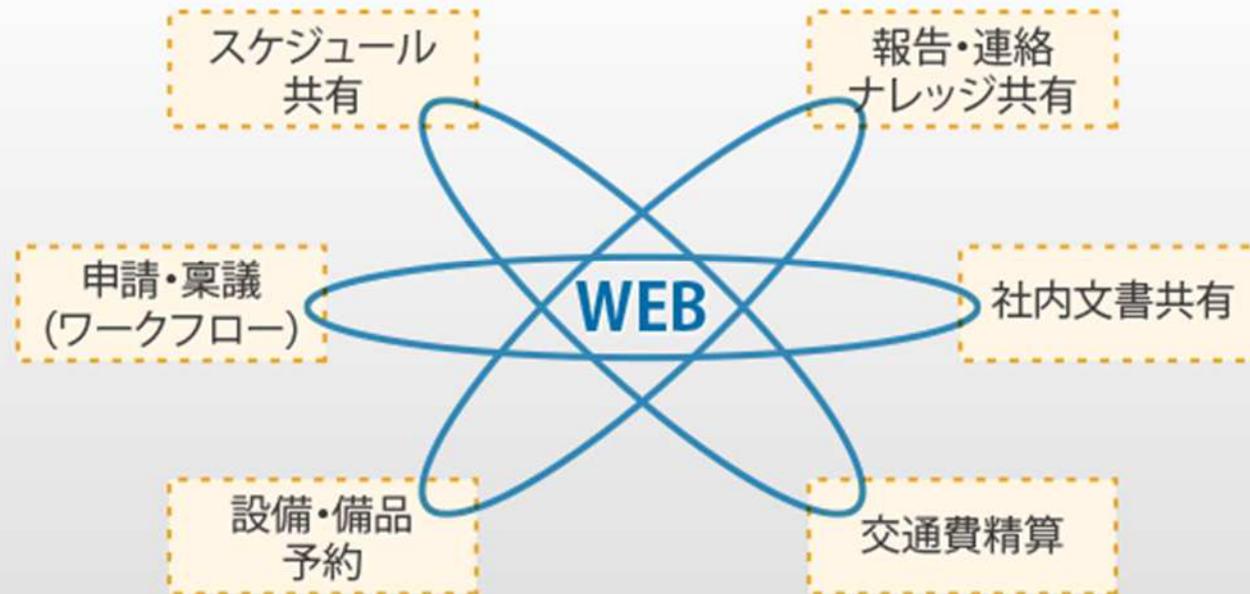
01

ICTとは

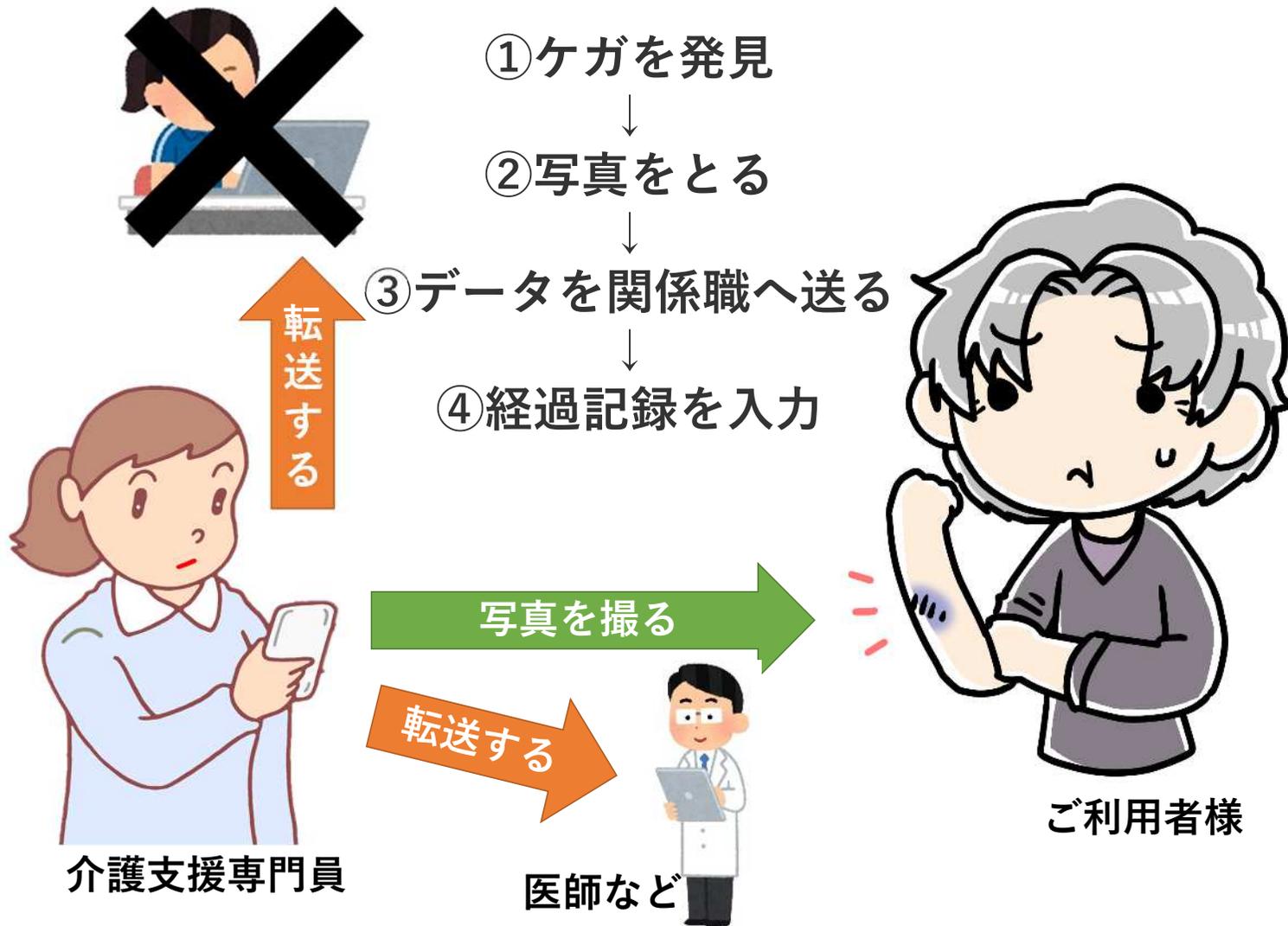
ICTとは

通信技術を用いて、情報の共有を行う方法

社内情報にどのデバイスでもどこからでもアクセス可能



ICTの活用方法



その他のICT活用例



- リモートによる担当者会議
- サービス事業所の検索・紹介
- AIによるケアプラン作成
- 電子サインによるペーパーレスなど



これらはすべて、離れた場所から、通信技術を活用した、情報の共有方法であり、これをすなわち「ICT」といいます。



～ご利用者様に寄り添う時間を増やす～



02

わけんの
在宅向けICT

医師が取り入れ大絶賛
気軽に報告できるツール

MCS (エムシーエス)

アプリ費用：基本無料
スマホ代：職員負担
通信費：別費用



全国医師会多数採用!

医療介護現場がリアルタイムに つながる多職種連携ツール

連絡の手間を短縮、もっと患者・利用者と向き合える

メディカルケアステーション（MCS）は、全国の医療介護の現場
でご利用いただいている地域包括ケア・多職種連携のためのコミュ
ニケーションツールです。

無料新規登録

すぐ分かる！MCS紹介動画▶



- ・ その場で写真や動画を送り医師や薬剤師へ映像と一緒に報告可能
- ・ 緊急でなければメッセージとして報告可能
- ・ 医師だけでなく多職種への連絡ツールとしてケアマネが活用

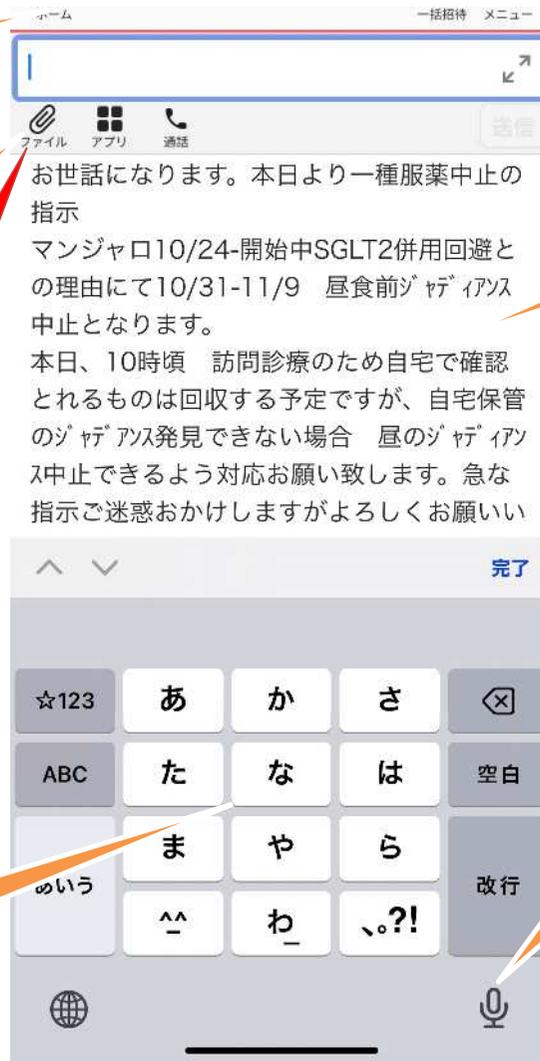


個人別に
送ることが可能

画像や動画やPDF
送信可能

ファイル数が多い場合は
別課金が必要

使い慣れた入力画面



医師や薬剤師への
コメントに返答可能

音声入力可能



施設やサービス探しを
経験で行う時代は終わる

サービス検索 サイト

アプリ費用：無料
スマホ代：別費用
通信費：別費用



山口県介護情報公表制度



山口県

介護事業所・生活関連情報検索

介護サービス情報公表システム

文字サイズの変更

中
大
最大

全国版トップ > 山口県

- ▶ 公表情報の読み解き方
- ▶ 介護保険について
- ▶ このホームページの使い方
- ▶ アンケート
- 未掲載の事業所について
- 全国トップへ戻る
- 介護サービス
概算料金の試算
- 重要

!

スマートフォン
アプリについて
のお知らせ

介護事業所ナビ

介護事業所を検索する

地域包括支援センター を検索する

住まい（サービス付き 高齢者向け住宅） を検索する

生活支援等サービス を検索する

有料老人ホーム を検索する

認知症に関する相談窓口 を検索する

医療機関 を検索する

薬局 を検索する

02

ICT

条件付き検索サイト

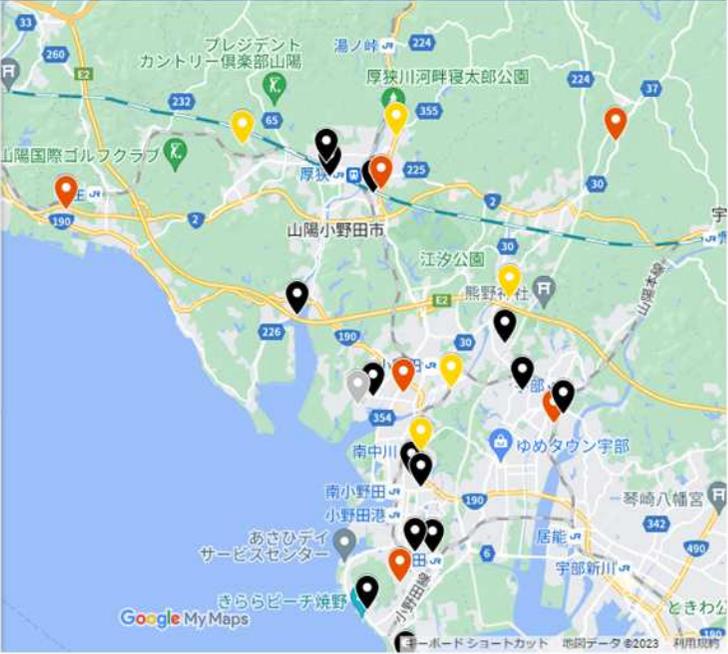
施設検索 短期入所 介護サービス一覧 訪問歯科 福祉用具 ケアマネ 有料詳細 有料医療 弁当・宅配

小野田有料詳細 ★

表示回数 2,660 回
公開: 10月20日

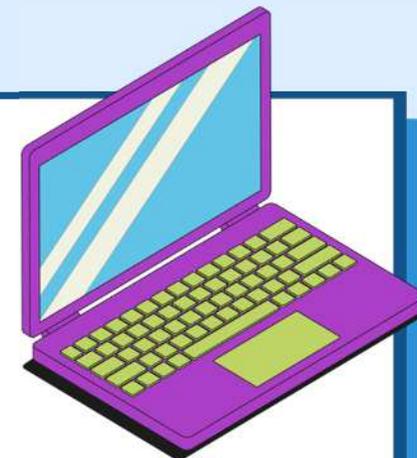
- 生活保護
- 非対応
- 生活保護対応可能
- 応相談
- その他/データなし

- 入居金
- 料金
- 要支援対応
- 居室内トイレ
- その他



Google My Maps

キーボードショートカット 地図データ ©2023 利用規約



02

ICT

福祉用具別カタログ

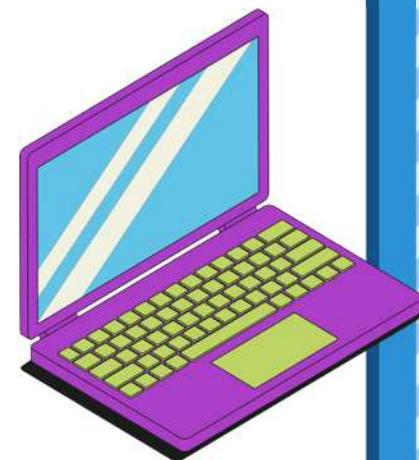


- 施設検索
- 短期入所
- 介護サービス一覧
- 訪問歯科
- 福祉用具
- ケアマネ
- 有料詳細
- 有料医療
- 弁当・宅配

福祉用具



※山陽小野田市では取り扱いのない商品がありますので、ご確認ください。
※料金は福祉用具事業所によって異なりますので、ご参考程度にしてください。



福祉用具別カタログ



歩行器

歩行器

歩行器

歩行器は、歩行の自立や歩行訓練に活用されるだけでなく、姿勢のバランスを安定させ、下肢への負担を軽減することで、転倒防止にも役立ちます。

歩行器の種類と使い方

イス付き歩行器

●屋内・屋外用

フレームの下端に車輪やイスの付いた歩行補助具で、ハンドルを持って操作します。歩行訓練より、主に歩行の補助として使われます。

四脚二輪(四輪・六輪)歩行器

●屋内用

四脚フレームに車輪のついたものや、体を囲むフレームにU字型の肘置きがついたものなどがあり、比較的軽力で歩行することができます。

電動歩行器

●屋外用

傾斜センサーとモーターが搭載されている歩行器。平地や坂道などの路面状況を検知し、移動を安全にアシストします。ご使用にあたっては、安全のため使い方をご理解いただくことが重要です。

シンフォニー-SP [国製作用]

重量 5.9kg

コンパクトで使いやすい歩行車

花柄

ブルー

275円

シンフォニー-SPスリム [国製作用]

重量 4.9kg

小回りのきく、とてもスリムな歩行車

花柄紺

オレンジ/BR

275円

シンフォニー-AR [国製作用]

重量 6.8kg

肘置きがやわらか、ウレタン素材
安心して身体をあずけることができます

お風呂内へ入

排泄する

移動する

見守り

お風呂内へ入

お風呂内へ入

排泄する

移動する

見守り

お風呂内へ入

02

ICT

事務所に資料を取りに行くムダをなくそう



新規利用者宅へ行き、資料もなしに話をする



別日に資料をもってテイク体験や福祉用具提案



別日にテイク体験や福祉用具納品



新規利用者宅へ行き、資料を提案し、その場で
テイク体験や福祉用具提案を行う



別日にテイク体験や福祉用具納品



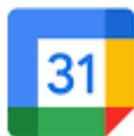
日々の予定管理は
共有する時代

カレンダー 共有アプリ

アプリ費用：無料
スマホ代：職員負担
通信費：別費用



カレンダーアプリにて スケジュール共有



Google
カレンダー



スマートフォン標準のカレンダーを職員と共有することにより、予定が立てやすい



- ・通所介護の体験や利用者休みなど
- ・訪問介護の臨時や休みなど
- ・ケアマネの担当者会議や新規訪問など

「デメリット」

- ・共有の初期設定が必要
- ・iPhoneカレンダーはAndroidでは使えない
- ・もともと私用で使っている人は見にくいかも



契約書もペーパーレス時代

タブレットと電子ペンで

電子サインの導入

- アプリ費用：無料
- スマホ代：職員負担
- 通信費：別費用



やりにくいと
ご利用者の評価は悪い

どこでもいつでも
契約書がとれる

ペンと同じような
書き心地

タブレットさえあれば
仕事ができる時代



令和 年 月 日

通所介護・予防給付型(通所介護相当サービス)の提供にあたり、利用者に対して契約書及び本書面に基づいて重要な事項を説明しました。

事業者 株式会社 和妍

所在地 山形県 田新生2丁目8-10

名称 デイサービスわけん

説明者 氏名

私は、契約書および本書面により、事業者から通所介護・予防給付型(通所介護相当サービス)についての重要事項の説明を受け同意しました。

利用者

住所 山口県

氏名 山下 聡之

代理人(身元引受人)

住所

氏名

時代はスマホ入力

経過記録入力 ソフト

本体リース : 6万円/年

スマホ
ライセンス : 2万/年

スマホ代 : 別費用

通信費 : 別費用



システムエンジニア有志による 介護職が中心となった独自システム

機械やシステムを入れることで費用がかかる



導入しても売り上げは変わらない



人件費の削減を行うと、職員へ負担がかかる



外部に委託するなら自分で作ろう



02

ICT

経過記録



書込

基本	バイタル	排泄	食事
清拭・入浴	移動介助	起床就寝	医療
自立支援	清掃掃除	洗濯援助	整理整頓
	調理援助	買い物援助	

- 居室掃除
- トイレ掃除
- 卓上掃除
- Pトイレ掃除
- 浴室掃除

続けて記録

報告サービス種類: ケアマネ 通所介護 訪問介護

時間:

記録者: 山下聡之

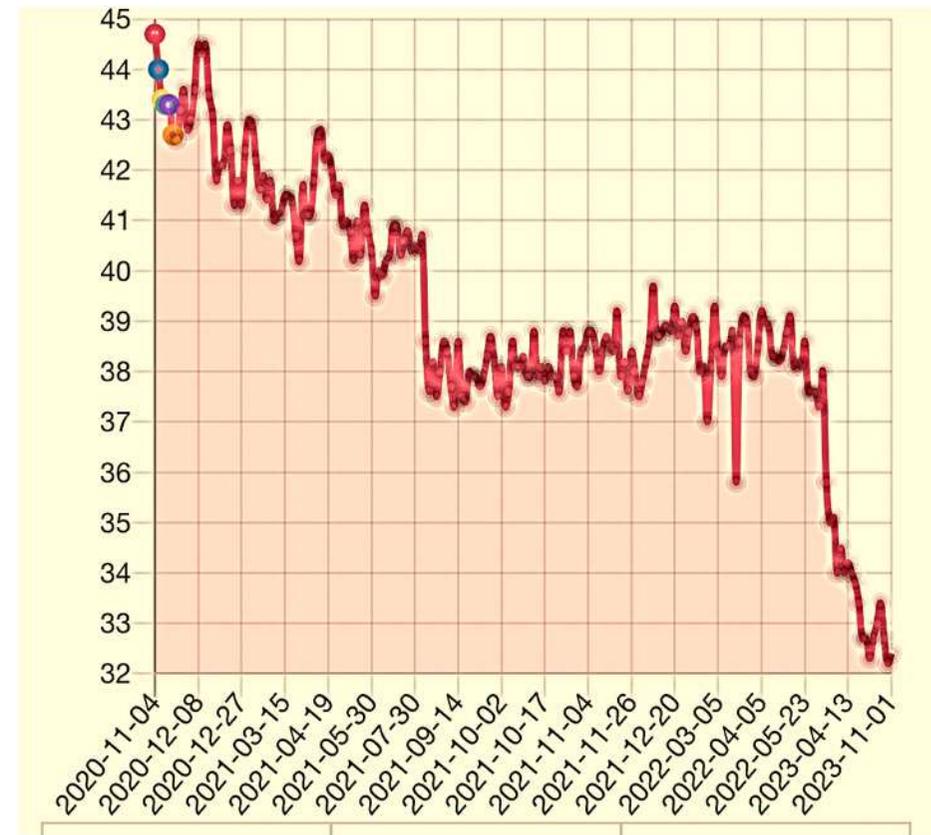
利用者名: 選択してください

本文(alt+V):

書込

機能紹介

- 経過記録（音声入力可能）
- 体重測定（グラフ表示）
- IN/OUT（グラフ表示）
- 担当者会議記録
- 入所予約フォーム/照会
- おむつ交換チェック
- ヒヤリハット
- インシデント
- 有給届
- おむつ等注文・発注
- 風水害等会社マニュアル



次世代入カツール

Apple Watch 経過記録入力

本体価格 : 6-9万円

システム : 無料

スマホ代 : 別費用

通信費 : 別費用



アップルウォッチ

本体が6万-9万と高額

音声入力に慣れが必要
文章を考えながらしゃべる
技術は難しい

- ・ 訪問後、モニタリング記録は車内で終了するため、事務所に戻る必要がなくなる。
- ・ 電話などの経過記録もPCよりも音声のほうが早い



運転中にしゃべるだけで
経過記録が終了する

音声入力可能
誤変換がほぼなし



ご清聴
ありがとうございました



システムにご興味ありましたら
お気軽にご連絡ください。

TEL：0836-39-7773

Mail:satoshi020210@yahoo.co.jp

